

## IV. 中高生(本人)調査

### IV. 1 中高生とその家族の状況

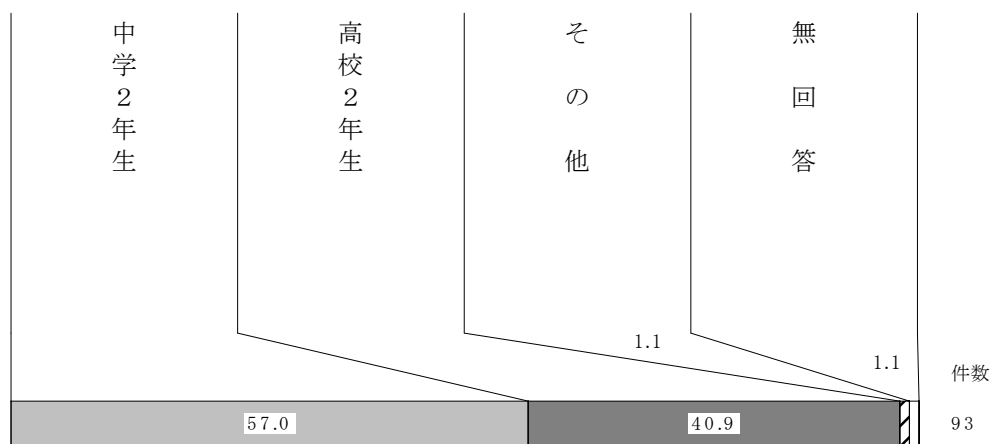
#### ① 中高生本人と家族

■2人または3人兄弟姉妹の中高生が多く、子どもが3人の世帯は就学前児童と小学生の世帯よりも割合が高く、4・5人家族が多くを占めている。

■父親・母親とも40歳代が大半を占めるが、父親の方が年齢層は高い。両親の職業は、父親は給与生活者か自営業が多く、母親はパート・アルバイトが多いことから、共稼ぎ世帯が73%となっている。

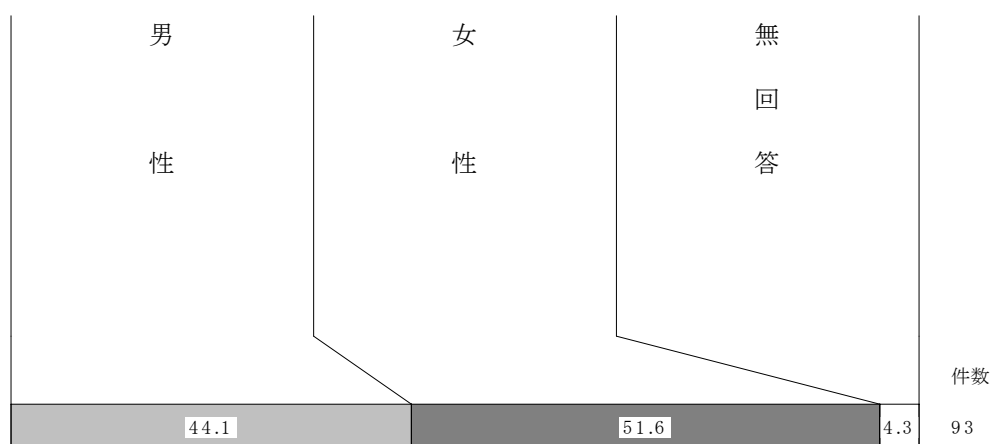
学年等 ■回答者は「中学2年生」が57%とやや多く、「高校2年生」が41%である。

問1 学年等 [%]



性別 ■「男性」は44%、「女子」が52%で、「女性」がやや多い。

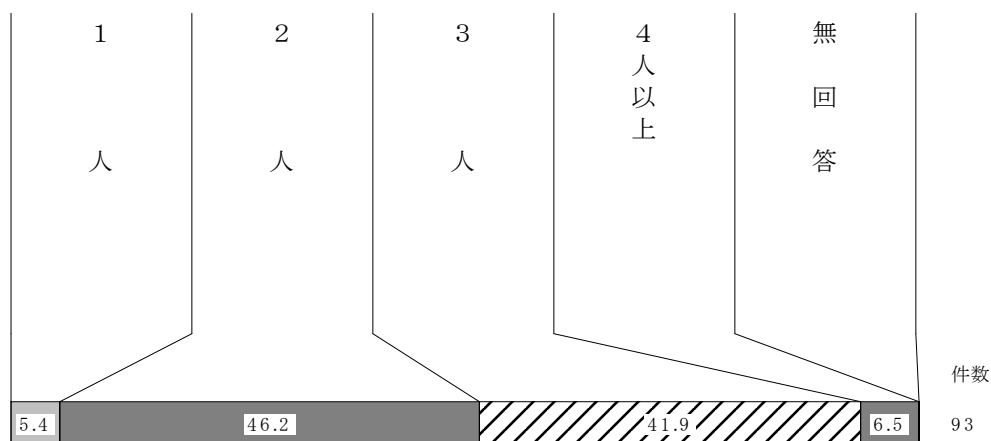
問1 性別 [%]



中学2年生、高校2年生ともに、女性の回答者がやや多い。

世帯の子ども数 ■ 「2人」が46%、「3人」が42%で、2つの回答で大半を占めており、平均の子ども数は2.49人である。

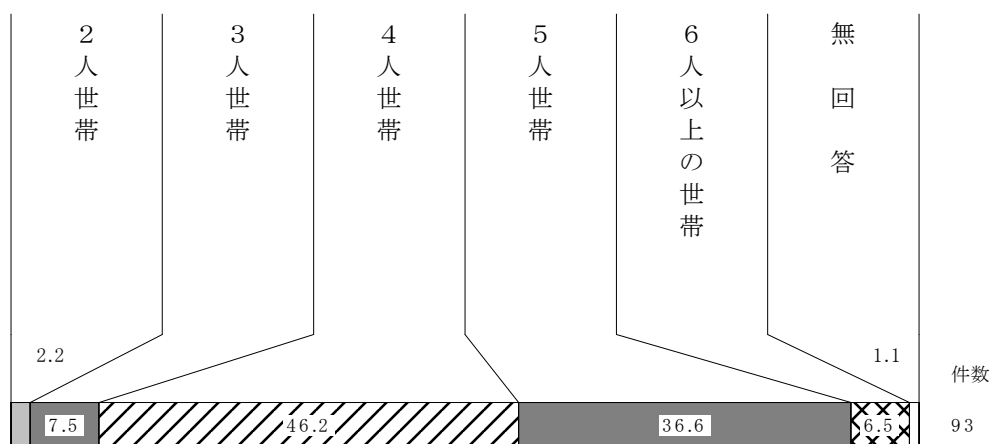
問2 世帯の子ども数 [%]



中学2年生は、「2人」兄弟姉妹の割合が55%、高校2年生は「3人」兄弟姉妹の割合が53%と高い。また、男性の方が、「3人」兄弟姉妹の割合がやや高い。中央地区と棚尾地区の回答者は、子どもが3人の割合がそれぞれ50%を超えて高い。

世帯人数 ■ 「4人世帯」が46%と最も多く、「5人世帯(37%)」が続き、4・5人の世帯が全体の83%である。子ども数は2・3人が多いことから、両親と子ども2・3人の世帯が多いことがうかがえる。

問3 (1) 世帯人数 [%]

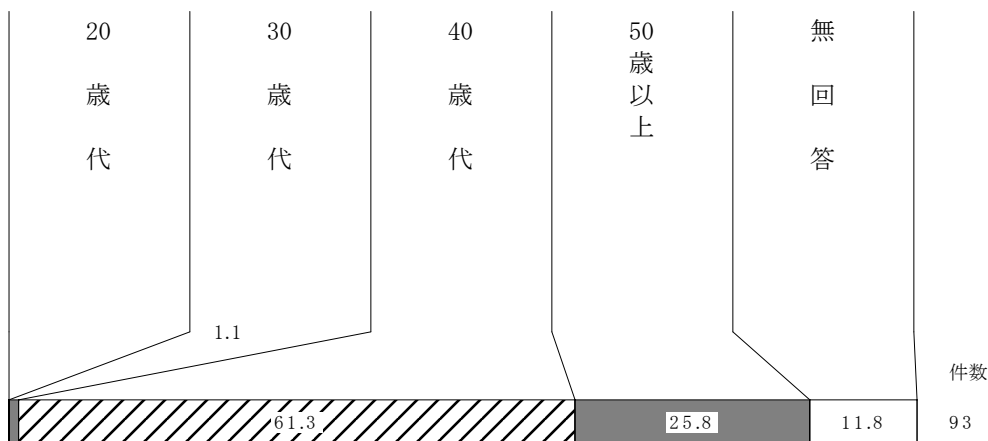


中学2年生は2人兄弟姉妹が多かったことから、「4人世帯」が60%と多く、高校2年生は「5人世帯」が53%と多い。女性は、「4人世帯」の割合がやや高い。

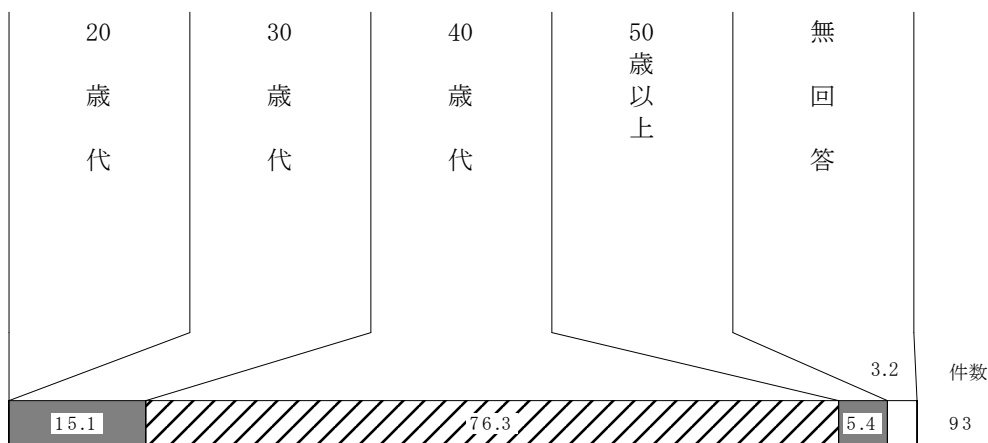
## ② 親の状況

父親の年齢■「40歳代」が61%と最も多く、「50歳以上」が26%で続いている。母親の年齢も「40歳代」が76%と最も多いが、「30歳代」が15%で続いており、父親の年齢よりも若い年齢層に分布している。

問3(1) 父親の年齢 [%]



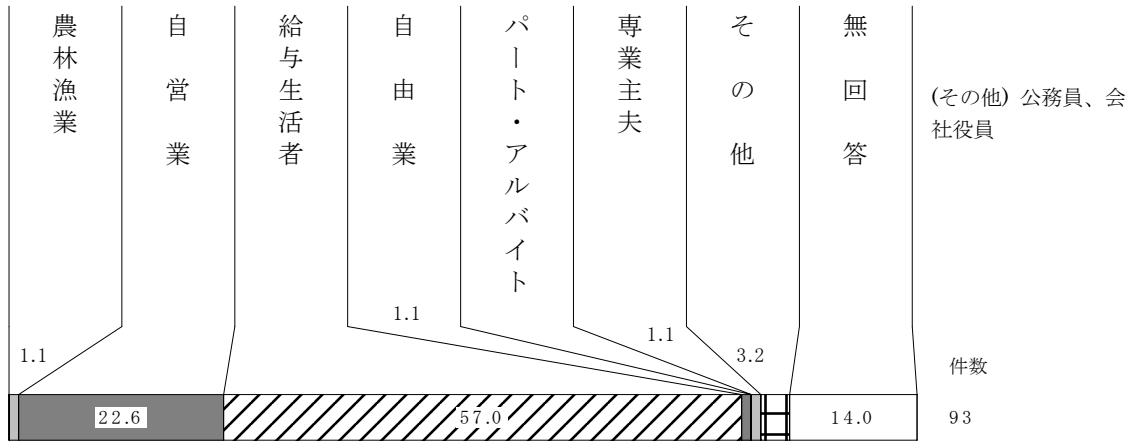
問3(1) 母親の年齢 [%]



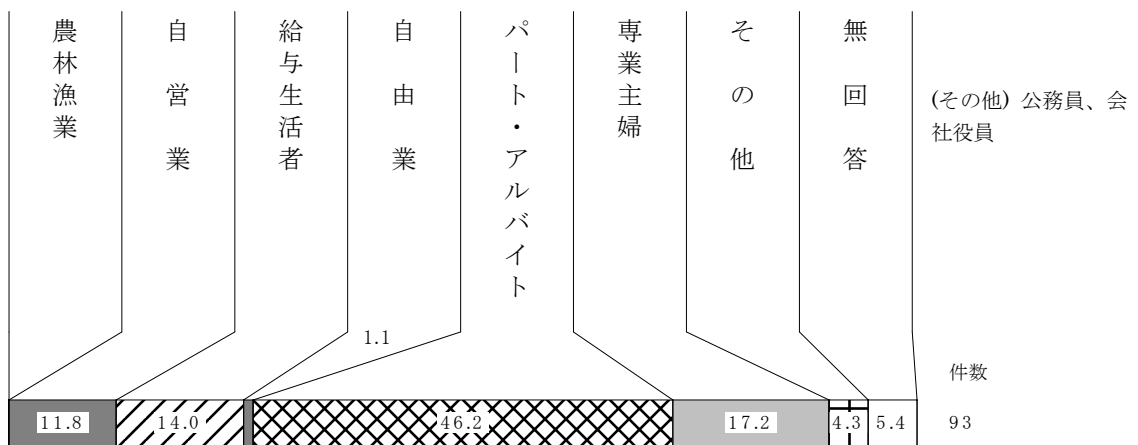
中学生の父親は「40歳代」が多く、高校生の父親は「50歳以上」が増えている。女性の父親は「40歳代」の割合がやや高く、男性の父親は「50歳以上」の割合がやや高い。中学生の母親は「30歳代」が21%と高く、高校生の母親は「40歳代」が87%と大半を占めている。

親の職業■父親は「給与生活者」が57%と多く、「自営業」が23%で続いている。母親は「パート・アルバイト」が46%、ついで「専業主婦」が17%、「給与生活者」が14%となっている。両親がいる世帯の就業状況は、「共稼ぎ世帯」が73%と多くを占め、「非共稼ぎ世帯」は24%である。給与生活者の父親と、パート・アルバイトの母親の家庭が多いことがうかがえる。

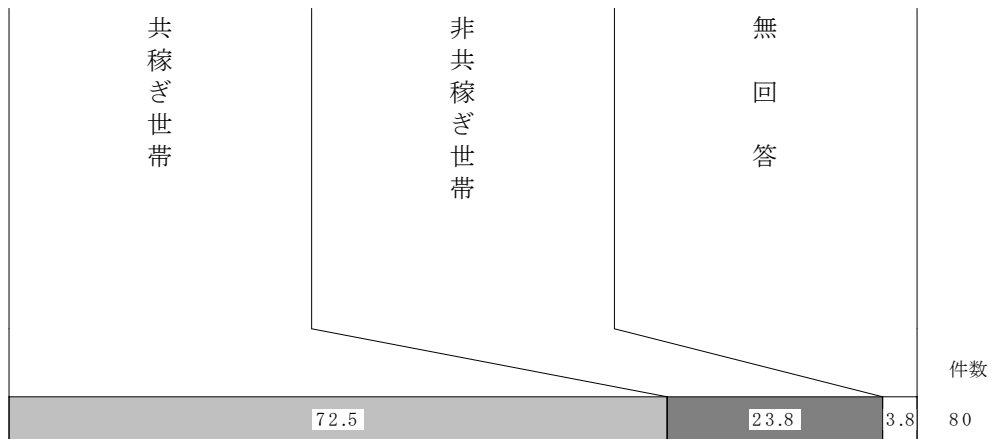
問3(2) 父親の職業 [%]



問3(2) 母親の職業 [%]



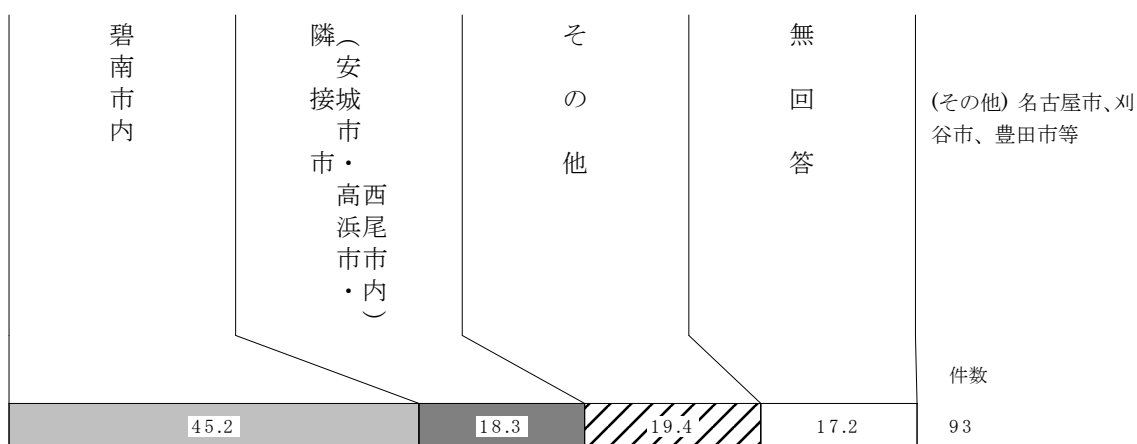
問3(2) 両親の就業状況 [%]



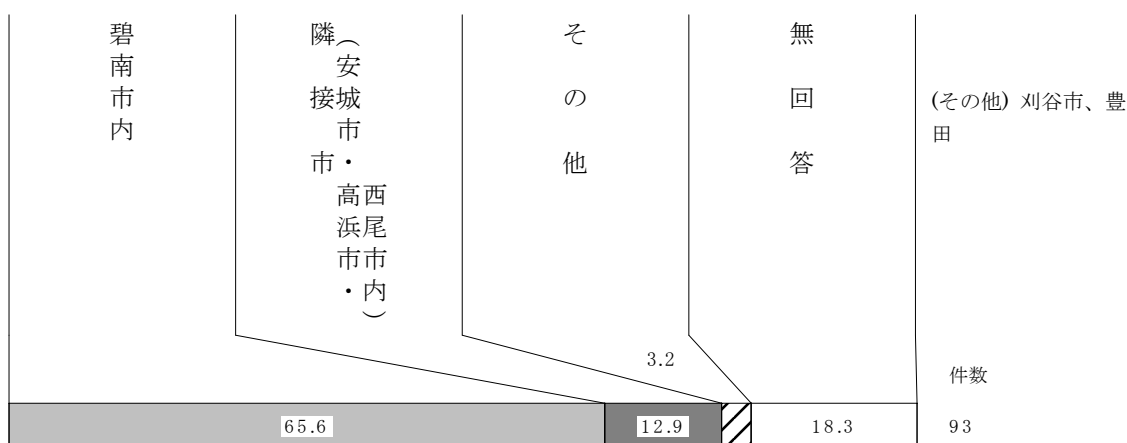
中学生よりも高校生の父親の方が、「自営業」の割合が高い。新川地区、日進地区、西端地区は、「給与生活者」の割合が高い。「パート・アルバイト」「自営業」の割合は、中学2年生よりも高校2年生の母親の割合が若干高いが、中学2年生の母親の方が、「給与生活者」「専業主婦」の割合が若干高い。中央地区と日進地区の母親は、「パート・アルバイト」の割合が高い。高校生の両親の方が、「共稼ぎ世帯」の割合が79%と高くなっており、また、世帯の子ども数が2人よりも3人の世帯の方が、共稼ぎ世帯の割合がやや高い。中央・大浜・棚尾・日進地区の世帯では、共稼ぎ世帯が80%を超えている。

親の勤務地 ■ 父親は「碧南市内」が45%と最も多く、その他は「隣接市（安城市・高浜市・西尾市内）」や「その他」に分かれている。母親の勤務地は「碧南市内」が66%と、父親よりも市内での就業率が高い。

問3 (3) 父親の勤務地 [%]



問3 (3) 母親の勤務地 [%]

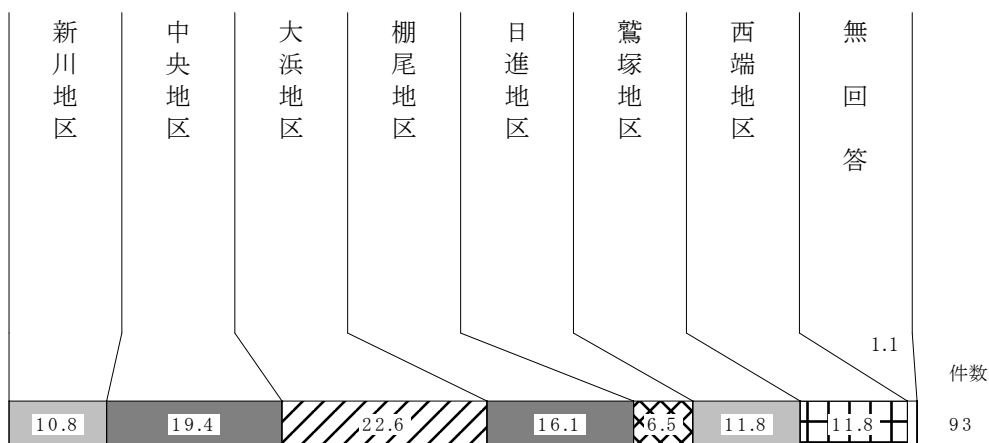


中学生よりも高校生の父親は、「碧南市内」で働く割合が高く、55%となっている。非共稼ぎ世帯の父親は、「碧南市内」で働く割合が58%とやや高い。

### ③ 居住地区

居住地区 ■ 「大浜地区」が23%、「中央地区(19%)」「棚尾地区(16%)」が続いている。

問3 (4) 居住地区 [%]



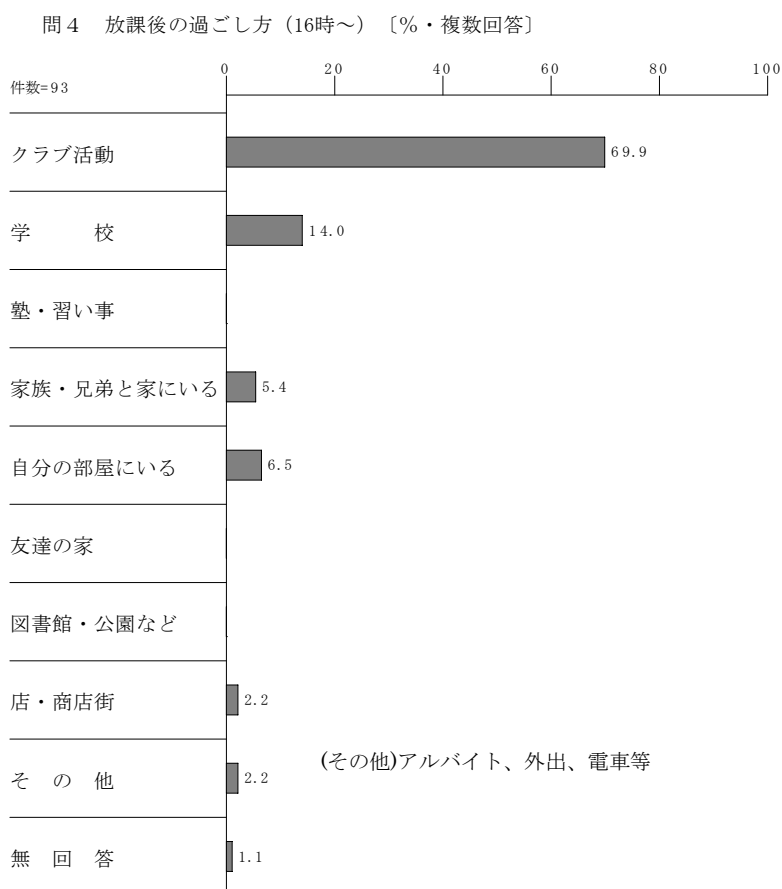
## IV. 2 中高生の生活状況

■ 中高生ともに放課後の早い時間帯はクラブ活動をしており、高校生の方が遅い時間帯まで活動している。夜は時間帯が遅くなると、自分の部屋で過ごすことが多くなり、高校生の方がその傾向は強い。また、土曜日や休日は、寝ているという回答が多くみられる。

■ 中高生は友達と遊ぶことやスポーツ・趣味の活動などを楽しめることと回答しており、悩みは成績や教科のことなど学校に関する回答が多く回答されているが、学校生活や友達に対する満足度は高い。

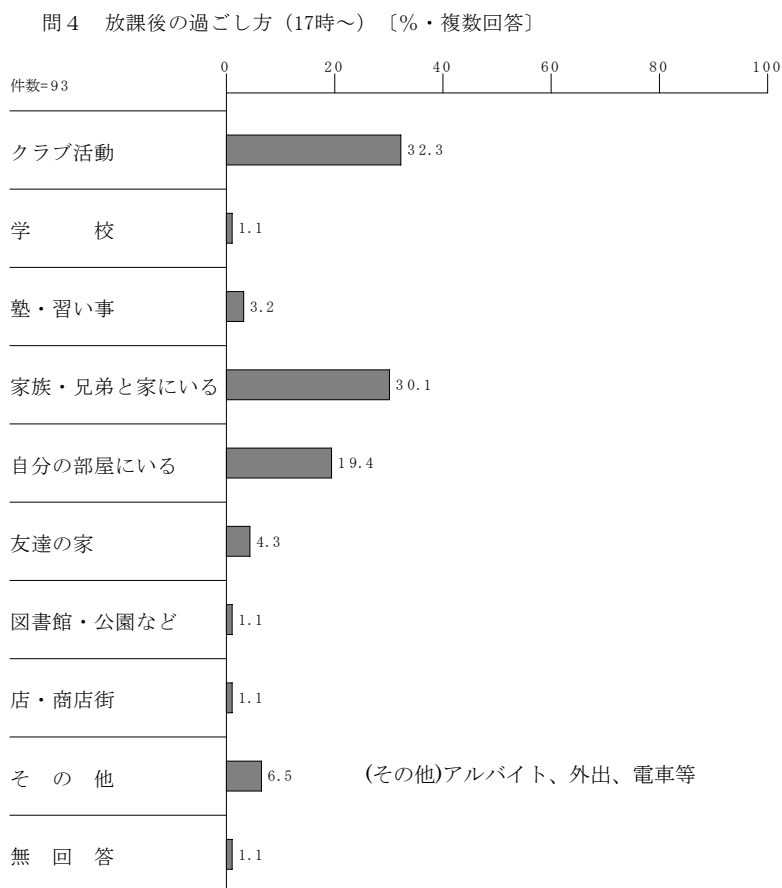
### ① 放課後・休日の過ごし方

放課後 16 時～ ■ 「クラブ活動」が 70% と多く、「学校」が 14% で続いている。



中学2年生は「クラブ活動」が83%と特に多く回答されており、高校2年生は「クラブ活動」が55%に低下し、「学校」が20%となっている。非共稼ぎ世帯の中高生は、「クラブ活動」で過ごす割合が95%と特に高いが、共稼ぎ世帯の中高生は67%で、その他の過ごし方に回答が分布している。

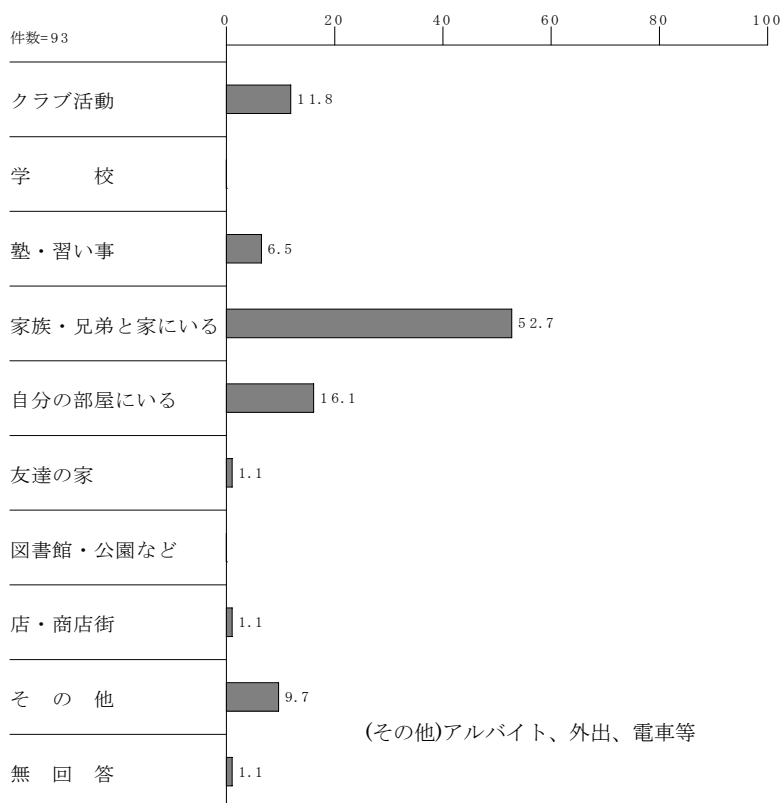
放課後 17 時～ ■「クラブ活動」が 32%に低下し、「家族・兄弟と家にいる」が 30%、「自分の部屋にいる」が 19%など、自宅で過ごす割合が高くなる。



中学2年生は「クラブ活動」で過ごす割合が16時台よりも低下し、「家族・兄弟と家にいる」割合が上昇している。一方、高校2年生は「クラブ活動」が53%回答されており、クラブ活動の時間帯が高校生の方が遅いことがわかる。

放課後 18 時～ ■「家族・兄弟と家にいる」が 53%と最も多くなり、ついで「自分の部屋にいる (16%)」や「クラブ活動 (12%)」が回答されている。

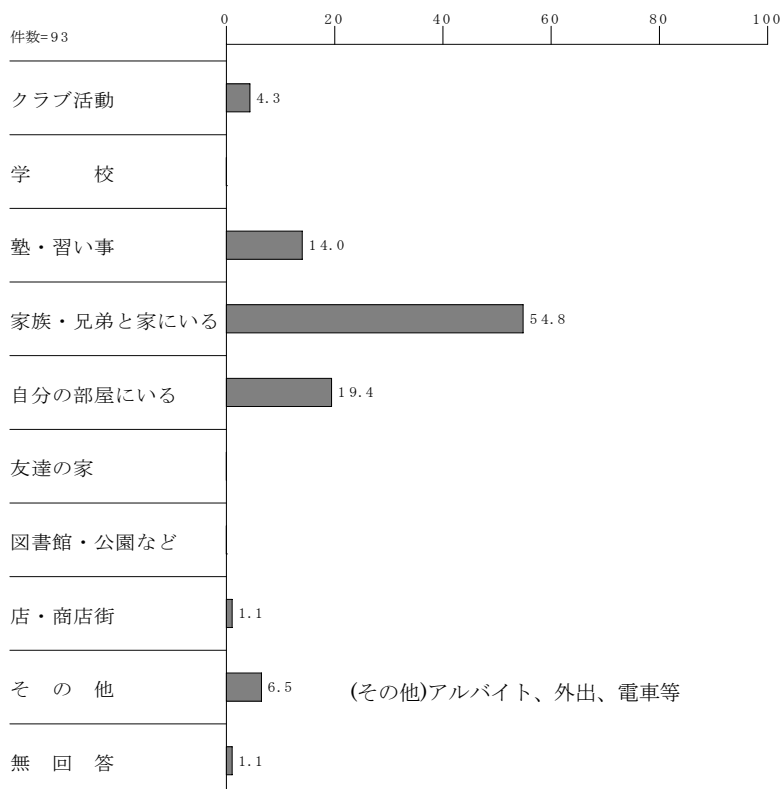
問4 放課後の過ごし方 (18時～) [%・複数回答]



中学2年生は、「家族・兄弟と家にいる」割合が17時台よりも上昇し、64%に上る。高校2年生も同様に上昇し、37%となっているが、「クラブ活動」も29%回答されている。

放課後の過ごし方 19時～ ■「家族・兄弟と家にいる」が55%、「自分の部屋にいる」が19%で、18時台の過ごし方と類似しており、その他では「塾・習い事」が14%回答されている。

問4 放課後の過ごし方 (19時～) [%・複数回答]

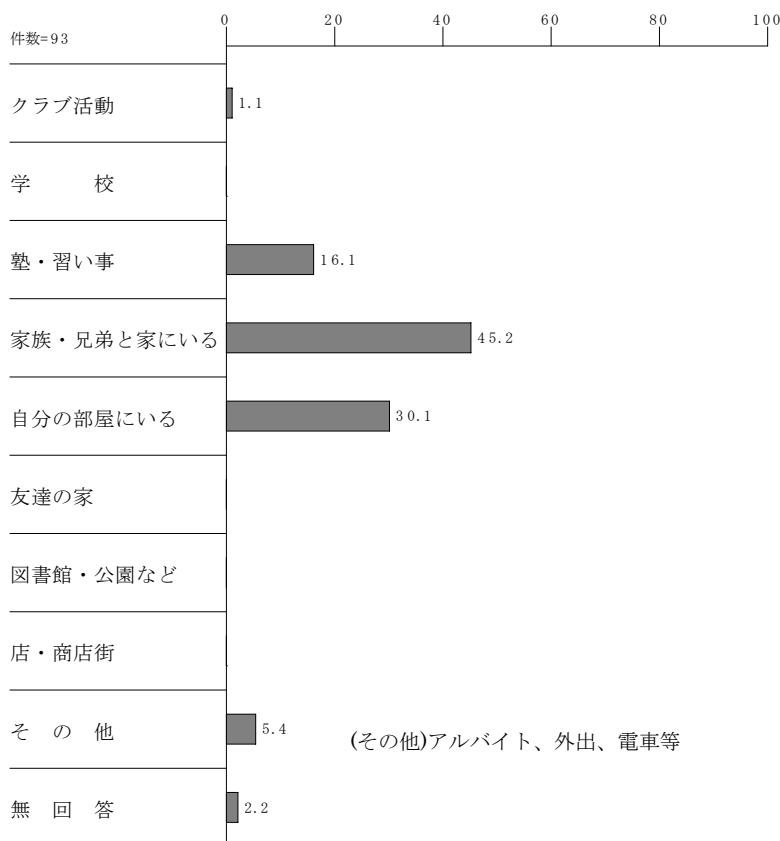




女性は「家族・兄弟と家にいる」割合が67%と高いが、男性はその割合が低下し、「自分の部屋にいる」割合が29%となっている。非共稼ぎ世帯の中高生は、「家族・兄弟と家にいる」割合が高いが、共稼ぎ世帯の中高生はその割合が低下し、「自分の部屋にいる」という回答に移行している。

放課後 20 時～ ■ 「家族・兄弟と家にいる」が 45%と最も多く、「自分の部屋にいる」が 30%に上る。その他では、「塾・習い事」が 16%となっている。

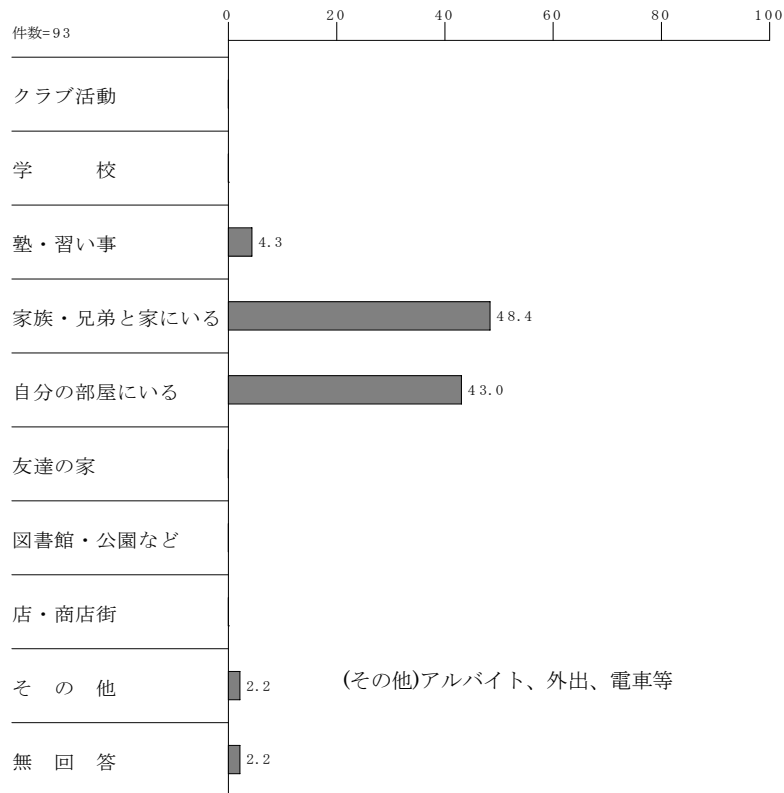
問 4 放課後の過ごし方 (20時～) [%・複数回答]



共稼ぎ世帯の中高生は、「家族・兄弟と家にいる」と「自分の部屋にいる」割合が同程度だが、非共稼ぎ世帯の中高生は、「家族・兄弟と家にいる」割合が74%と高く、「自分の部屋にいる」割合は16%と大幅に低い。

放課後 21 時～ ■ 「家族・兄弟と家にいる」が 48%、「自分の部屋にいる」が 43%と僅差で多く回答されている。

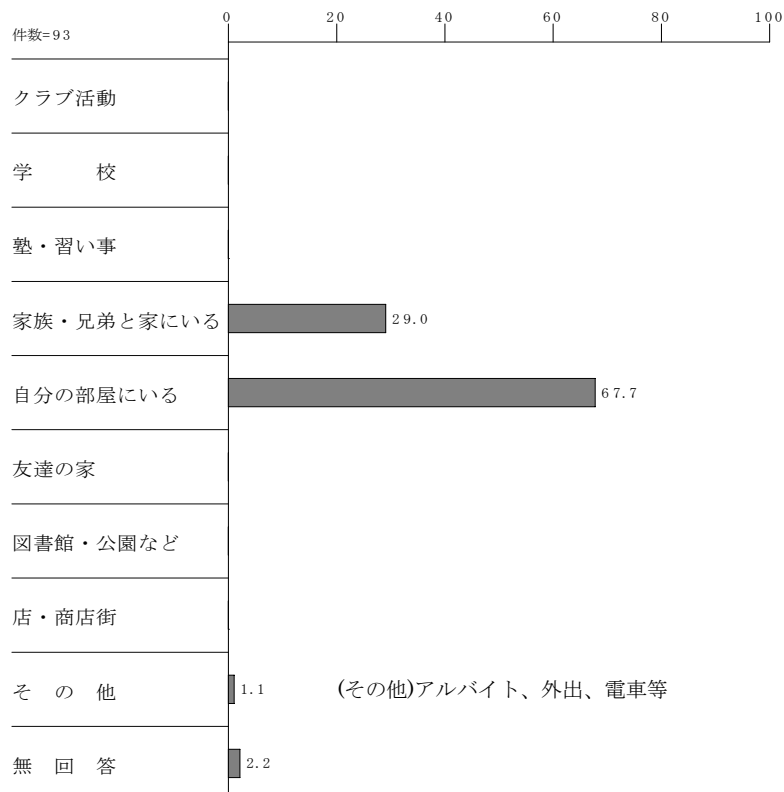
問4 放課後の過ごし方 (21時～) [%・複数回答]



中学2年生よりも高校2年生の方が、「自分の部屋にいる」割合が若干高く、女性や非共稼ぎ世帯の中高生の方が「家族・兄弟と家にいる」割合が若干高い。

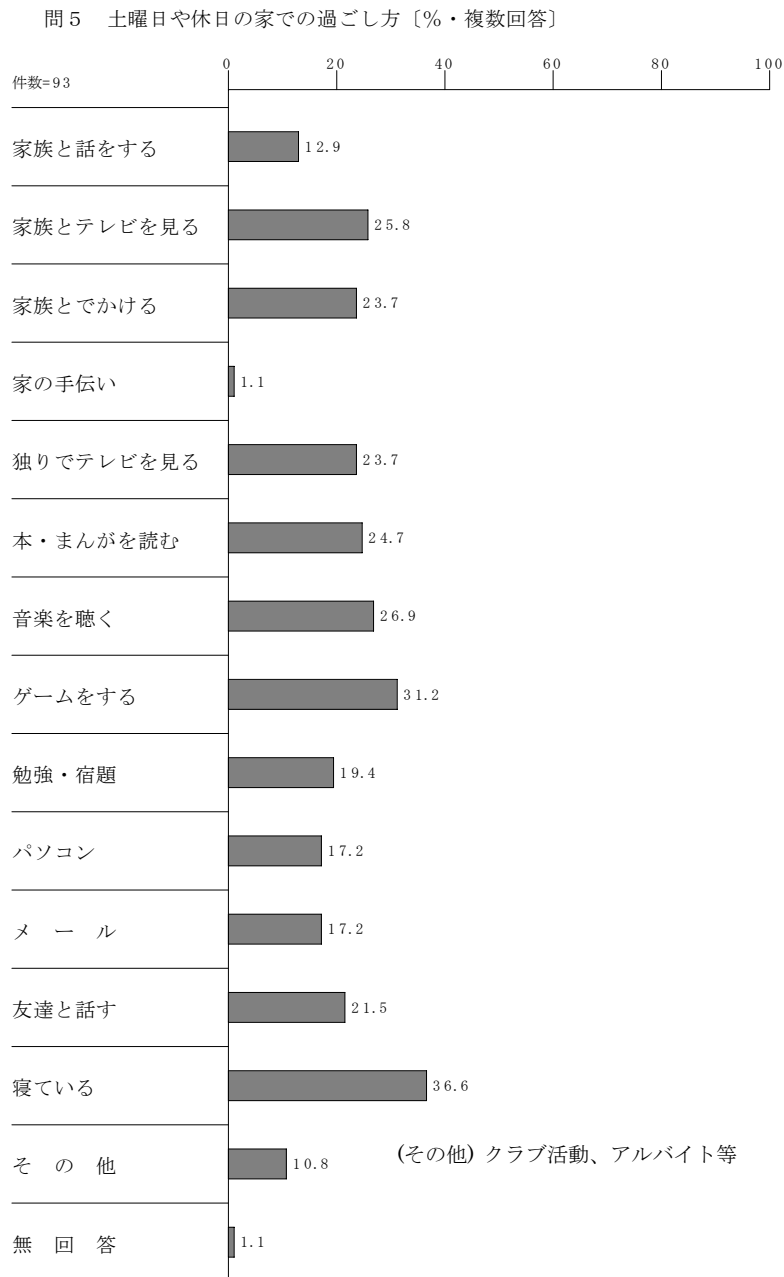
放課後 22 時以降 ■ 「家族・兄弟と家にいる」を逆転し、「自分の部屋にいる」が 68% と多くなっている。

問4 放課後の過ごし方 (22時以降) [%・複数回答]



女性の方が「家族・兄弟と家にいる」割合が若干高い。

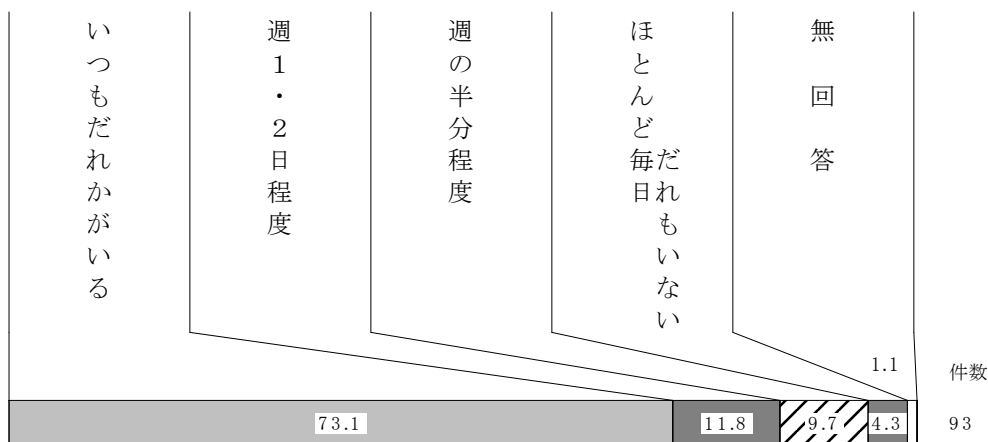
土曜日・休日の過ごし方 ■「寝ている」が37%と最も多く、「ゲームをする」が31%、「音楽を聴く」が27%、「家族とテレビを見る」が26%となっており、回答は広く分布している。



非共稼ぎ世帯の中高生は、「家族と話をする」「家族とテレビを見る」「家族とでかける」など、家族と過ごす回答が多くみられるが、共稼ぎ世帯の中高生は、「独りでテレビを見る」「メール」「友達と話す」「寝ている」などが多く回答されている。男性は「ゲームをする」割合が高く、女性は「音楽を聴く」という回答が多い。

家族の不在 ■ 「いつもだれかがいる」世帯が73%を占めている。「週1・2日程度」や「週の半分程度」という回答が10%前後みられるが、帰宅時間が遅くなる分、学童よりも「ほとんど毎日だれもいない」割合は若干低い。

問6 放課後・休日に家族がいない日 [%]

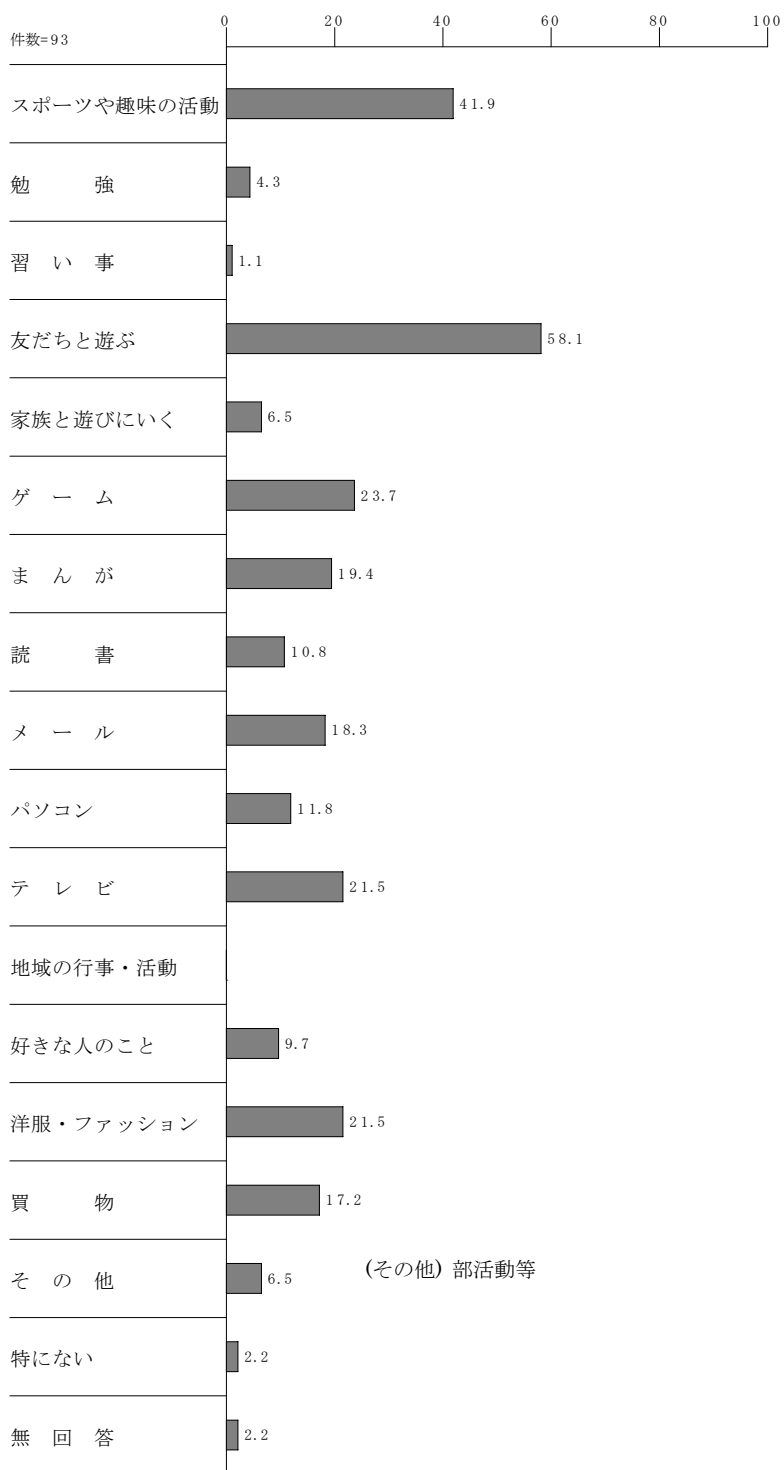


非共稼ぎ世帯の中高生は、84%が「いつもだれかがいる」と回答しているが、共稼ぎ世帯の中高生は74%と10%程度低い。また、5人家族の中高生は、同居世帯が多いことから、「いつもだれかがいる」割合が85%と高く、男性よりも女性の世帯の方が「いつもだれかがいる」という回答が多い。

## ② 趣味・趣向

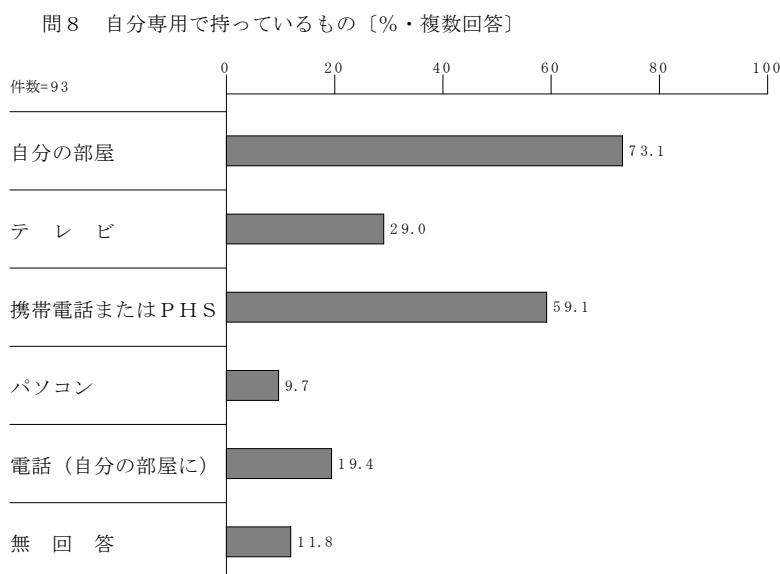
楽しいこと・興味のあること ■ 「友だちと遊ぶ」が58%と最も多く、「スポーツや趣味の活動」が42%となっている。その他では、「ゲーム(24%)」「テレビ(22%)」「洋服・ファッション(22%)」が続いている。

問7 楽しいこと・興味のあること [%・複数回答]



男女ともに「友だちと遊ぶ」という回答が多いが、女性の方が10%弱割合は高く、その他では、男性は「スポーツや趣味の活動」や「ゲーム」が、女性は「洋服・ファッション」が多く回答されている。

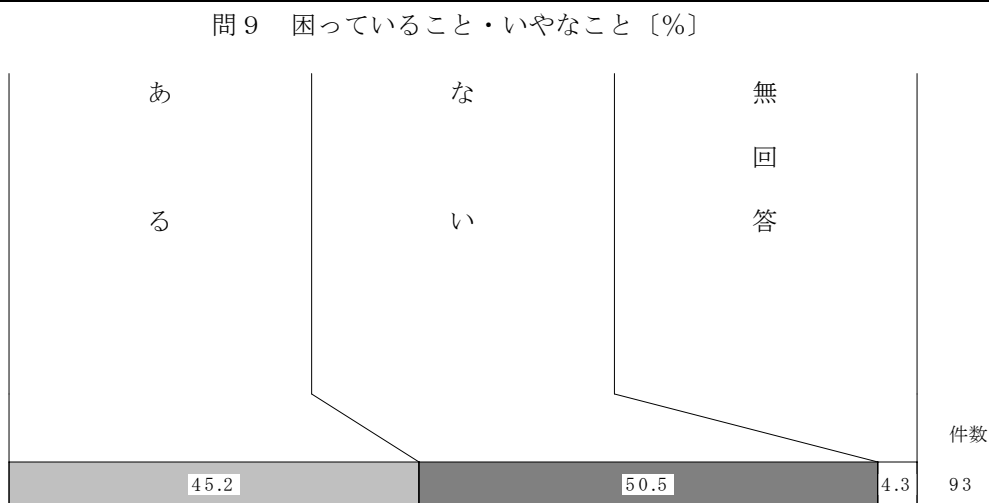
自分専用のもの ■ 「自分の部屋」が73%と最も多く、「携帯電話またはPHS」が59%と両者が特に多く回答されている。



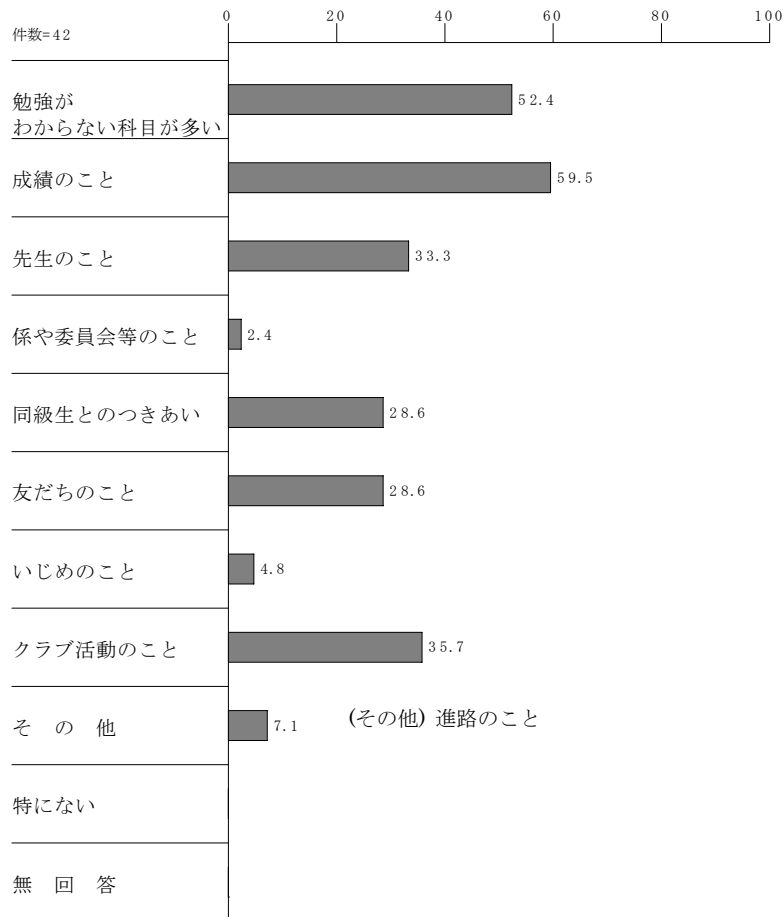
「自分の部屋」は中高生ともに多いが、「携帯電話またはPHS」は中学2年生が36%だが、高校2年生では92%と大幅に所有率が上昇している。また、「携帯電話またはPHS」と「テレビ」の所有率は、非共稼ぎ世帯に比べて共稼ぎ世帯の中高生の方が大幅に高い。男性の方が女性よりも「自分の部屋」と「テレビ」の所有率が高く、女性は「携帯電話またはPHS」の所有率が高い。

### ③ 日常生活での悩み

困っていること・いやなこと ■ 「ない」が51%と若干多いが、45%は困っていることが「ある」と回答している。悩みの内容は「成績のこと」が60%、「勉強がわからない科目が多い」が52%で多く、その他では「クラブ活動のこと(36%)」「先生のこと(33%)」が回答されており、学校生活に関する内容が多い。



問9 (1) 困っている・いやな内容 [%・複数回答]

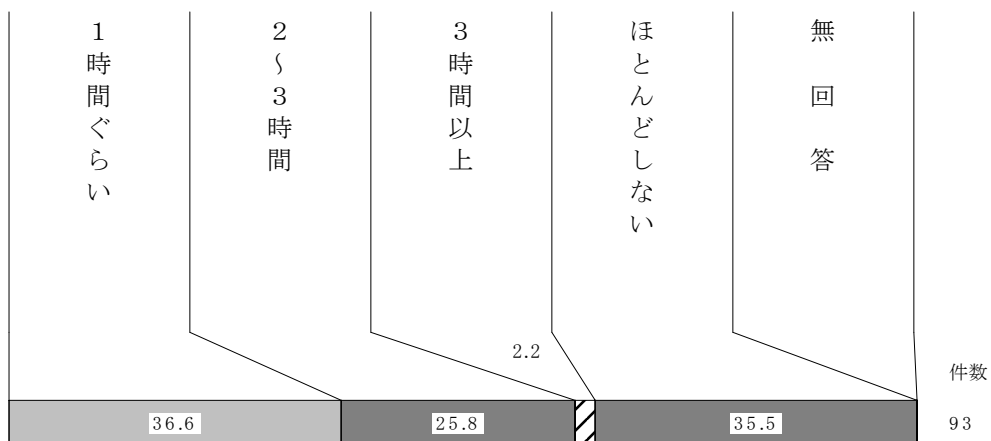


中学2年生の方が、また、男性よりも女性の方が困っていることが「ある」割合が若干高く、なかでも中学2年生の女性は69%が回答している。また、共稼ぎ世帯よりも非共稼ぎ世帯の中高生の方が、困っていることが「ある」割合が58%となっている。中学2年生は勉強以外の「クラブ活動のこと」や「同級生とのつきあい」という回答が多いが、高校2年生は「成績のこと」が69%である。

#### ④ 勉強・学校生活

家での学習時間 ■ 「1時間ぐらい」が37%、「2～3時間」が26%となっているが、36%は「ほとんどしない」と回答している。

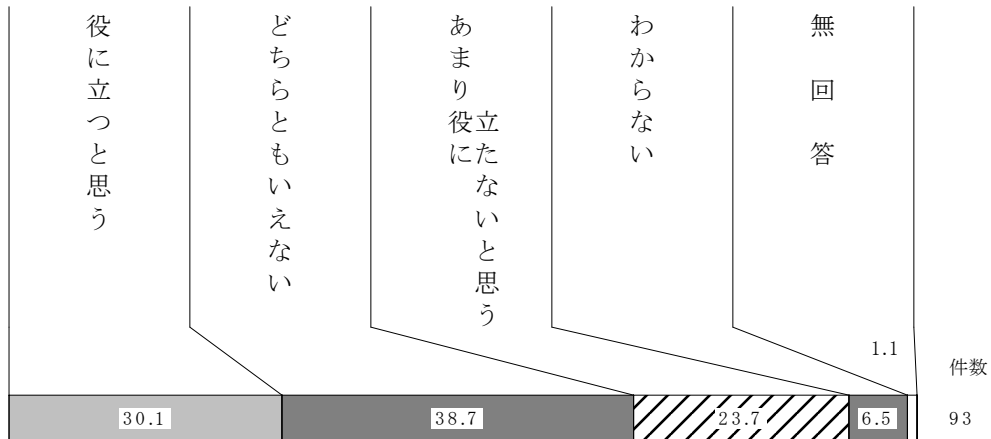
問10 家での学習時間 [%]



中学2年生は「1時間ぐらい」勉強しているという回答が47%だが、高校2年生の50%は「ほとんどしていない」と回答している。非共稼ぎ世帯の中高生は、「2～3時間」勉強している割合が37%と高い。

学校の勉強は将来役に立つと思う■「どちらともいえない」が39%と最も多く、「役に立つと思う」が30%、「あまり役に立たないと思う」が24%となっている。

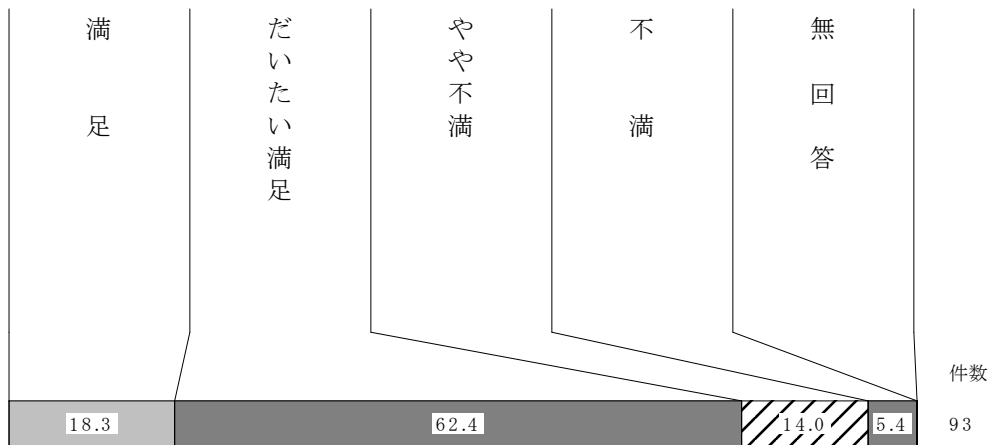
問11 学校の勉強は将来役に立つと思うか〔%〕



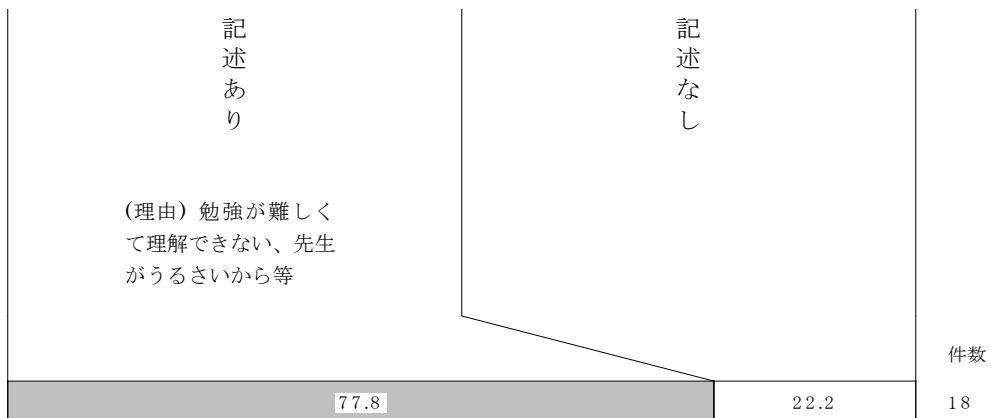
男性は「役に立つと思う」割合が女性よりも10%弱高く、女性は「どちらともいえない」割合が男性よりも10%弱高い。

学校生活の満足度■「だいたい満足」が62%で、満足度は81%と高いが、20%弱の中高生が不満と回答している。

問12 学校生活の満足度〔%〕



問12 (1) 学校生活に不満な理由〔%〕

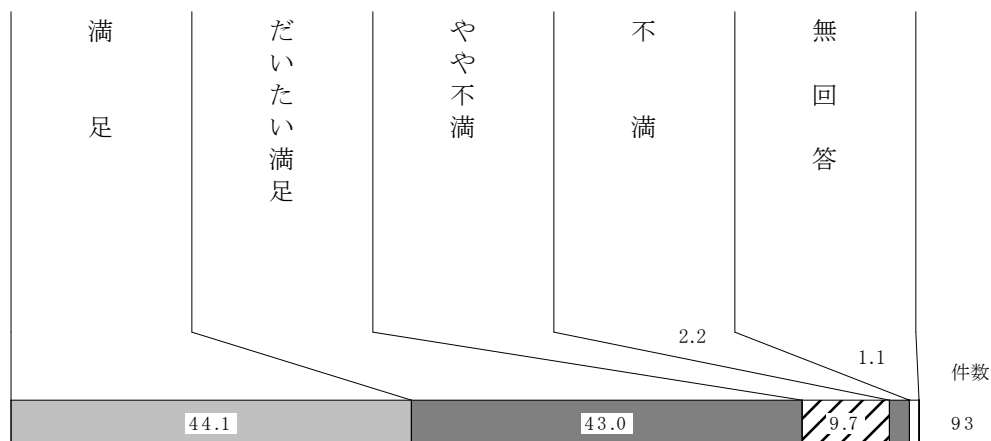




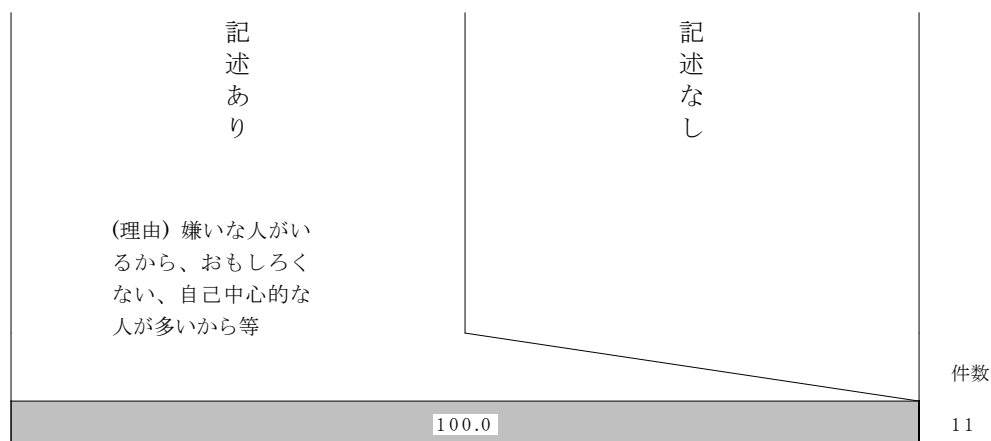
女性よりも男性の方が、学校生活の満足度が高い。困っていることがない回答者は、学校生活の満足度が高く、友達のことなどで困っていることがある回答者は満足度が低い。共稼ぎ世帯の中高生の方が、満足度はやや高い。

友人関係の満足度 ■ 「満足」が44%、「だいたい満足」が43%で、満足度は87%に上り、その割合も学校生活に比べて高い。

問13 友人関係の満足度 [%]



問13 (1) 友人関係に不満な理由 [%]



中学2年生よりも高校生の方が友人関係に対する満足度が高く、高校2年生は53%が「満足」と回答している。共稼ぎ世帯の中高生の方が満足度は高く、52%が「満足」と回答している。学校生活に満足している中高生は、友人関係に対しても満足度が高い。女性よりも男性の方が満足度は高く、「だいたい満足」の回答が女性よりも20%程度高い。

### IV. 3 家庭や地域での様子

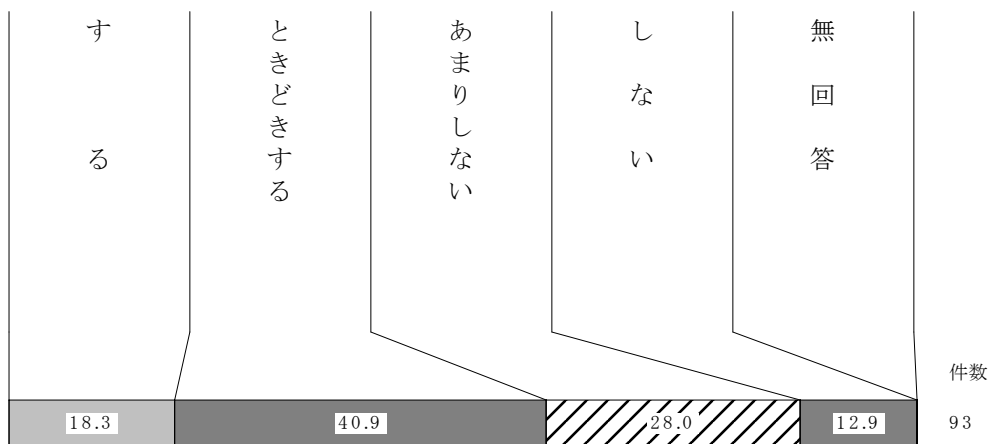
■中高生は親と話をしているものの、母親に比べて父親との会話頻度は低く、会話内容も少ない。そして、父親に対しては仕事が忙しいそう、母親に対しては家事等が忙しいそうだとみている反面、子どもへの理解や親が意欲的な姿も認識している。また、親を含めて家族には干渉しないでほしいという意向が強いが、家族に対する満足度は高い。

■地域の活動などへの参加率は50%程度で、乳幼児等との交流への参加意向は52%と意欲的な意向がうかがえる。

#### ① 家庭生活

家事の手伝い ■食事の用意や掃除・買物などの手伝いを「ときどきする」が41%、「する」が18%回答されており、59%が手伝いをしている。

問14 家事の手伝い [%]

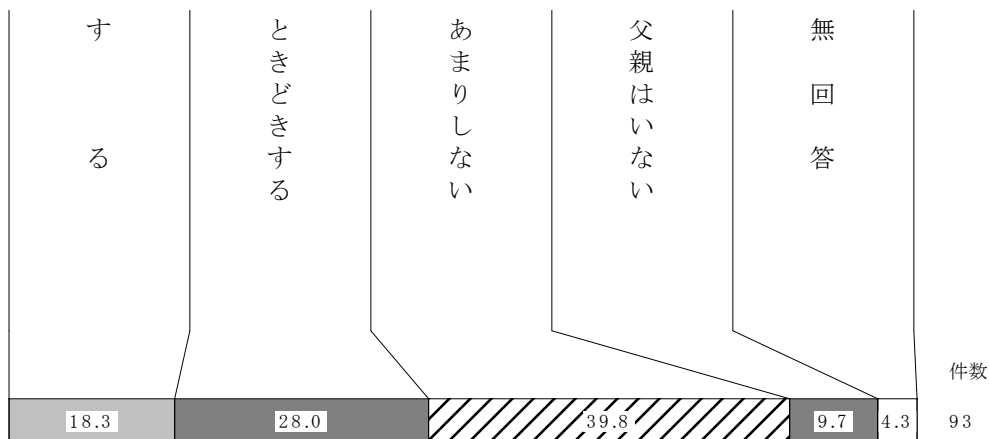


中学2年生の方が、家事の手伝いをしている割合が若干高く、手伝いをしている子どもの割合は男女とも同程度である。世帯の子ども数が増えると、「ときどきする」割合が上昇している。

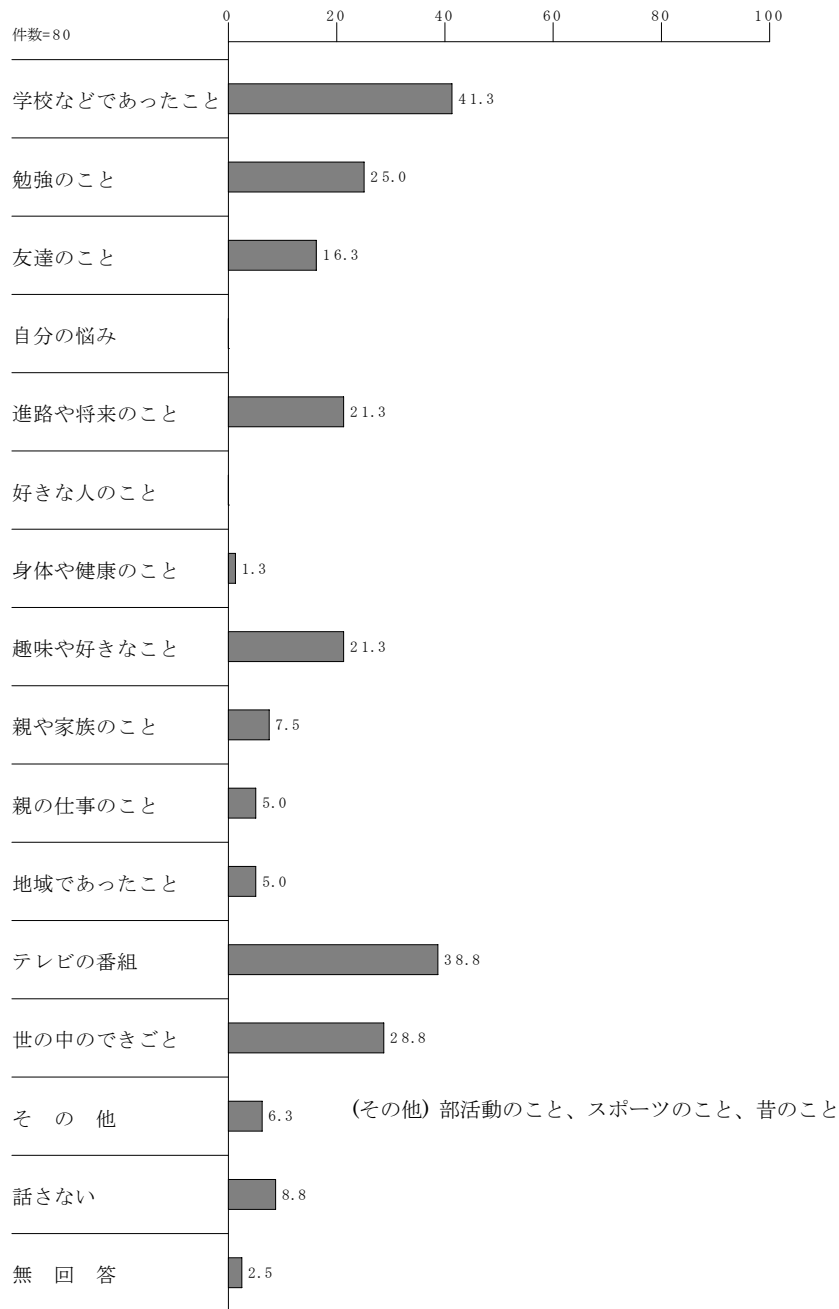
#### ② 親との関わり

父親との関わり ■父親とは話を「あまりしない」中高生が40%と多く、「ときどきする」が28%で続いている。話す内容は、「学校などであったこと」が41%、「テレビの番組」が39%回答されている。

問15 父親との会話 [%]

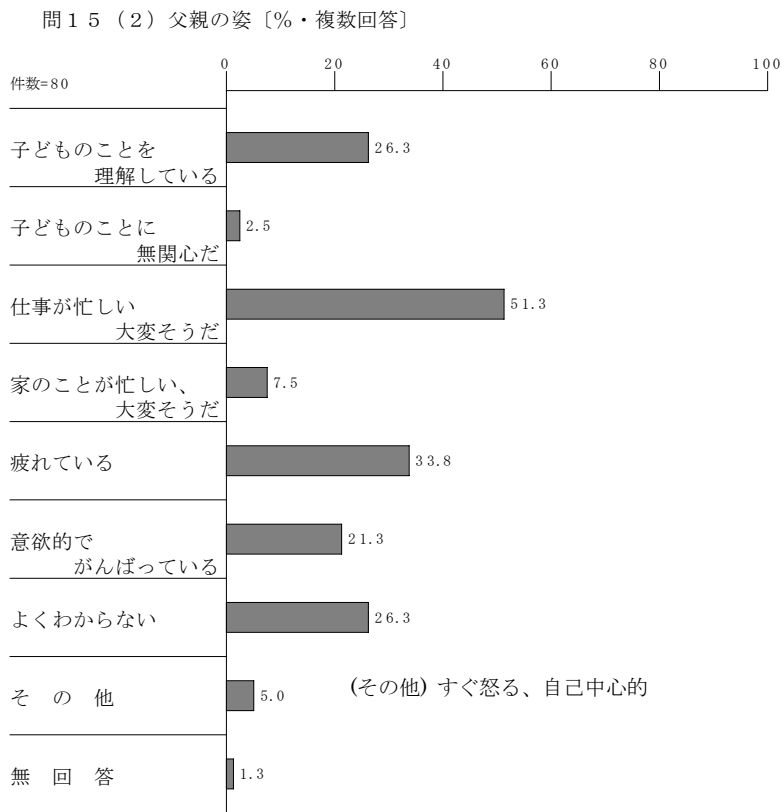


問15 (1) 父親と話す内容 [%・複数回答]



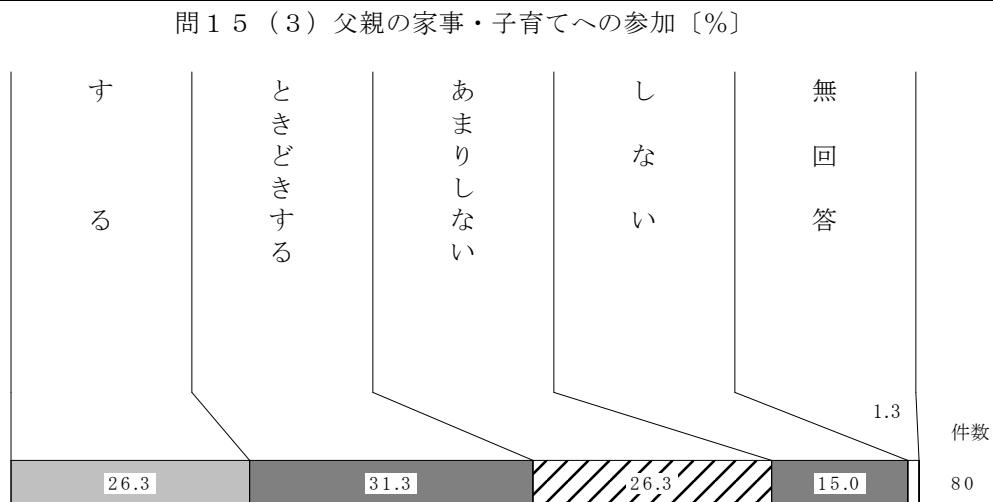
高校2年生よりも中学2年生の方が、また男性よりも女性の方が、会話の頻度がやや低い。中学2年生の男性は「勉強のこと」を、高校2年生の男性は「学校などであったこと」を話しているという回答が多い。非共稼ぎ世帯の中高校生の方が会話の頻度が高く、「する」が32%回答されている。会話内容は、「学校などであったこと」が学年に関わらず多いが、その他では中学2年生は「勉強のこと (30%)」や「テレビの番組 (46%)」が多く、高校2年生は「進路や将来のこと (36%)」が多く回答されている。また、非共稼ぎ世帯の中高校生は、「学校などであったこと」「勉強のこと」「友達のこと」などを共稼ぎ世帯の中高校生に比べて多く会話している。父親と会話をよくする中高生は、「学校などであったこと」「友達のこと」「趣味や好きなこと」の回答率が特に高く、ときどき会話する中高生は、「勉強のこと」や「テレビの番組」について会話している様子が見える。

父親の姿 ■ 「仕事が忙しい大変そうだ」が 51%と多く、その他では「疲れている」が 34%、「子どものことを理解している」「よくわからない」がそれぞれ 26%である。



非共稼ぎ世帯の中高生は、「仕事が忙しい大変そうだ」「疲れている」という回答の他、「よくわからない」が29%回答されている。女性よりも男性の方が、父親の姿について回答率が高く、男性は「仕事が忙しい大変そうだ」が69%と高いが、女性は39%と低く、その他の「疲れている」や「子どものことを理解している」についても、性別による差異が大きく、女性は「よくわからない」という回答が37%と高い。

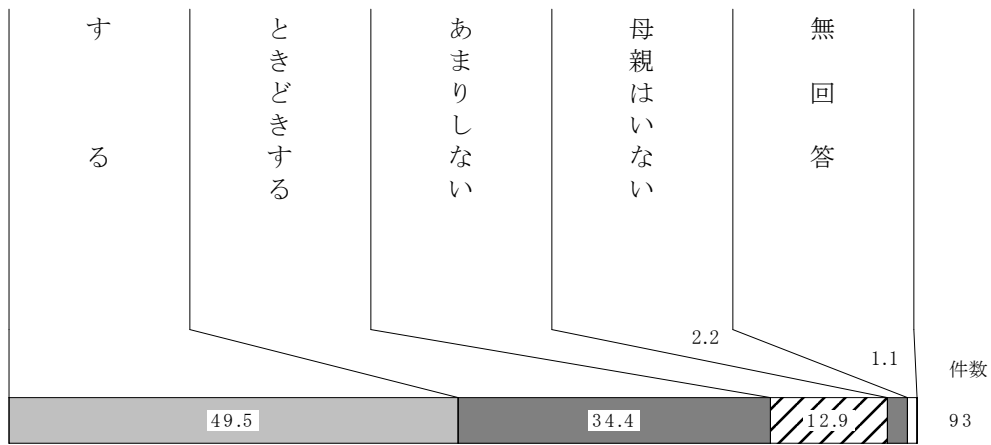
父親の家事・子育てへの参加 ■ 「する」と「ときどきする」があわせて 58%と半数を超えている。



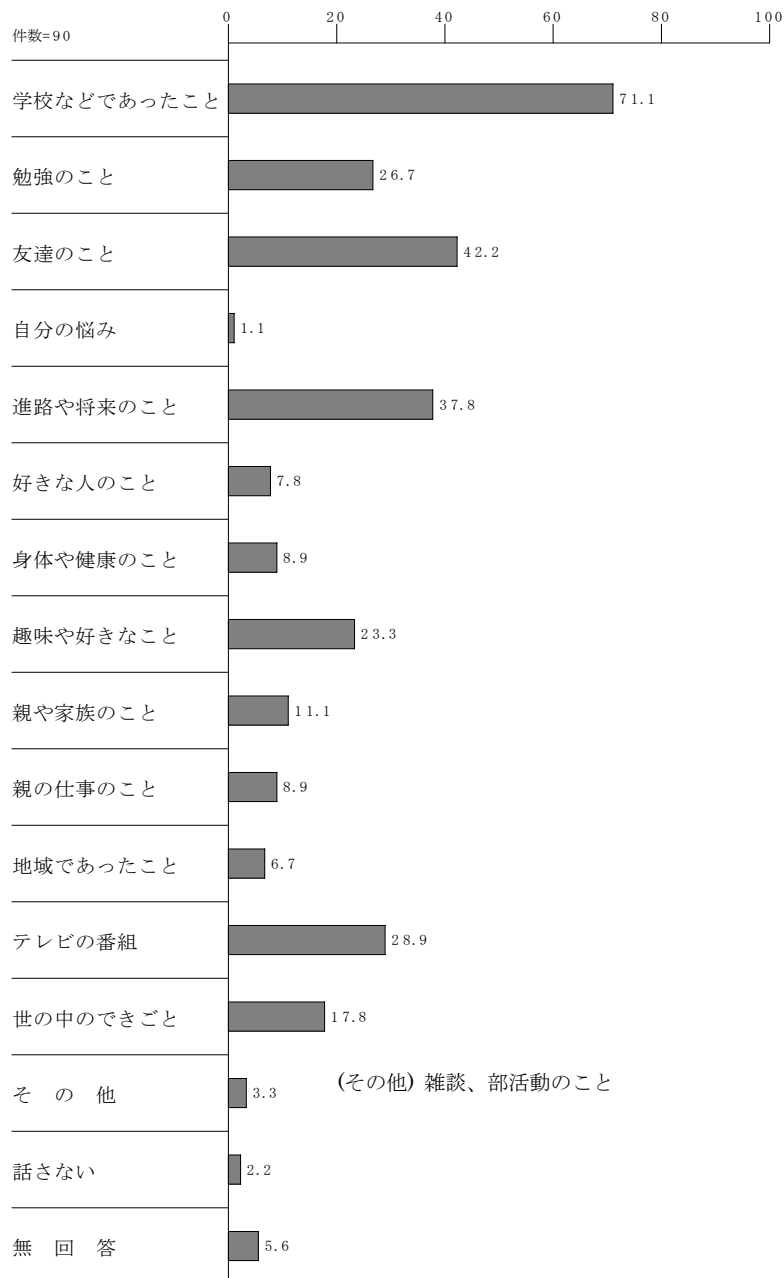
非共稼ぎ世帯の父親は、家事・子育てへの参加率と参加頻度が高く、参加率は共稼ぎ世帯が54%だが、非共稼ぎ世帯は77%に上り、「する」と「ときどきする」が同率である。父親を子どものことを理解している、意欲的である、家のことが忙しいと感じている中高生や父親との会話が多い中高生は、父親の家事・育児の参加頻度が高いと回答している。

母親との関わり ■ 母親と話を「する」中高生が 50%、「ときどきする」が 34%と、父親に比べて割合も頻度も高い。話す内容は「学校などであったこと」が 71%と最も多く、「友達のこと（42%）」や「進路や将来のこと（38%）」などにも回答が多い。

問 1 6 母親との会話 [%]

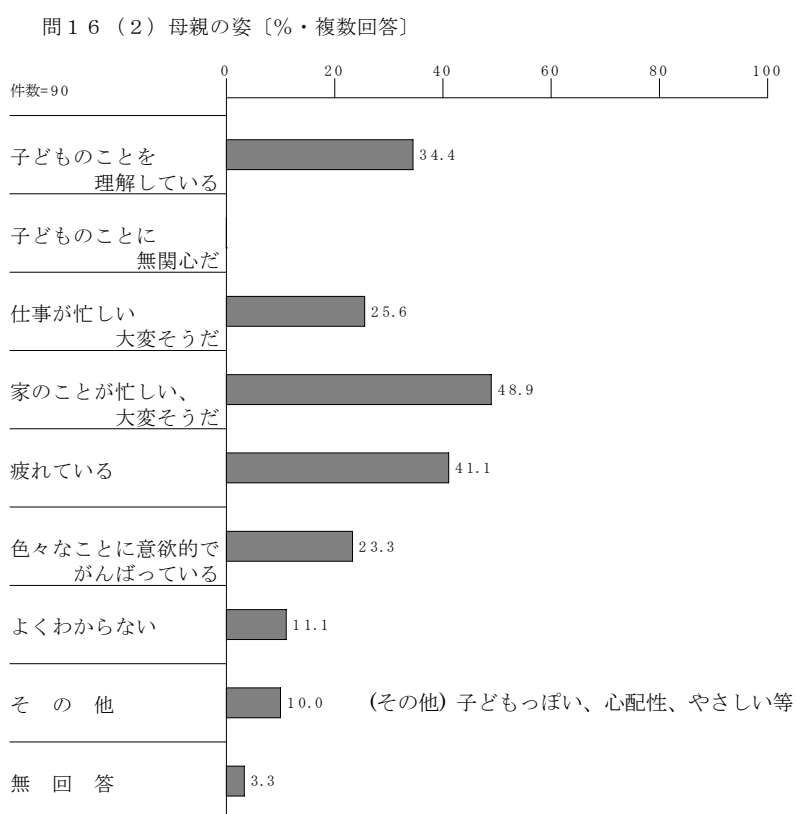


問 1 6 (1) 母親と話す内容 [%・複数回答]



男性よりも女性の方が、母親との会話率が高く、女性は「する」が67%と高く、男性は「ときどきする」が54%と性差が大きく表れているが、父親との会話率よりは男性の会話率も上昇している。父親と母親との会話状況を見ると、父親との会話頻度が高い中高生は、母親との会話頻度も高く、父親との会話頻度が低下すると同様に母親との会話頻度も低下している。非共稼ぎ世帯の中高生は、会話頻度が高く、「する」が68%となっている。会話内容は、女性は「学校などであったこと」や「友達のこと」「テレビの番組」をはじめ、「親や家族のこと」なども回答されている。また、非共稼ぎ世帯の方が話をする頻度が高く、「学校などであったこと」は90%、「友達のこと」は58%と会話内容についても回答率が高い。母親との会話頻度が高い中高生は、「学校などであったこと」や「友達のこと」をはじめとして、内容も多岐にわたって回答率が高くなっている。

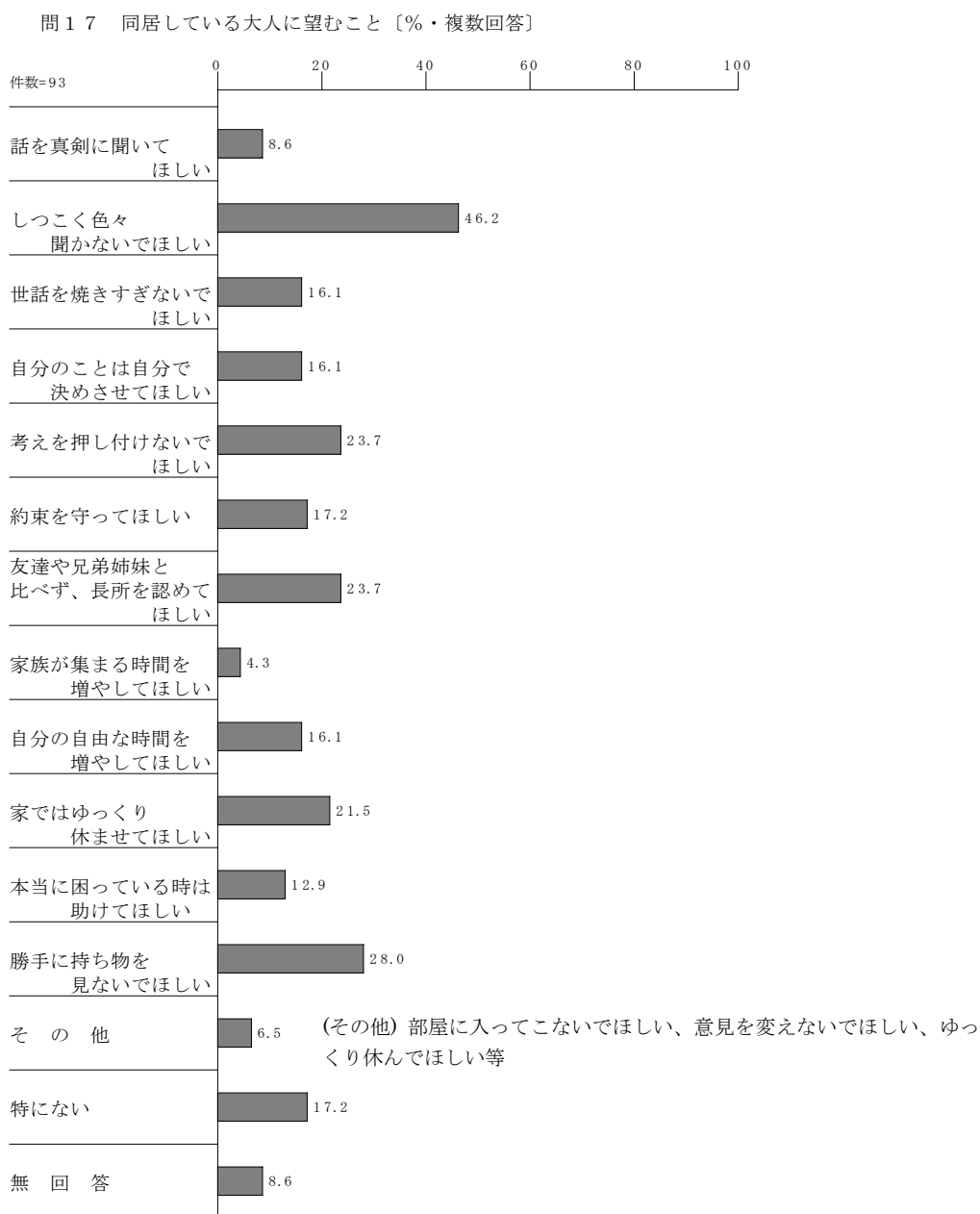
母親の姿 ■ 「家のことが忙しい、大変そうだ」が49%、「疲れている」が41%と、父親とは違いがみられ、「子どものことを理解している（34%）」や「仕事が忙しい大変そうだ（26%）」などにも回答が多い。



中学2年生よりも高校2年生の方が、各選択肢の回答率が高くなっている。共稼ぎ世帯の中高生は、母親を「仕事が忙しい大変そうだ」「疲れている」と感じている回答が多い。父親と同様に、母親と会話をよくする中高生は、母親を「子どものことを理解している」「色々なことに意欲的でがんばっている」とみており、会話頻度と子どもへの理解度は関連性がうかがえる。

### ③ 家族に対する思い

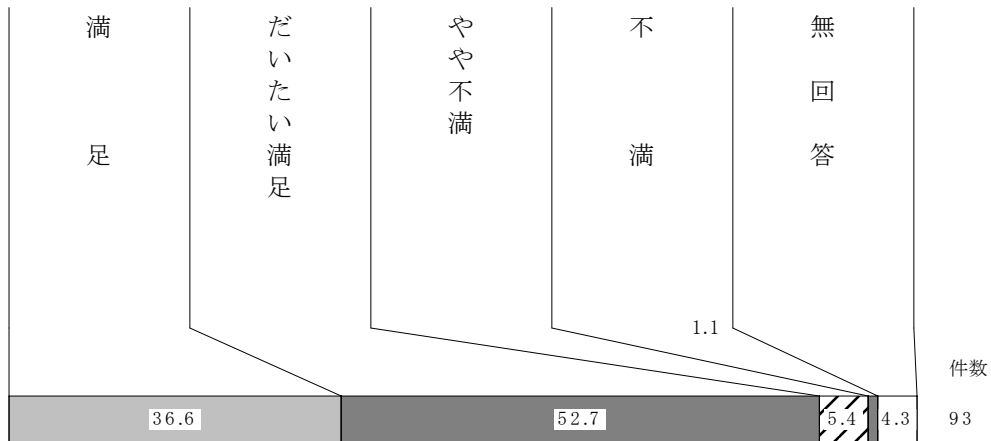
同居している大人に望むこと■「しつこく色々聞かないでほしい」が46%と最も多く回答されており、その他の項目は大きな差異はなく広く分布しており、「勝手に持ち物をみないでほしい(28%)」や「考えを押し付けしないでほしい(24%)」「友達や兄弟姉妹と比べず、長所を認めてほしい(24%)」などが続いている。



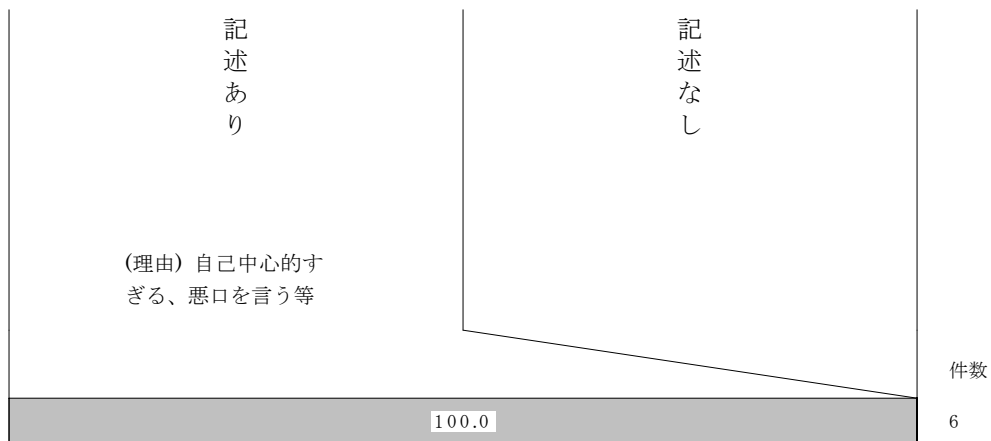
全般的に中学2年生の方が回答率は高く、「しつこく色々聞かないでほしい」がともに多く回答されているが、「考えを押し付けしないでほしい」や「友達や兄弟姉妹と比べず、長所を認めてほしい」「家ではゆっくり休ませてほしい」は、高校2年生に比べて特に回答が多い。父親との会話頻度が低くなると、「しつこく色々聞かないでほしい」や「考えを押し付けしないでほしい」という割合が高まっている。同様に、母親と会話をあまりしない中高生は少数だが、大人に望むことを多く回答している。

家族の満足度 ■ 「満足」が37%、「だいたい満足」が53%で、満足度は89%に上り、不満という回答は少ない。

問18 家族への満足度 [%]



問18(1) 家族に不満な理由 [%]

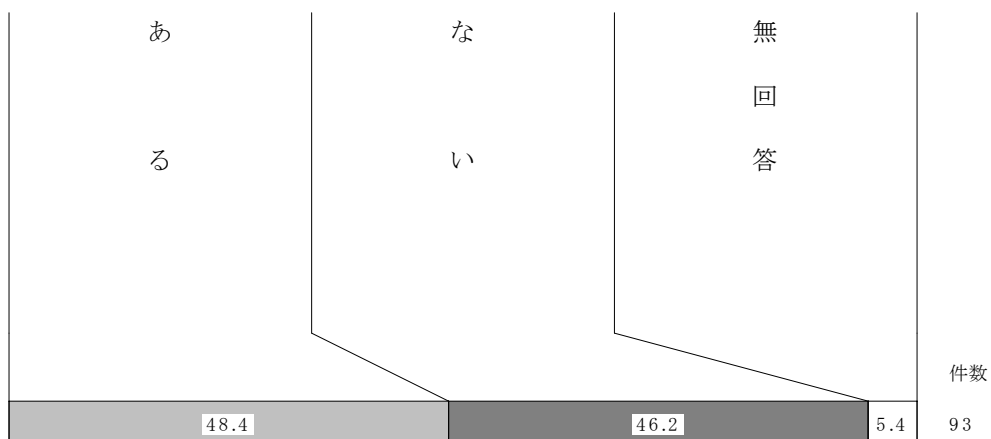


非共稼ぎ世帯の中高中生では、不満という回答はみられない。親との会話頻度が高い中高生や父親の家事・子育ての参加頻度が高い中高生は、家族に対する満足度も高く、特に父親との会話や家事への参加頻度は、家族に対する満足度と関連性が深いことがうかがえる。

#### ④ 地域活動・交流活動

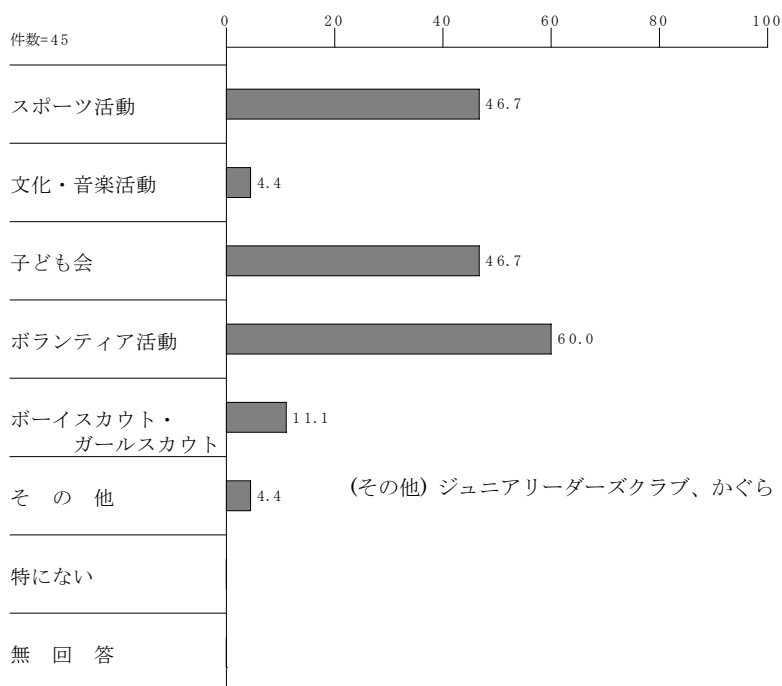
地域・グループ活動への参加歴 ■ 参加したことが「ある」中高生と「ない」中高生が同程度で、参加したことがある活動は「ボランティア活動」が60%、「スポーツ活動」「子ども会」がそれぞれ47%と多く回答されている。

問19 地域・グループ活動への参加歴 [%]





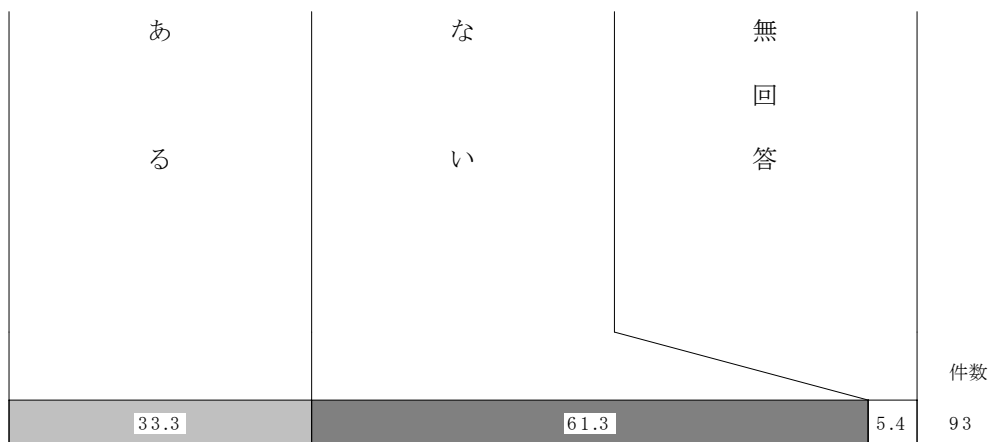
問19 (1) 参加したことがある活動 [%・複数回答]



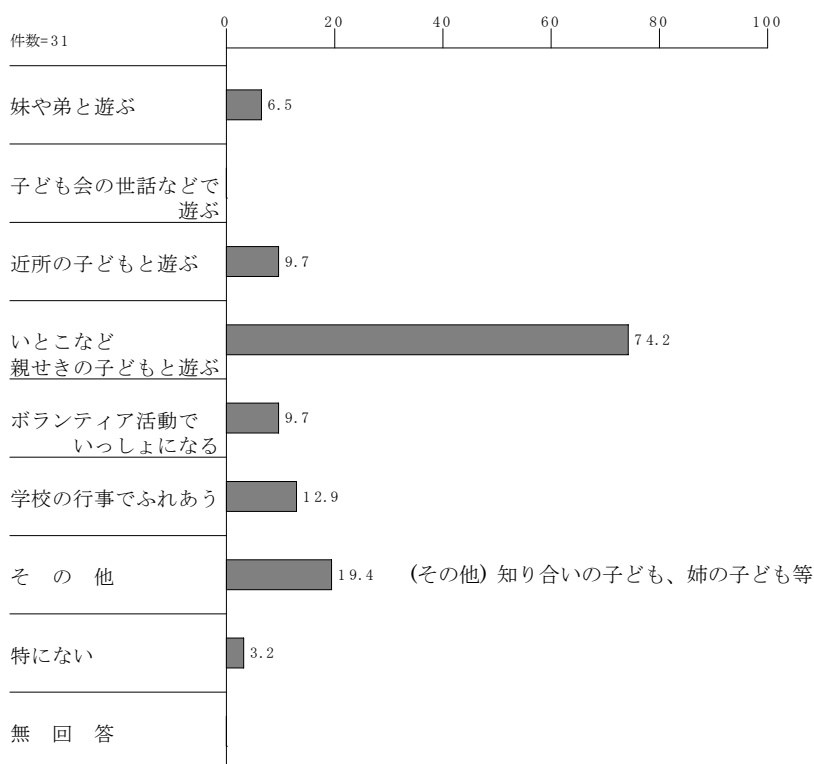
高校2年生は参加率が34%だが、中学2年生は「ある」が59%と高く、女性よりも男性の方が参加率は高く、62%となっている。新川地区・日進地区・西端地区の中高生は、参加率がそれぞれ60%を超えており、なかでも新川地区の中高生では70%に上る。参加した活動は、男性は「スポーツ活動」が多く、女性は「ボランティア活動」への参加が多くみられる。また、新川地区の中高生は「ボランティア活動」に、棚尾地区の中高生は「スポーツ活動」に、日進地区と西端地区の中高生は「子ども会」に参加した割合が高い。

乳幼児との交流機会 ■ 交流する機会が「ある」が 33%で、「ない」という回答は 60%を超えている。交流する機会は、「いとこなど親せきの子どもと遊ぶ」が 74%と特に多く、その他では「学校の行事でふれあう (13%)」「ボランティア活動でいっしょになる (10%)」という回答もみられるが少ない。

問20 乳幼児との交流機会の有無 [%]



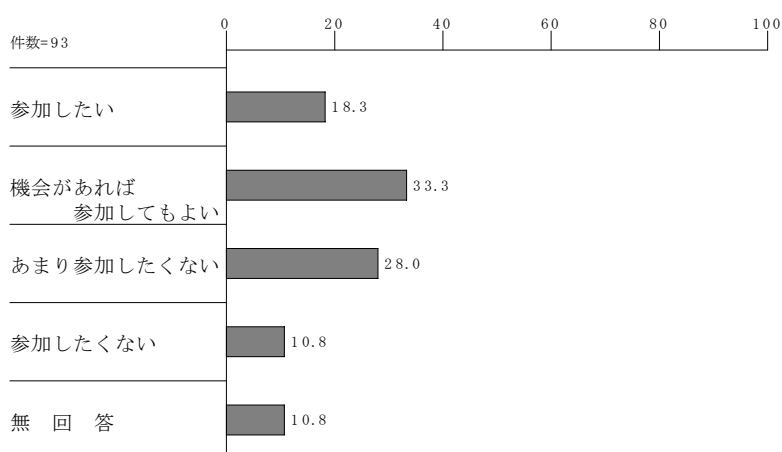
問20(1) 乳幼児とふれあう時 [%・複数回答]



高校2年生よりも中学2年生の方が、交流機会があるという回答が多く、男性よりも女性の方が交流機会は多いことがうかがえる。「いとこなど親せきの子どもと遊ぶ」という回答が、全般的に多い。

乳幼児との交流機会への参加意向 ■「機会があれば参加してもよい」が33%、「参加したい」が18%回答されており、参加意向のある中高生は52%である。

問20(2) 乳幼児との交流機会への参加意向 [%・複数回答]



共稼ぎ世帯の中高生は、「参加したい」と「機会があれば参加してもよい」の合計が60%である。

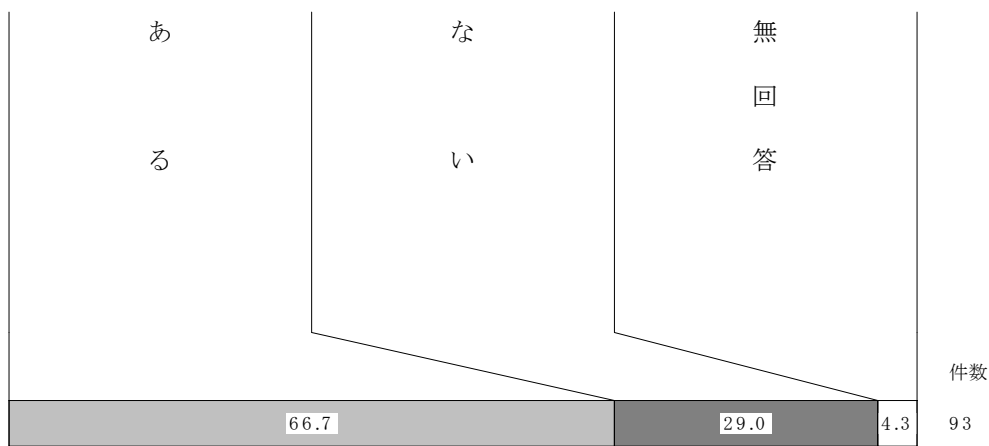
## IV. 4 現状の悩みと中高生本人の考え

■何らかの心配やストレスを感じている中高生が70%近くみられ、その内容は勉強や友人関係、将来の不安が多く、それらの悩みを友達や母親に相談している状況がわかる。  
 ■自分の行動に責任がとれること、経済的な自立が大人になることと考えている中高生が多く、その時期は高校卒業または就職後ととらえられている。また、結婚や子どもをもつことに対して前向きな回答が得られているが、男女の違いが表れている。

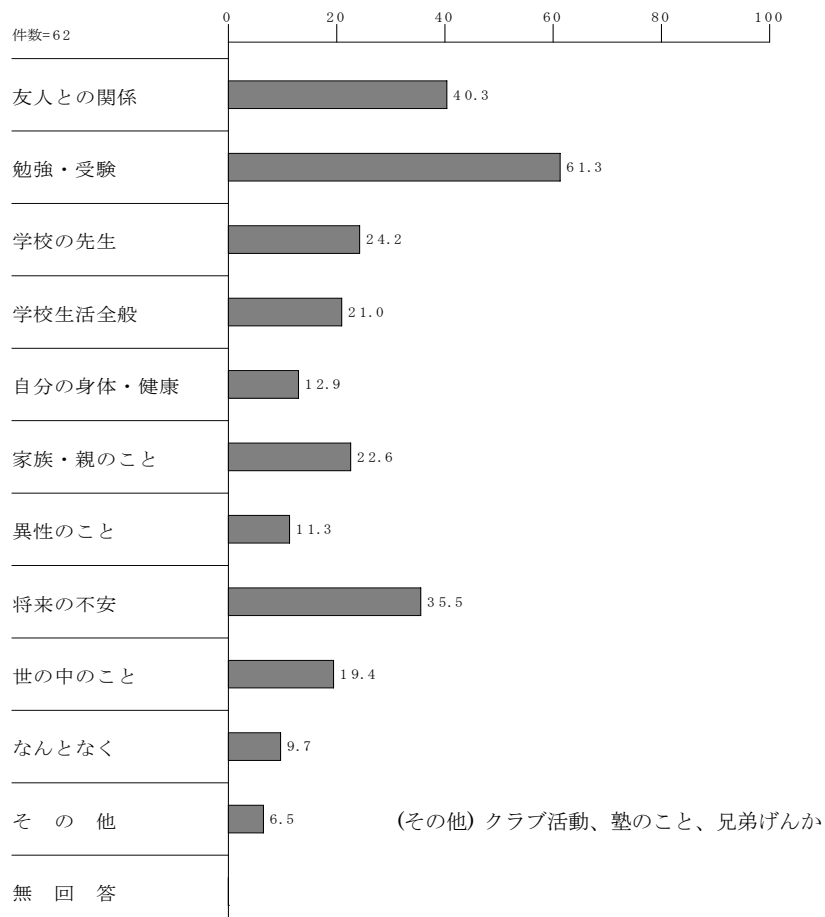
### ① 心配・ストレス

心配、ストレス等 ■1ヶ月間に心配やストレスを感じたことが「ある」中高生は67%に上る。その内容は「勉強・受験」が61%と最も多く、「友人との関係(40%)」「将来の不安(36%)」などが多く回答されている。

問21 1ヶ月間での心配、ストレス等 [%]

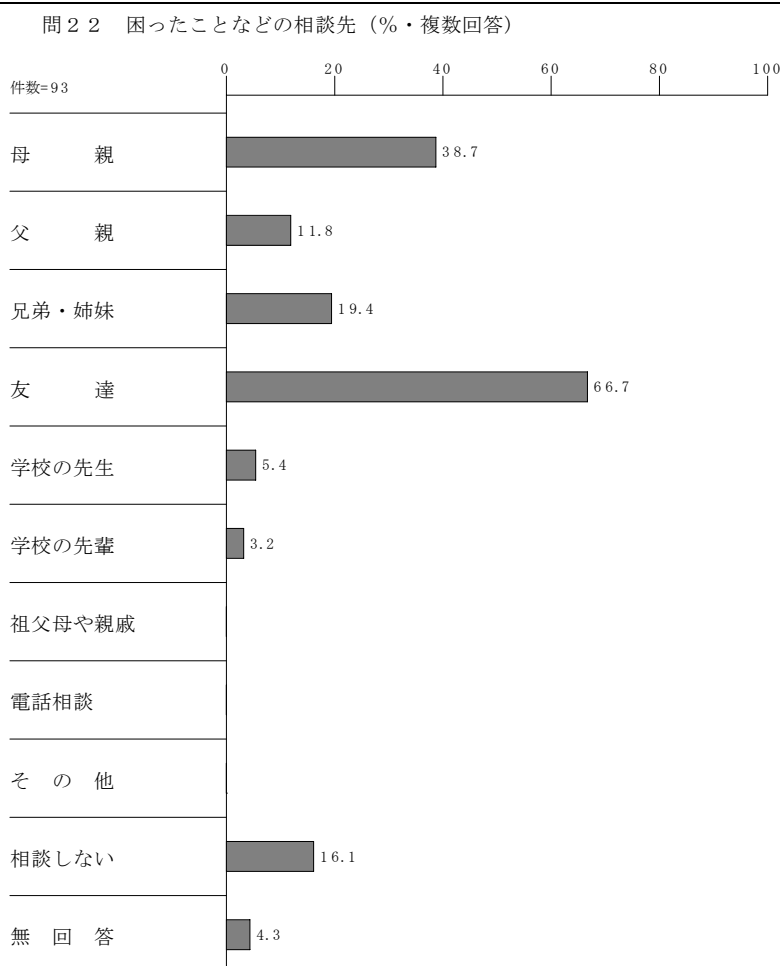


問21 (1) 心配、ストレス等の内容 [%・複数回答]



中学2年生と高校2年生で差異はみられないが、性差は大きく、女性は77%が「ある」、男性は59%となっており、特に中学2年生の女性は85%と高い。また、非共稼ぎ世帯の中高生の方が「ある」という回答が79%に上る。学校生活や友人関係に不満がある中高生は、心配やストレスも多いことがわかる。中学2年生の悩みの内容は、「勉強・受験」の他、「学校の先生」「学校生活全般」や「家族・親のこと」などが高校2年生よりも回答率が高く、高校2年生は「勉強・受験」の他、「友人との関係」「将来の不安」が多く回答されている。

相談先■相談先は「友達」が67%と最も多く、「母親」が39%、「兄弟・姉妹」が19%で続いている。

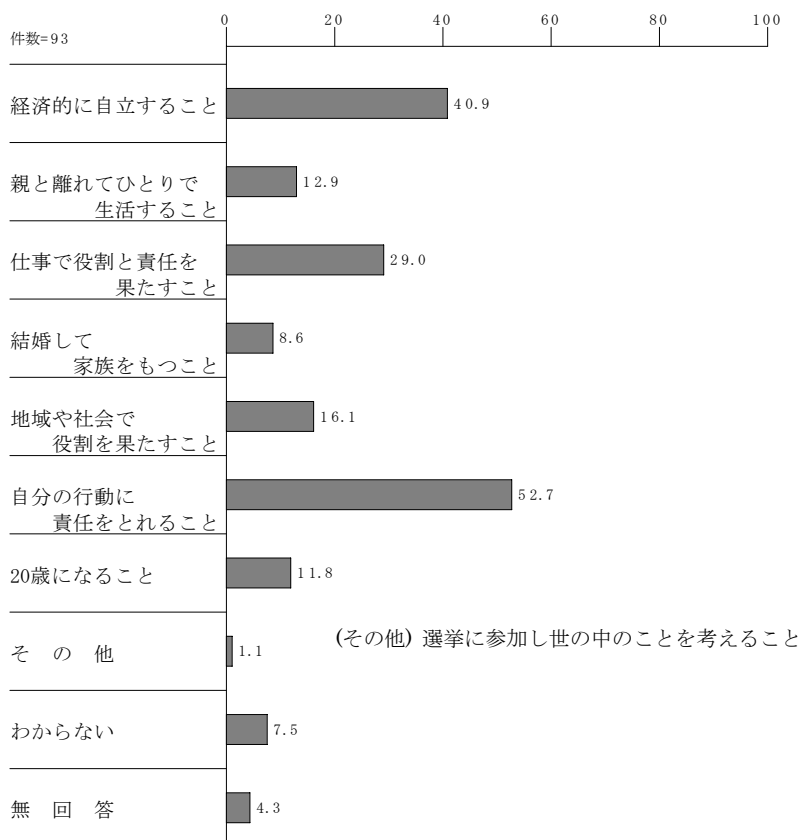


中高生ともに「友達」に相談する割合が高いが、高校2年生の方が「母親」に相談する割合が高く、共稼ぎ世帯の中高生は「友達」に相談する割合が70%を超えて高いが、非共稼ぎ世帯の中高生は、「母親」「父親」「兄弟・姉妹」にも相談している様子が見られる。父親や母親との会話頻度が高い中高生、家族への満足度が高い中高生は、親に相談するという回答が多い。様々な悩みを友達に相談している様子が見られるが、「自分の身体・健康」のことや「世の中のこと」「将来の不安」などは、母親に相談することが多い。

## ② 自立に関すること

大人になること■「自分の行動に責任をとれること」が53%、「経済的に自立すること」が41%で、2項目に回答が多く、その他では「仕事で役割と責任を果たすこと」が29%で続いている。

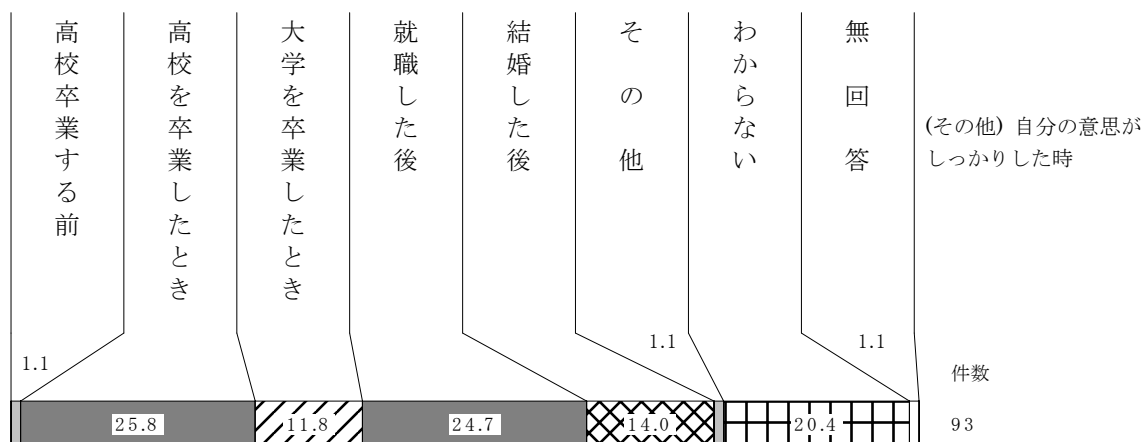
問 2 3 大人になること〔%・複数回答〕



学年による差異はみられないが、性別による違いがみられ、女性は「自分の行動に責任をとれること」が60%と高く、「経済的に自立すること」も44%と高いが、男性はこの2項目の回答が低下しており、「仕事で役割と責任を果たすこと」「親と離れてひとりで生活すること」に回答が移行している。また、非共稼ぎ世帯の中高生は、「自分の行動に責任をとれること」が63%と高い。

自立する時期 ■ 「高校を卒業したとき」が26%、「就職した後」が25%と同程度だが、「わからない」という回答も20%となっている。

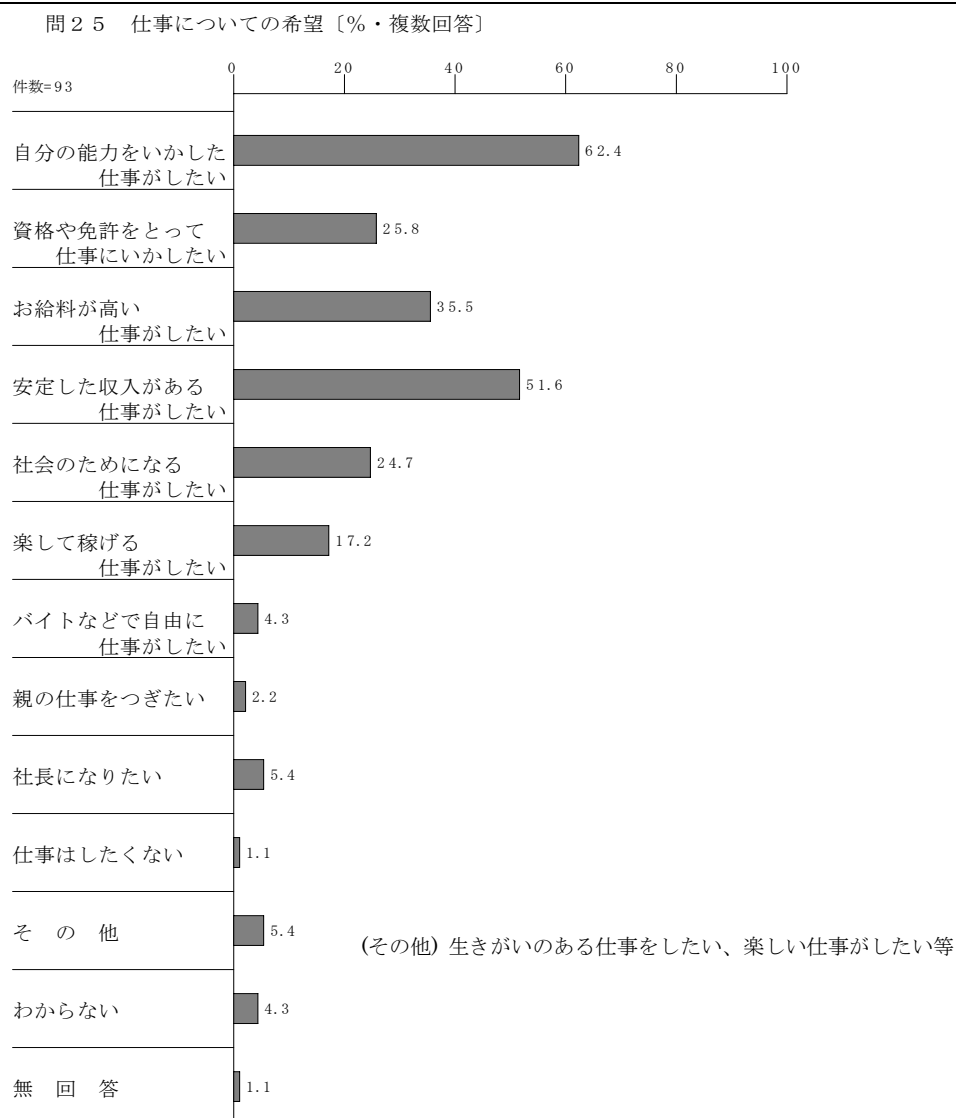
問 2 4 子が自立する時期〔%〕



性別や学年等による差異はみられないが、前問で親と離れて生活すること、20歳になることが大人になることと回答した中高生は、「高校を卒業したとき」が自立時期と考えている。

### ③ 将来の生活

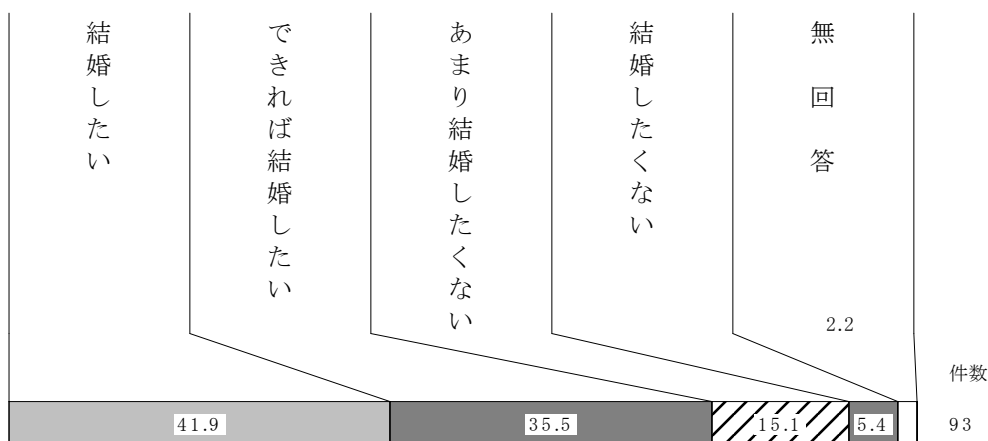
仕事の希望 ■ 「自分の能力をいかした仕事がしたい」が62%と最も多く、「安定した収入がある仕事がしたい」が52%で、2つの項目に回答が多くみられる。その他では、「お給料が高い仕事がしたい」が36%、「資格や免許をとって仕事にいかしたい」が26%で続いている。



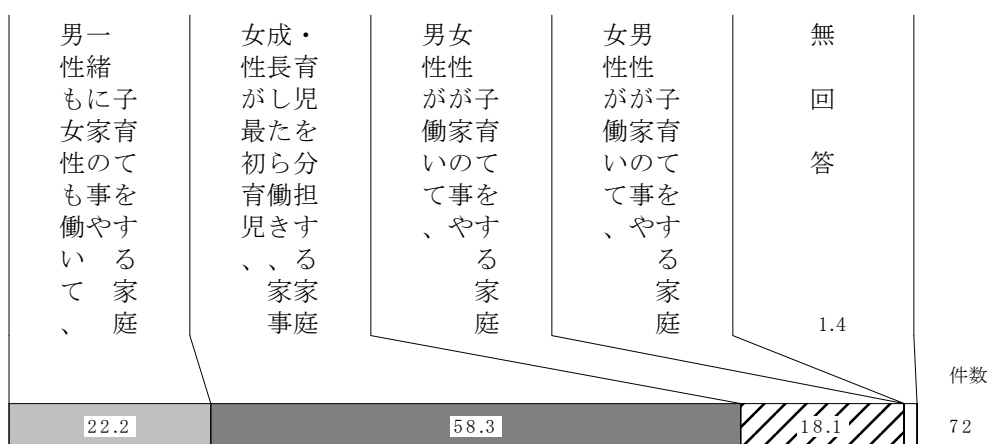
高校2年生は将来の不安も心配事に回答されているが、仕事については「自分の能力をいかした仕事がしたい」が79%、「資格や免許をとって仕事にいかしたい」が34%となっており、中学2年生に比べて大幅に割合が高い。

結婚に対する意識 ■ 「結婚したい」が42%、「できれば結婚したい」が36%で、あわせて77%と高い。結婚したいと思っている中高生が希望する家庭像は、「女性が最初育児、成長したら働き、家事・育児を分担する家庭」が58%と多くを占め、「男性も女性も働いて、一緒に家の事や子育てをする家庭」が22%で続いている。

問26 結婚について [%]



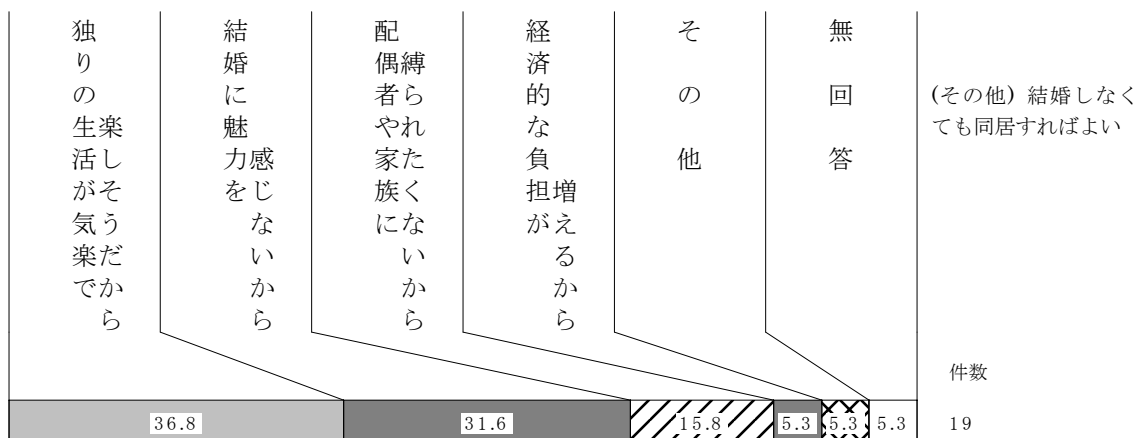
問26 (1) 将来希望する家庭の姿 [%]



男性よりも女性の方が結婚に対する意識が高く、女性は50%が「結婚したい」と回答し、なかでも中学2年生の女性は62%が回答しているが、男性は34%と低い。共稼ぎ世帯の中高生は、「結婚したい」と「できれば結婚したい」が同率だが、非共稼ぎ世帯の中高生は「結婚したい」が53%である。希望する家庭の姿は、男性は「女性が最初育児、成長したら働き、家事・育児を分担する家庭」が62%とやや多く、女性は56%で、「男性も女性も働いて、一緒に家の事や子育てをする家庭」が27%となっている。

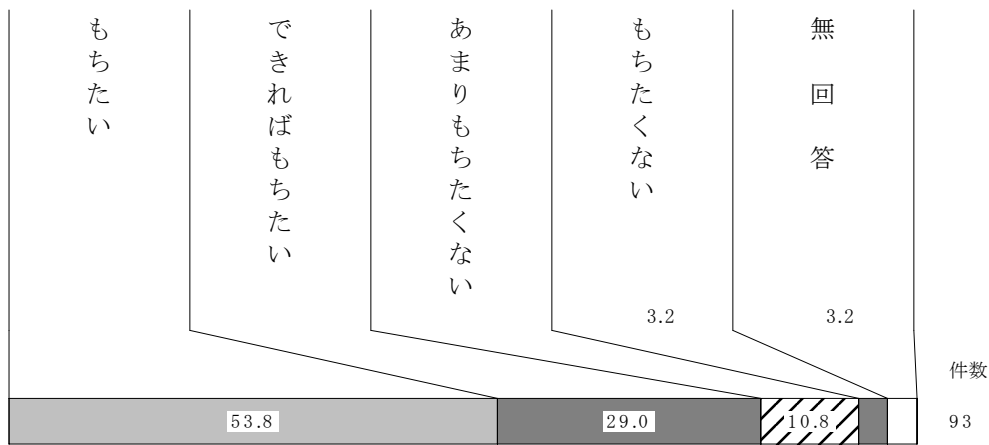
結婚したくない理由 ■少数ではあるが、その理由は「独りの生活が気楽で楽しそうだから」が37%、「結婚に魅力を感じないから」が32%である。

問26 (2) 結婚したくない理由 [%]

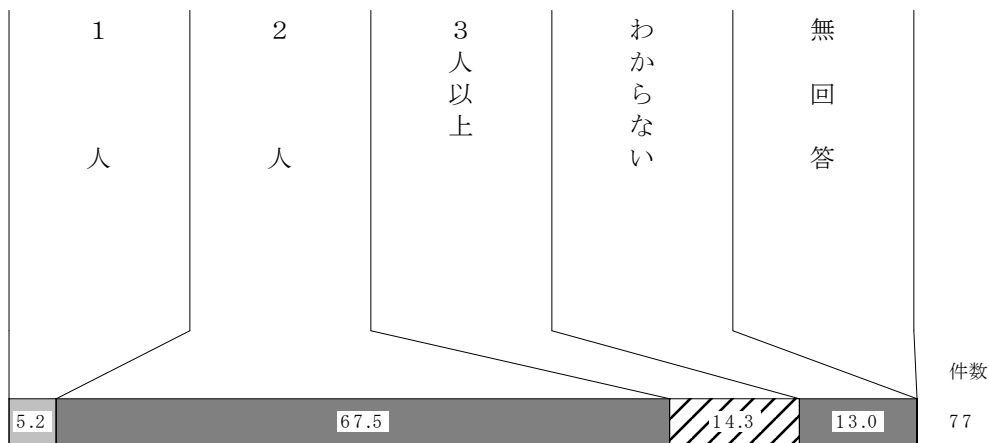


子どもをもつこと■「もちたい」が54%、「できればもちたい」が29%で、あわせて83%に上り、結婚願望よりも若干高い割合となっている。希望する子ども数は「2人」が68%と多くを占めている。

問27 将来子どもをもつこと [%]



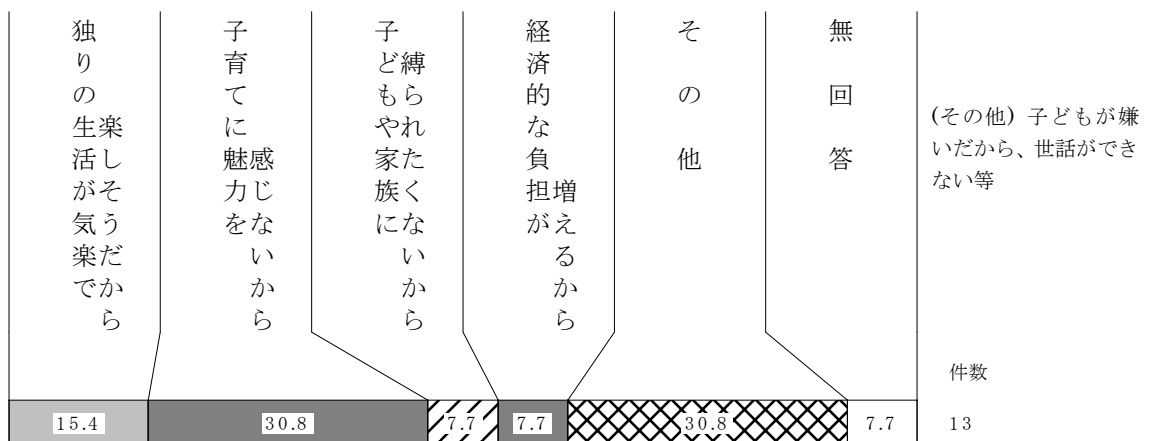
問27 (1) 希望する子ども数 [%]



非共稼ぎ世帯の中高生や兄弟姉妹がいる中高生は、「できればもちたい」よりも「もちたい」という意向が強い。結婚をしたいまたはできればしたいと考えている中高生は、子どもをもつことにも意欲的な回答が多い。

子どもをもちたくない理由■少数だが、その理由は「子育てに魅力を感じないから」が31%と最も多く回答されている。

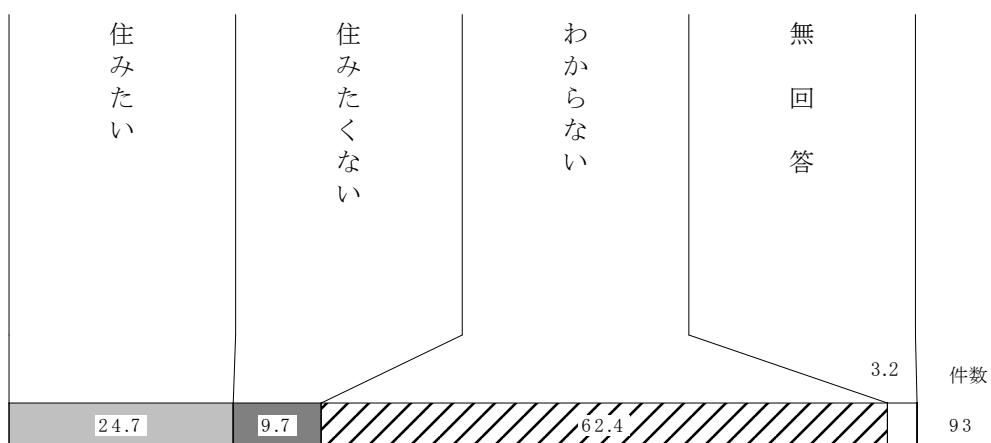
問27 (2) 子どもをもちたくない理由 [%]





定住意向 ■ 「わからない」が62%と多いが、25%は「住みたい」と回答している。

問28 定住意向 [%]

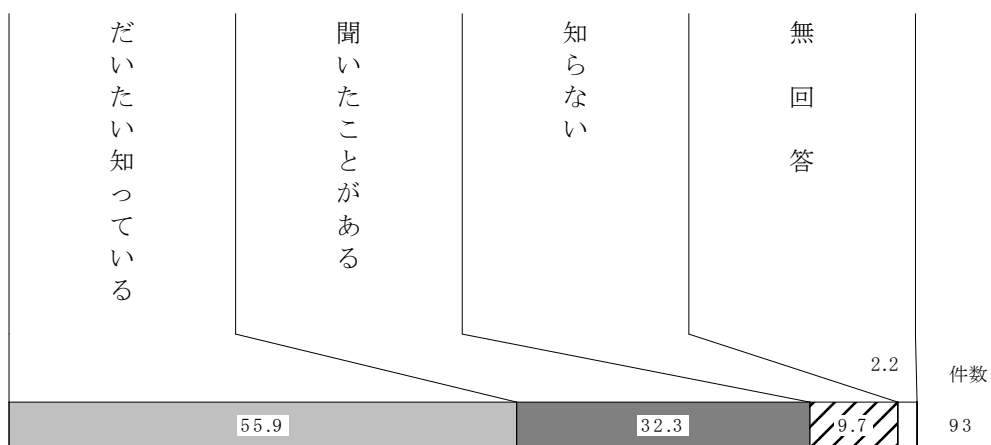


中学2年生よりも高校2年生の方が、「住みたい」割合が34%と高く、大浜地区と鷺塚地区の中高生も「住みたい」という回答がそれぞれ40%弱と高い。学校生活や家族など現在の生活への満足度が高い中高生は、定住意向も高い。

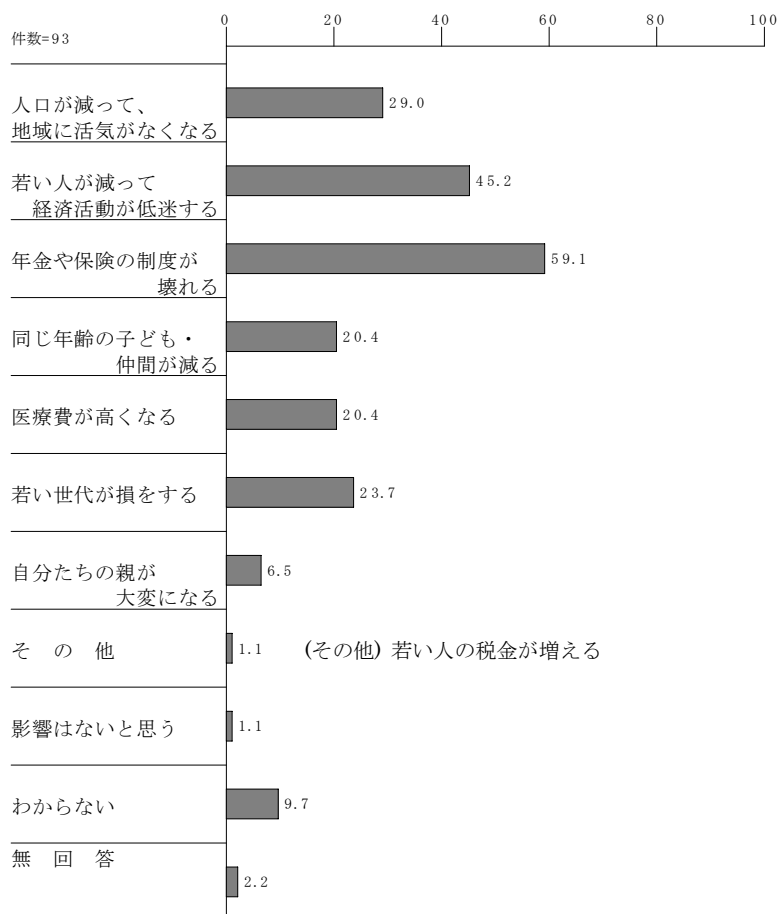
#### ④ 少子化・高齢化の認知

認知 ■ 「だいたい知っている」が56%、「聞いたことがある」が32%と、概ね認知が広まっていることがうかがえる。

問29 少子化・高齢化の認知 [%]



問 2 9 ( 1 ) 少子化・高齢化の影響 [%・複数回答]



女性の回答率が高いこともあるが、女性の方が認知度は高く、中学2年生よりも高校2年生の方が認知度は高い。また、非共稼ぎ世帯の中高生は、68%が「だいたい知っている」と回答している。「若い人が減って経済活動が低迷する」の他、中学2年生は「人口が減って、地域に活気がなくなる」が多く、高校2年生は「医療費が高くなる」が32%回答されている。また、共稼ぎ世帯の中高生は、「年金や保険の制度が壊れる」が90%と特に回答が多く、「若い人が減って経済活動が低迷する」も58%回答されている。

## V. 一般住民調査

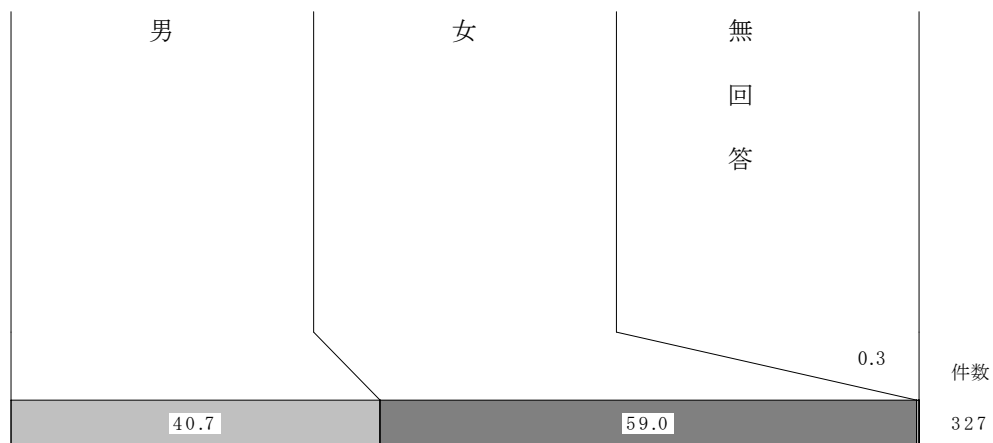
### V.1 対象者とその家族の状況

■回答者の年齢は 20 歳代後半が多く、未婚の回答者の方が多い。また、職業は勤め人が 58%である。

#### ① 回答者の状況

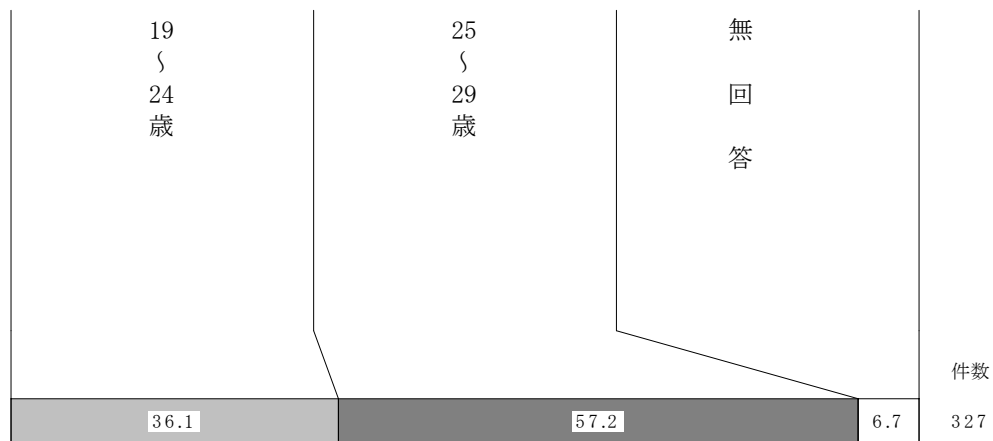
性別 ■ 「男性」が 41%、「女性」59%で、女性の回答率が高い。

問1 (1) 性別 [%]



年齢 ■ 「25～29 歳」が 57%とやや多く、「19～24 歳」が 36%である。

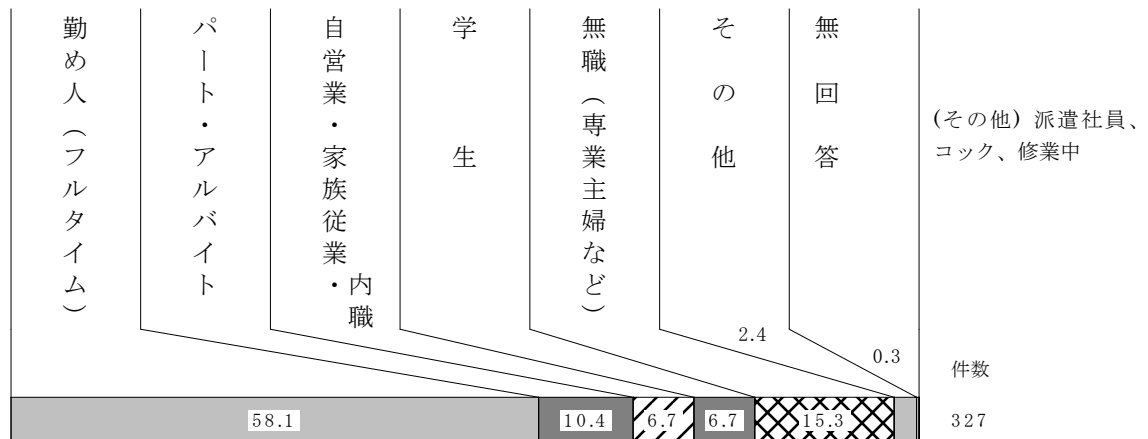
問1 (2) 年齢 [%]



性別と年齢別の比率は同程度である。

職業 ■ 「勤め人（フルタイム）」が58%と最も多く、その他では「無職（専業主婦など）」が15%、「パート・アルバイト」が10%となっている。

問1（3）職業 [%]

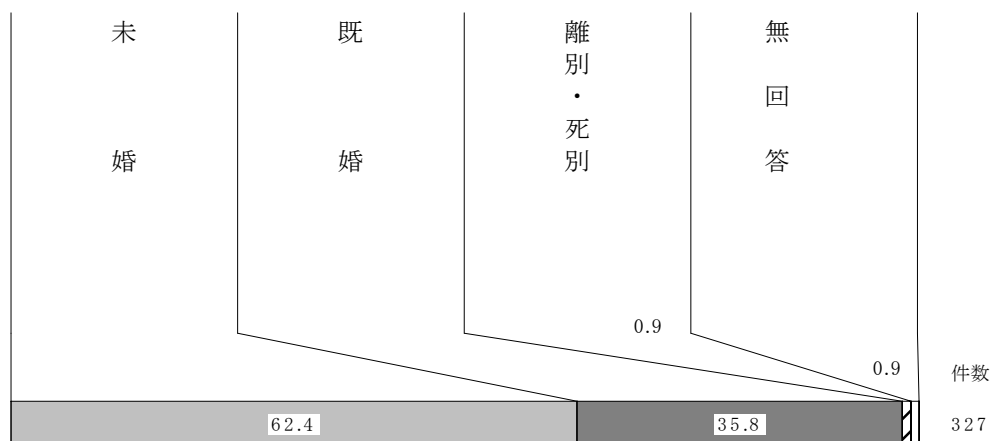


19～24歳では、「学生」が18%と「勤め人（フルタイム）」について多い。25～29歳の女性は、「無職」が29%である。

## ② 回答者の家族・世帯状況

配偶者 ■ 62%が「未婚」者で、「既婚」者は36%である。

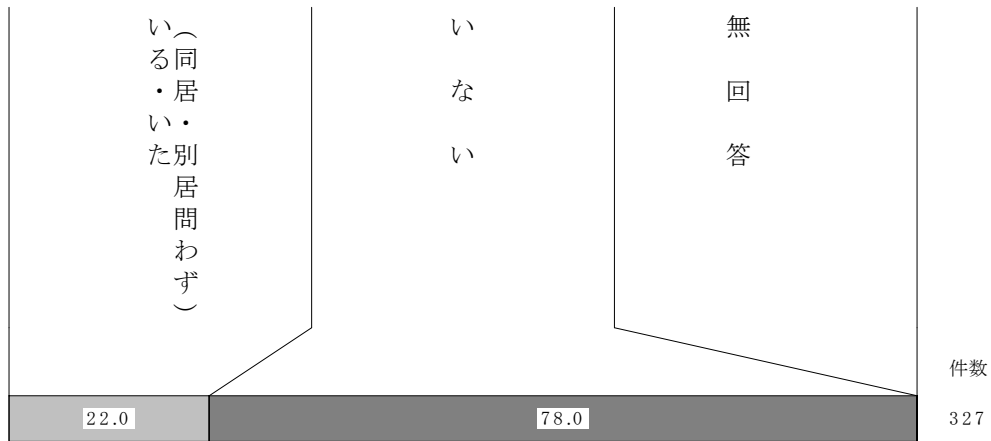
問1（4）配偶者の有無 [%]



25～29歳の回答者は「既婚」率が47%で、19～24歳の回答者は「未婚」率が86%である。25～29歳の男性の既婚率は30%だが、女性は58%となっており、性差が大きい。

子ども■未婚者が多いことから、子どもは「いない」が78%と大半で、「いる・いた（同居・別居問わず）」が22%となっている。

問1（5）子どもの有無 [%]

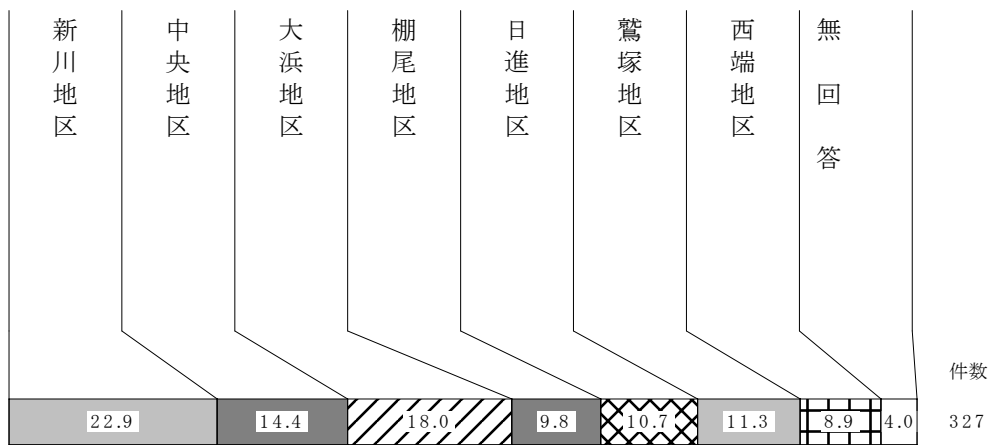


子どもが「いる・いた（同居・別居問わず）」割合は女性の方が高く、25～29歳の女性では34%に上る。

### ③ 居住地区

居住地区■「新川地区」が23%、「大浜地区」が18%とやや多いが、その他の地区はそれぞれ10%前後で分布している。

問1（6）居住地区 [%]

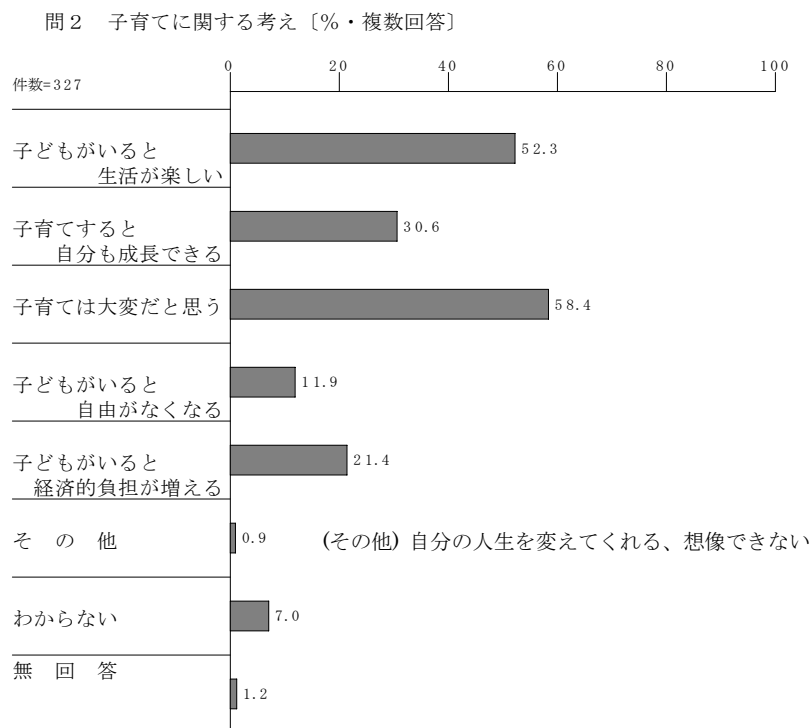


## V.2 子育てに関すること

■子どもがいたら生活が楽しいと思う面と子育ては大変な面を感じており、子育て経験のある回答者では、病気や発育のことが悩みとして多く回答されている。  
■子どもをとりまく環境の変化を敏感に感じており、子ども自身の変化に対する回答もみられるが、子どもと接する機会は家族や親戚以外では少ないといえる。

### ① 子育て観

子育てに関する考え ■「子育ては大変だと思う」が58%、「子どもがいると生活が楽しい」が52%回答されており、2つの項目に回答が多い。ついで、「子育てすると自分も成長できる」が31%で続いている。

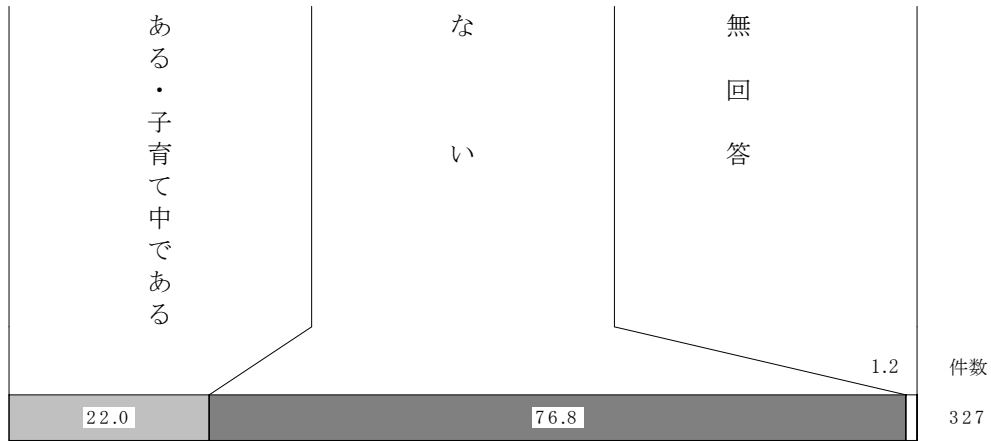


既婚者は、「子どもがいると生活が楽しい」という回答が64%と多く、子どもがいる回答者では、その回答が72%とさらに上昇している。

### ② 子育て経験と子育て期のこと

子育ての経験 ■未婚者が多いことから、77%が「ない」と回答しており、「ある・子育て中である」は22%である。

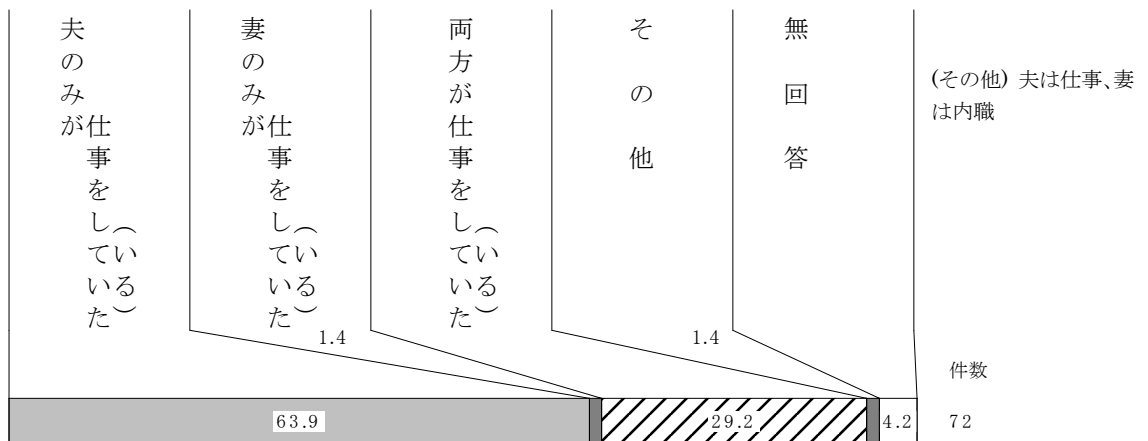
問3 子育て経験 [%]



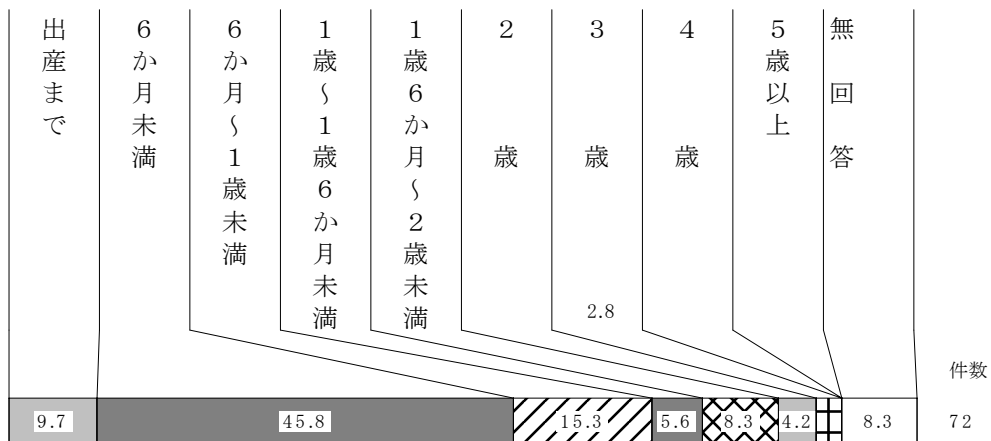
女性の回答者の方が、既婚率が高いことから、「ある・子育て中である」という回答も26%で、男性よりも10%弱高い。西端地区の回答者は、「ある・子育て中である」割合が35%と高い。

就学前の親の就業状況 ■「夫のみが仕事をしていた(いる)」が64%で多く、「両方が仕事をしていた(いる)」共稼ぎの世帯は29%である。そして、悩み・不安の相談相手がほしかった時期は「6か月未満」が46%と最も多く回答されている。

問4 子どもが就学前の夫婦の就業状況 [%]

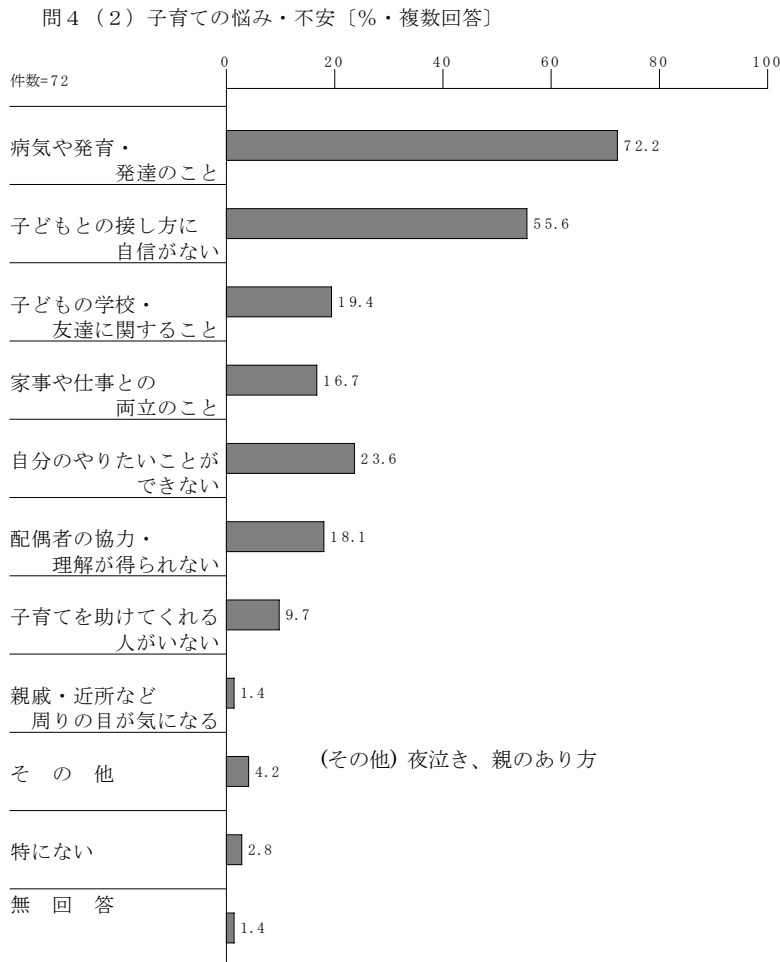


問4 (1) 悩み・不安の相談相手がほしかった時期 [%]



「両方が仕事をしていた（いる）」回答者の職業は、勤め人、パート・アルバイト、自営業・家族従業・内職となっており、「夫のみが仕事をしていた（いる）」回答者の職業は、無職がほとんどである。相談相手がほしかった時期は、全般的に「6か月～1年未満」が多いが、女性の回答者はその割合が52%と特に高い。

子育ての悩み・不安 ■ 「病気や発育・発達のこと」が72%、「子どもとの接し方に自信がない」が56%と、2つの項目に回答が多い。その他では、「自分のやりたいことができない（24%）」や「子どもの学校・友達に関すること（19%）」が続いている。



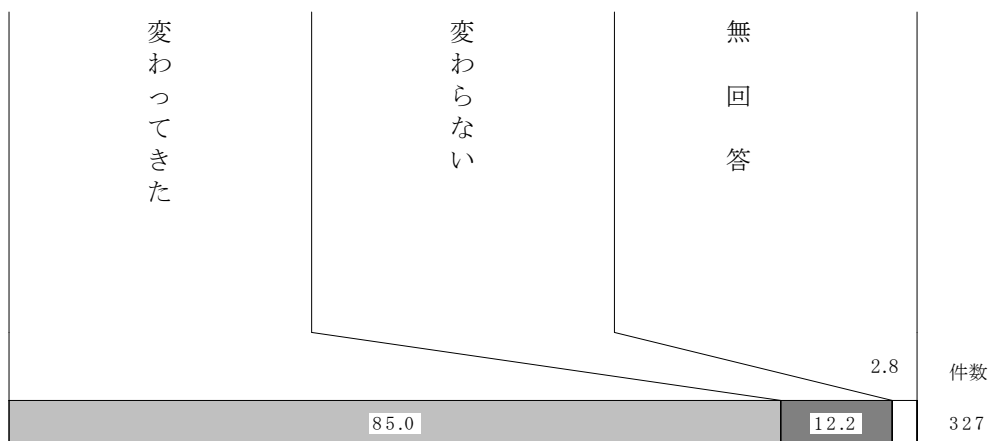
女性の方が子どものいる割合が高いことから、悩み・不安の回答も多く、19～24歳の回答者では、「病気や発育・発達のこと」が92%と特に高く、25～29歳の回答者ではその他に「自分のやりたいことができない」が26%と多く回答されている。

### ③ 子どもをとりまく環境と子育てに必要なこと

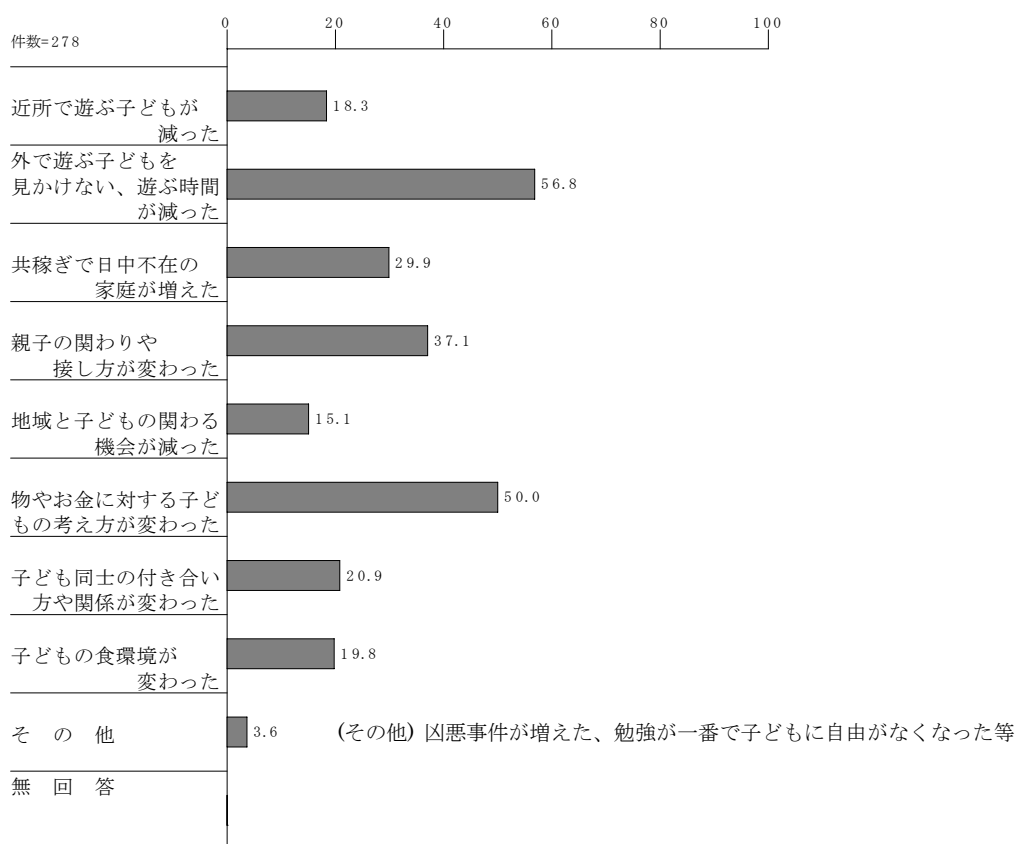
子どもをとりまく環境の変化 ■ 85%が「変わってきた」と回答しており、環境変化を感じている回答者が多い。環境変化を感じることは、「外で遊ぶ子どもを見かけない、遊ぶ時間が減った」が57%、「物やお金に対する子どもの考え方が変わった」が50%と多く回答されている。



問5 子どもをとりまく環境の変化 [%]



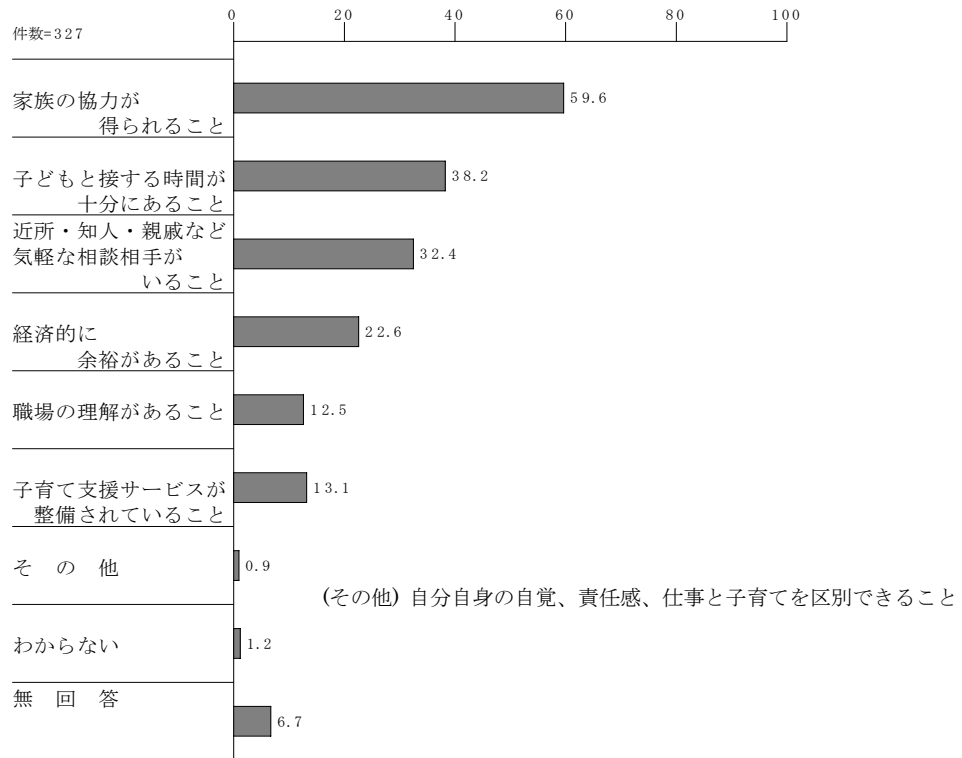
問5 (1) 環境の変化を感じる事 [%・複数回答]



年齢や性別による差異はみられないが、子どものいない回答者の方が「変わってきた」という回答が89%に上る。環境の変化で回答の多い、「外で遊ぶ子どもを見かけない、遊ぶ時間が減った」と「物やお金に対する子どもの考え方が変わった」という回答は、男女ともに多いが、「外で遊ぶ子どもを見かけない、遊ぶ時間が減った」は男性で63%と、女性よりも10%弱高く、「物やお金に対する子どもの考え方が変わった」は女性で56%と、男性よりも16%高い割合となっている。

子育てに必要なこと ■「家族の協力が得られること」が60%と最も多く、その他は「子どもと接する時間が十分にあること」が38%、「近所・知人・親戚など気軽な相談相手がいること」が32%で続いている。

問6 子育てに必要なこと〔%・複数回答〕

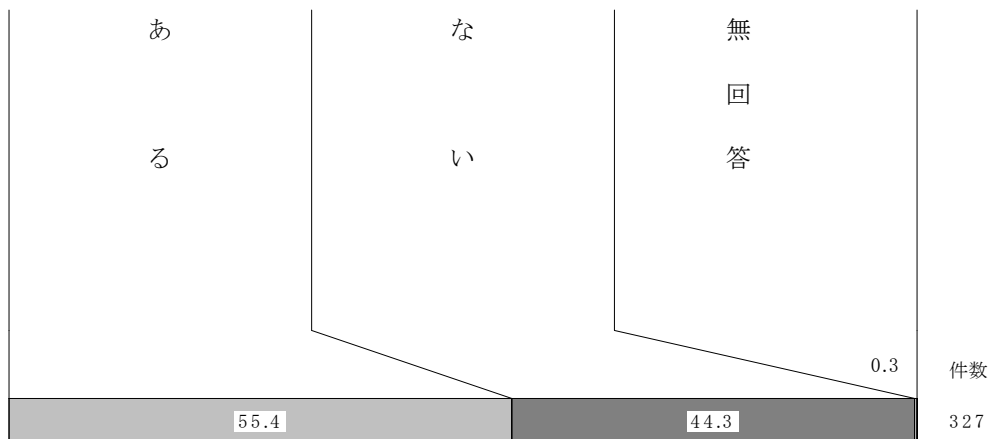


「家族の協力が得られること」は全般的に多く回答されているが、実際に育児に携わっていることが見込まれる女性、既婚者または無職の回答者、子どもがいる回答者で割合が高い。男性は、「家族の協力が得られること」と「子どもと接する時間が十分にあること」が僅差となっている。未婚者と子どもがいない回答者では、「子どもと接する時間が十分にあること」が多く回答されている。

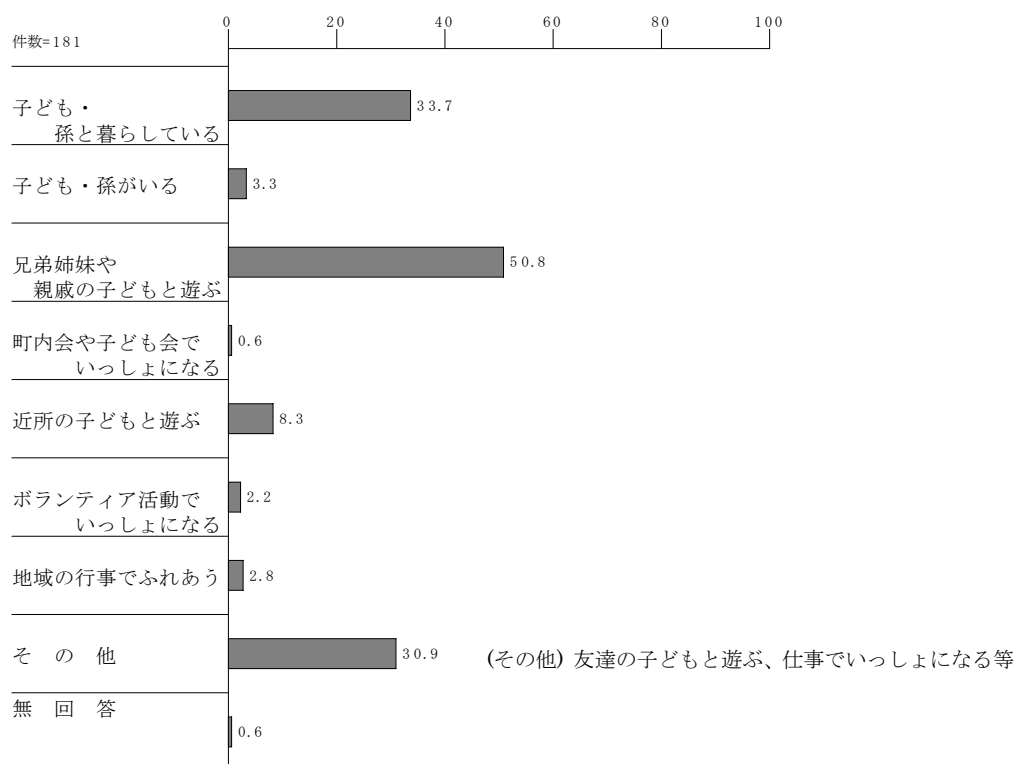
#### ④ 乳幼児との交流

乳幼児との交流機会 ■ 交流機会が「ある」回答者は 55%で、「兄弟姉妹や親戚の子どもと遊ぶ」ことが多く回答されている。子どものいる回答者も含まれることから、「子ども・孫と暮らしている」も 34%となっている。

問7 乳幼児との交流機会の有無〔%〕



問7 (1) 乳幼児との交流機会 [%・複数回答]



女性の66%は、交流の機会が「ある」と回答しているが、男性は60%が「ない」と回答しており、19～24歳よりも25～29歳の回答者の方が、既婚率・子どものいる割合が高いことから、「ある」という回答が多く、「兄弟姉妹や親戚の子どもと遊ぶ」または「子ども・孫と暮らしている」状況がうかがえる。また、日進地区と西端地区の回答者は、「ある」割合がそれぞれ70%弱と高く、「兄弟姉妹や親戚の子どもと遊ぶ」という回答が、中央地区と大浜地区の回答者で多く回答されている。

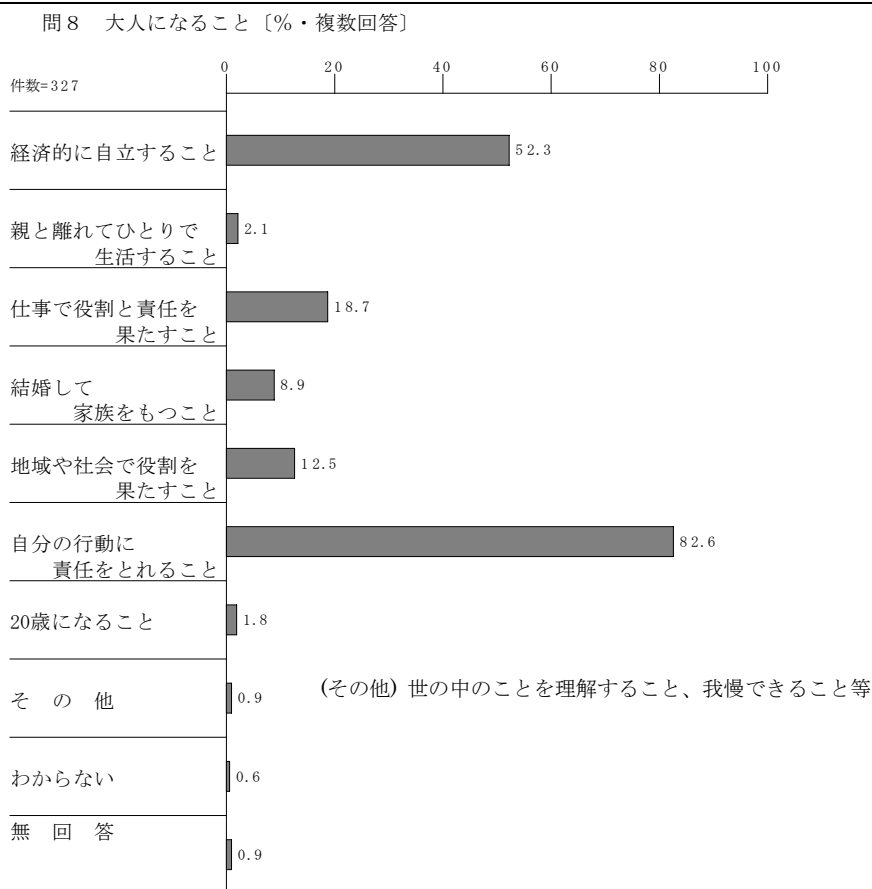
### V.3 自立や今後の暮らしについての考え

■中高生と同様に、自分の行動に責任をとれることと経済的自立が大人になることという考えが多くみられ、自立時期は就職した後ととらえている。

■結婚や子どもをもつことに対する前向きな意向はみられるが、できれば、どちらかといえばという回答が増えている。子どもをもちたくない回答者は少数だが、その理由として子育てに魅力を感じられないという回答もみられ、理想の子ども数を実現しにくくしている要因としては、経済的な負担、仕事・育児・家事の両立が難しい、晩婚化が多く回答されており、子どもの保護者と同様の回答が多い。

#### ① 自立に関すること

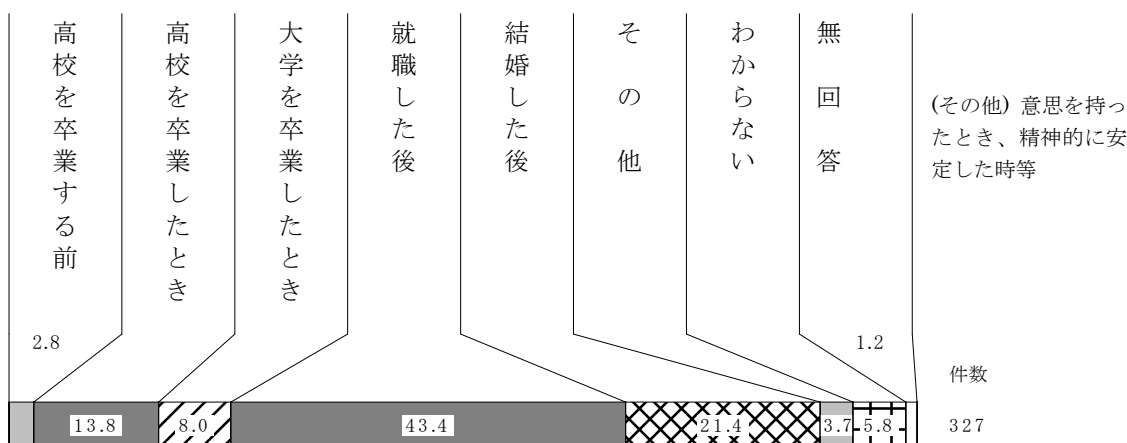
大人になること ■「自分の行動に責任をとれること」が83%、「経済的に自立すること」が52%と、2つの項目に回答が多い。



女性は、「自分の行動に責任をとれること」が88%と高いが、男性はその割合が若干低下し、「仕事で役割と責任を果たすこと」や「結婚して家族をもつこと」などにも回答がみられ、中高生の調査結果と類似している。

自立時期 ■「就職した後」が43%と最も多く、その他では「結婚した後(21%)」や「高校を卒業したとき(14%)」が回答されているが、中高生よりも自立時期は遅い回答が多い。

問9 子が自立する時期〔%〕

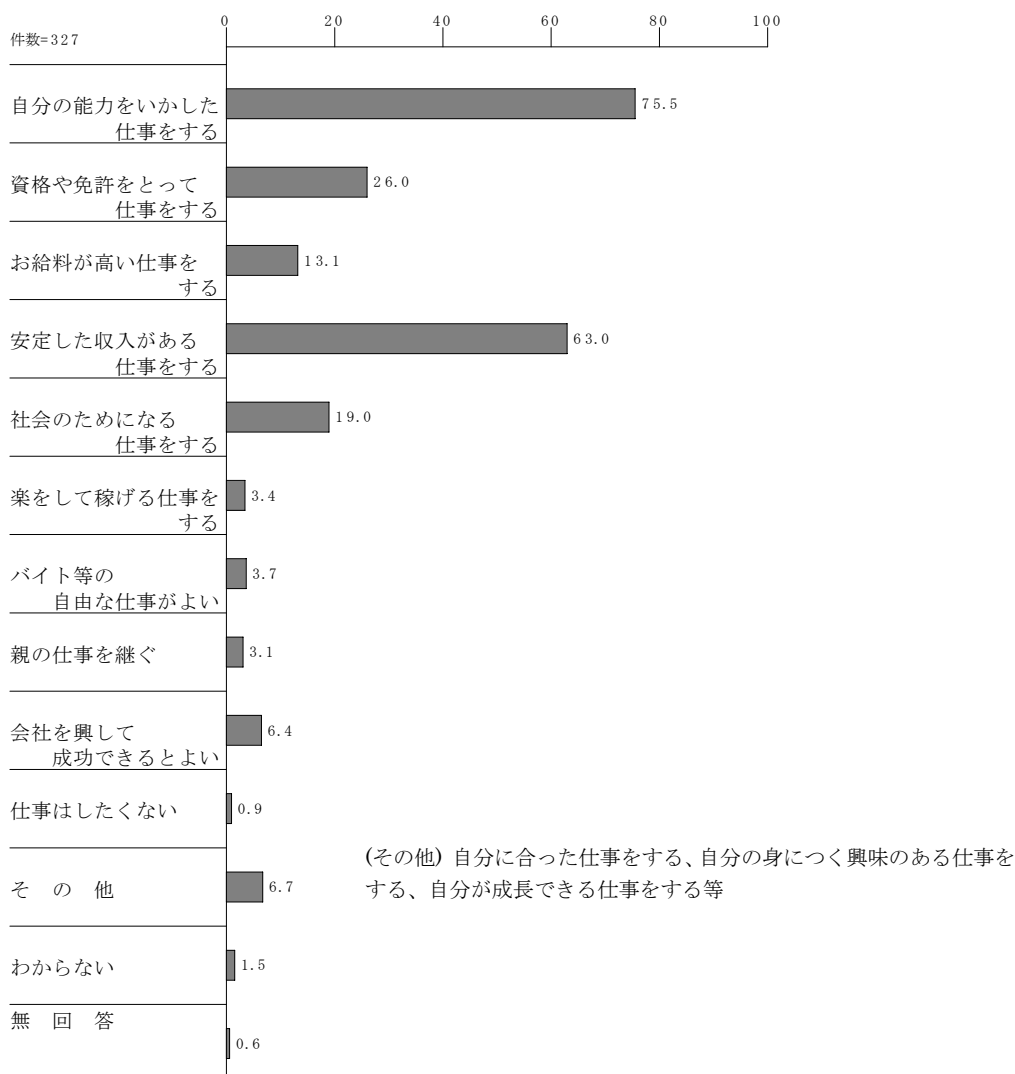


学生は、59%が「就職した後」と回答している。前問の大人になることで、「親と離れてひとりで生活すること」の回答者は、「高校を卒業したとき」と回答しており、「結婚して家族をもつこと」の回答者は、「結婚した後」が自立時期と回答している。

## ② 仕事と結婚についての考え

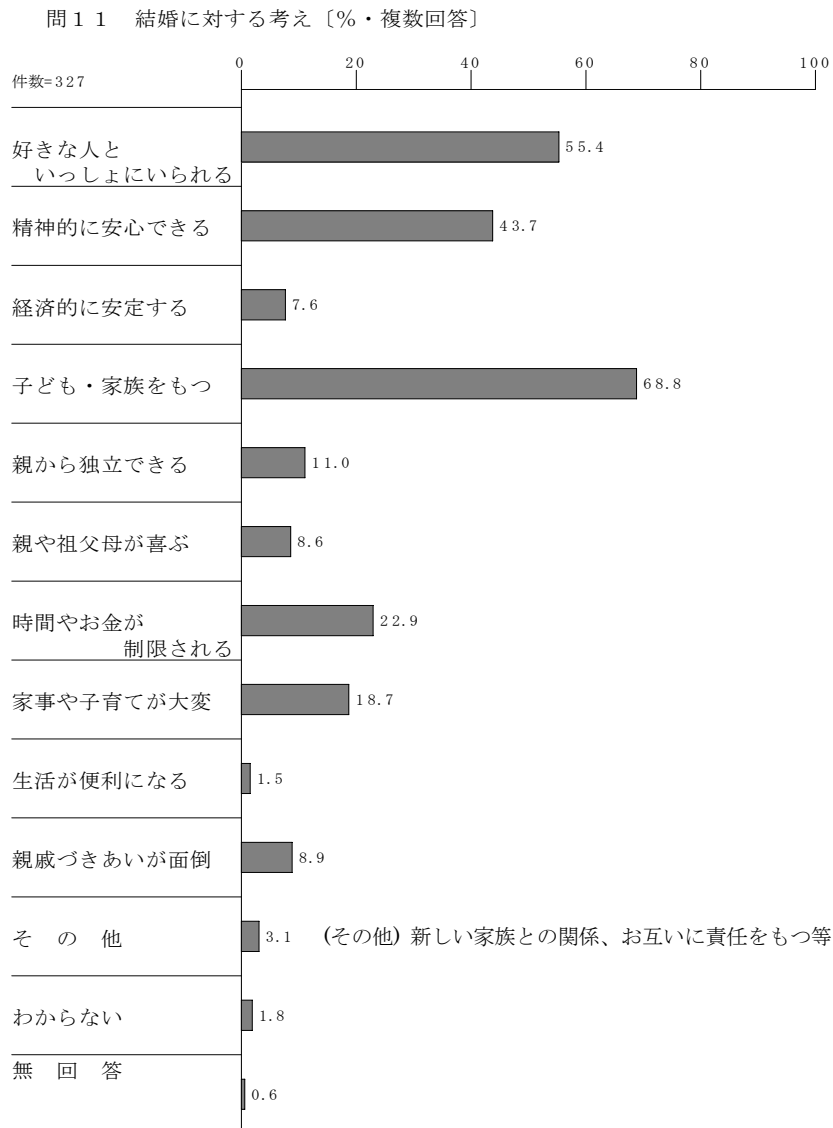
仕事に対する考え ■ 「自分の能力をいかした仕事をする」が76%、「安定した収入がある仕事をする」が63%と、この2項目に回答が多い。その他では、「資格や免許をとって仕事をする(26%)」や「社会のためになる仕事をする(19%)」が続いている。

問10 仕事に対する考え〔%・複数回答〕



男女ともに、「自分の能力をいかした仕事をする」という回答が多いが、2番目に回答の多い「安定した収入がある仕事をする」という回答は、女性の回答率が67%と高く、「資格や免許をとって仕事をする」割合も女性の方が高い。「お給料が高い仕事をする」「社会のためになる仕事をする」という回答は、女性よりも男性で多くみられる。

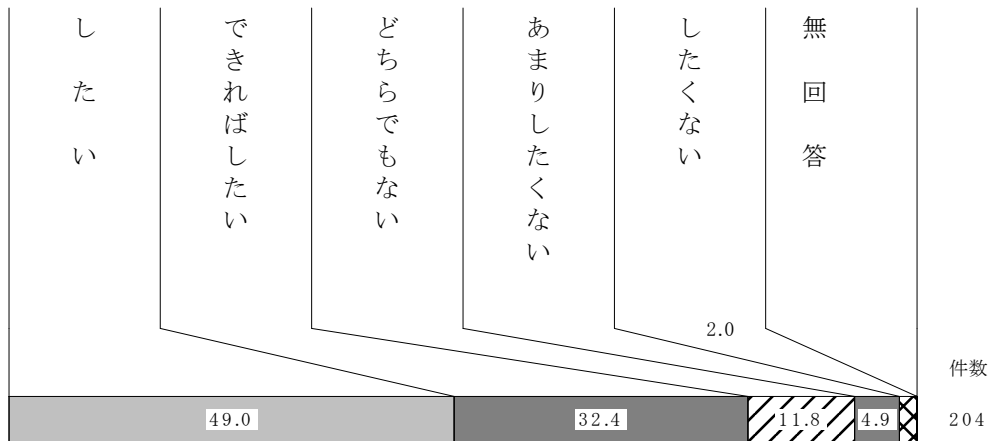
結婚観 ■ 結婚により、「子ども・家族をもつ」が69%と最も多く、「好きな人といっしょにいられる」が55%、「精神的に安心できる」が44%で、3項目に回答が多い。



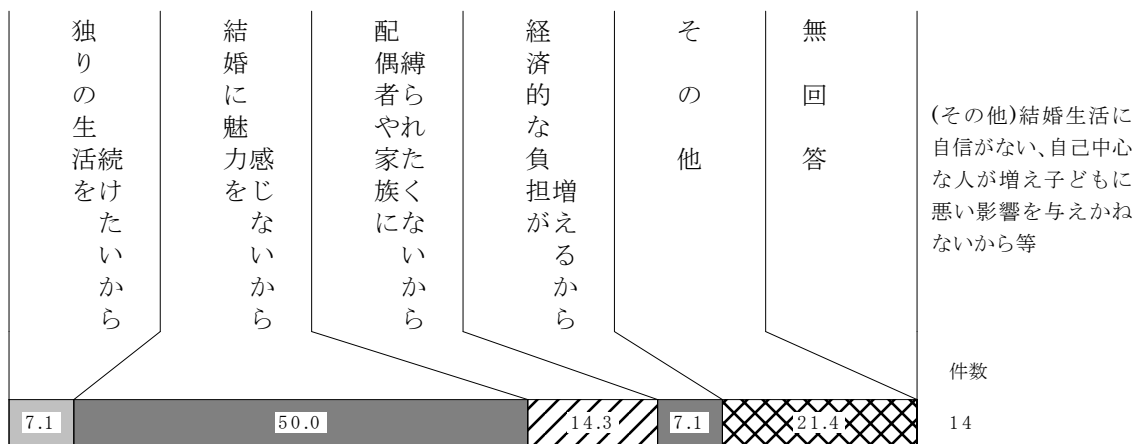
性別・年齢による差異はさほどみられないが、子育て感と結婚観は関連性がみられ、子どもや子育てにマイナスイメージを持っている回答者は、結婚観も「子ども・家族をもつ」ことについての回答は少ない。

未婚者の結婚願望 ■ 結婚「したい」が49%、「できればしたい」が32%で、81%が結婚したいと回答している。17%の結婚したくない回答者は、その理由として、「結婚に魅力を感じないから」が50%と多く回答されている。

問12 未婚者の結婚に対する希望 [%]



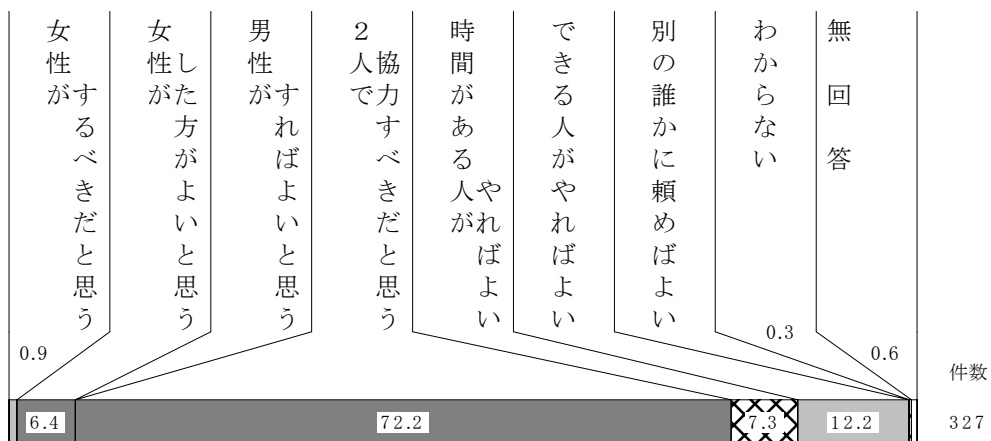
問12 (1) 未婚者の結婚したくない理由 [%]



### ③ 家庭生活に関する考え

家事分担 ■ 「2人で協力すべきだと思う」が72%と大半を占めている。

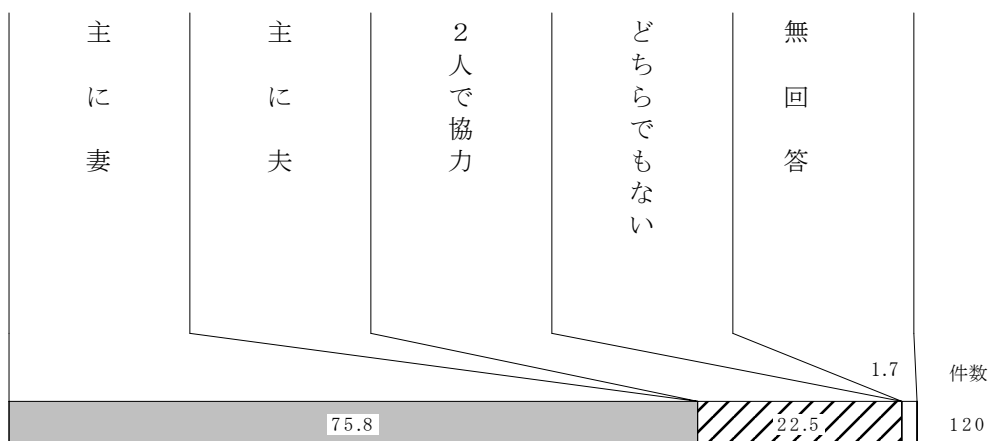
問13 家事分担についての考え [%]



男性よりも女性の方が、「2人で協力すべきだと思う」という回答が多く、男女で10%以上差異がある。

実生活の家事分担 ■ 「主に妻」が76%と大半を占めており、前問の望ましい家事分担の回答とは大きく乖離している。

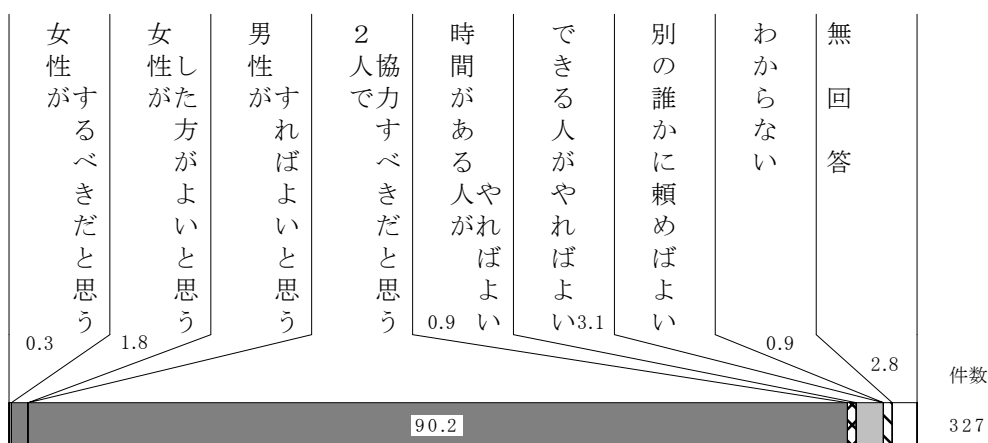
問 1 4 実生活の家事分担 [%]



19～24歳の既婚者はやや少ないが、「主に妻」が家事をしているという回答がほとんどで、25～29歳の既婚者は「主に妻」の割合が低下し、「2人で協力」という回答が26%となっている。

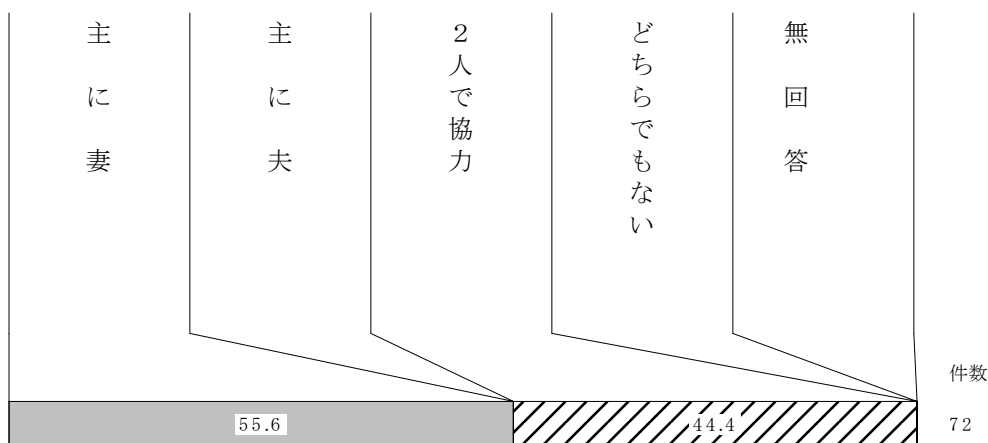
育児・教育 ■ 「2人で協力すべきだと思う」が90%と、ほとんどが回答しており、家事分担よりも割合が高い。

問 1 5 育児・教育についての考え [%]



実生活の育児・教育の分担 ■ 「主に妻」が56%と多いが、「2人で協力」も44%回答されており、前問の望ましい育児・教育の分担とは異なっているが、家事分担よりは乖離していない。

問 1 6 実生活の育児・教育の分担 [%]

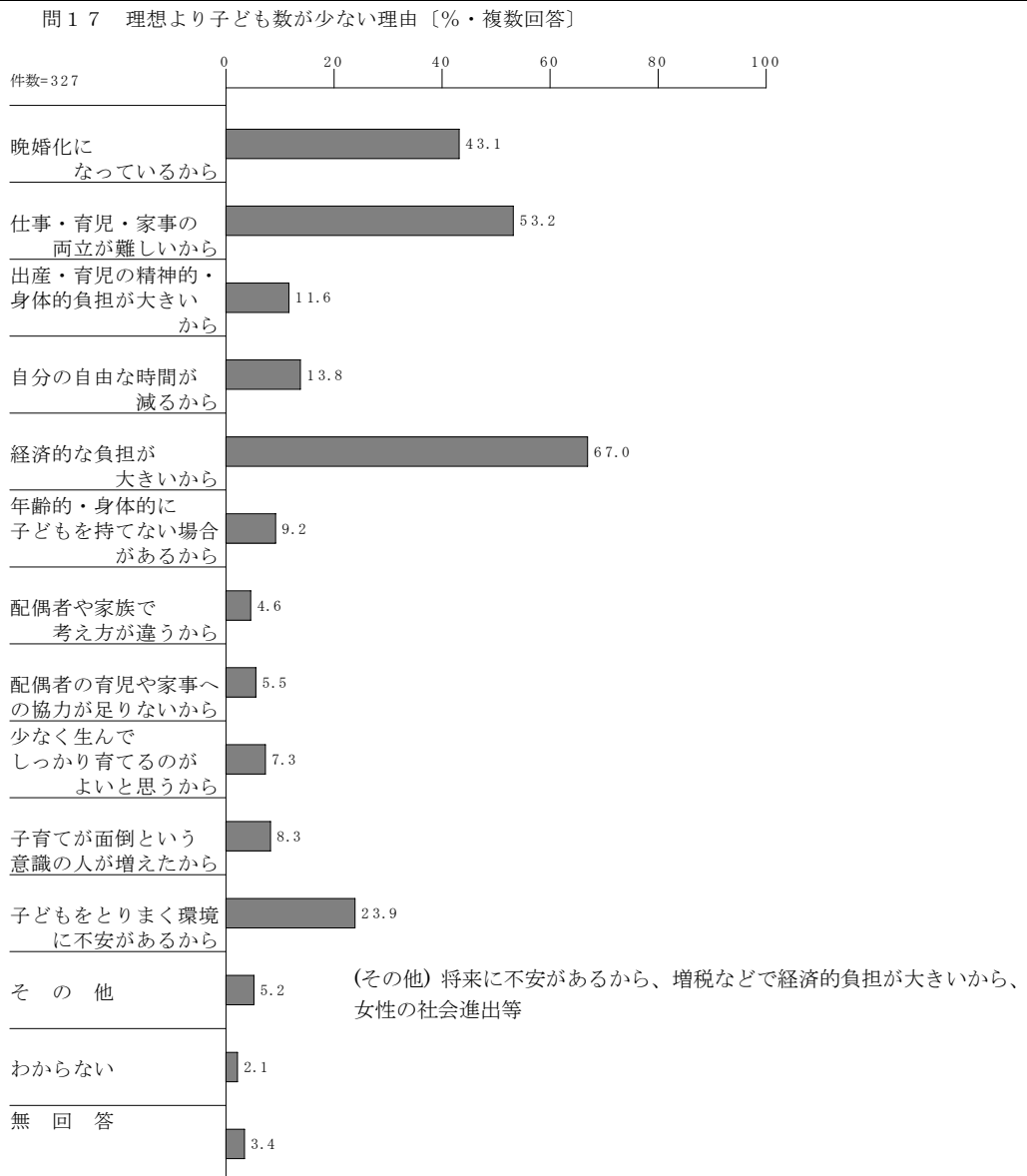




19～24歳の子どものいる回答者が少ないが、「主に妻」という回答がほとんどで、25～29歳の子どものいる回答者は「主に妻」の割合が低下し、「2人で協力」という回答が48%となっている。

#### ④ 子どもをもつことについての考え

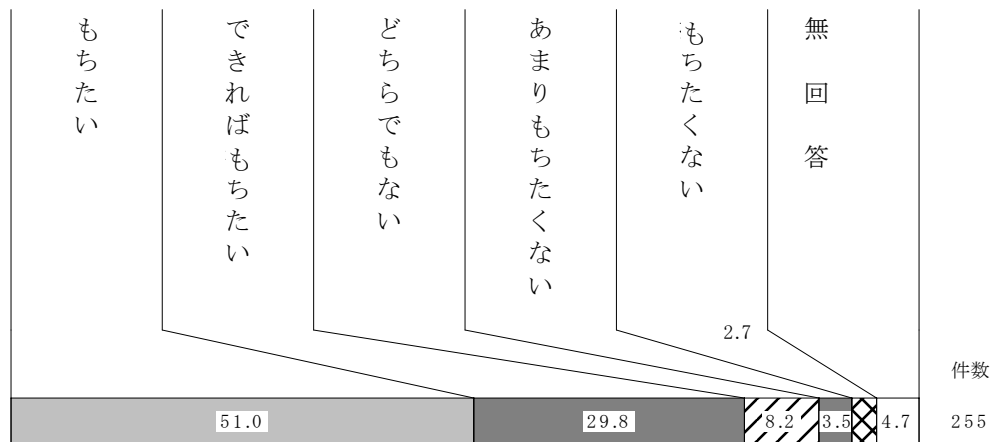
理想より子ども数が少ない理由■児童保護者と同様に、「経済的な負担が大きいから」が67%と最も多く、「仕事・育児・家事の両立が難しいから」が53%、「晩婚化になっているから」が43%となっている。



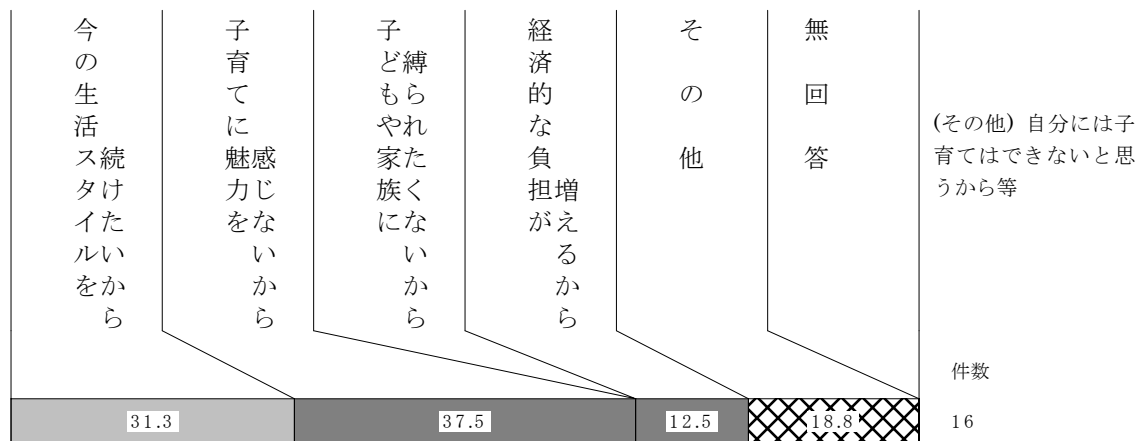
回答の多い「経済的な負担が大きいから」と「仕事・育児・家事の両立が難しいから」という回答は、19～24歳の回答者や未婚者、子どものいない回答者の方が割合は若干高い。「仕事・育児・家事の両立が難しいから」と「晩婚化になっているから」という回答は、男性よりも女性の回答率が高い。

子どもをもつこと■「もちたい」が51%、「できればもちたい」が30%で、あわせて81%に上る。6%程度の子どもをもちたくないという回答者の理由は、「子育てに魅力を感じないから」が38%、「今の生活スタイルを続けたいから」が31%回答されている。

問18 子どもをもつことについての考え [%]

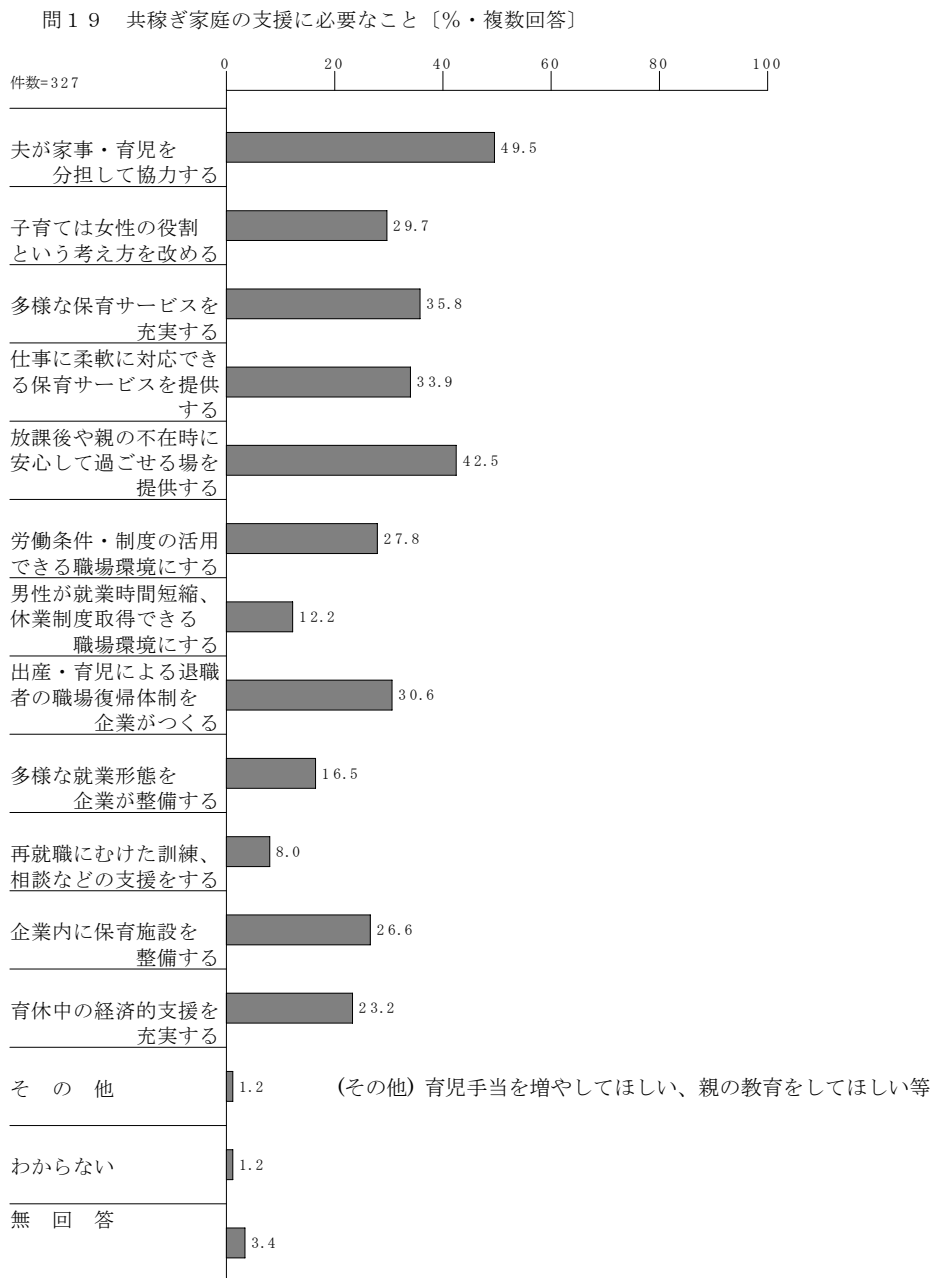


問18 (1) 子どもをもちたくない理由 [%]



男性よりも女性の方が、子どもをもつ意向が高く、未婚者では結婚意向の高さに応じて、子どもをもつことにも意欲的な回答が多くみられる。

共稼ぎ家庭の支援に必要なこと ■ 「夫が家事・育児を分担して協力する」が50%、「放課後や親の不在時に安心して過ごせる場を提供する」が43%と回答が多い。その他では「多様な保育サービスを充実する」が36%、「仕事に柔軟に対応できる保育サービスを提供する」が34%など、回答率が高い。



19～24歳の回答者や未婚者は、職場や就業の環境、制度についての回答が多くみられるが、既婚者や子どもがいる回答者では、「多様な保育サービスを充実する」が49%、「放課後や親の不在時に安心して過ごせる場を提供する」が51%、「企業内に保育施設を整備する」が33%など、子育て支援や保育に関する回答が多い。あわせて、子育て中の回答者は、「多様な保育サービスを充実する」と「放課後や親の不在時に安心して過ごせる場を提供する」がそれぞれ51%回答されている。

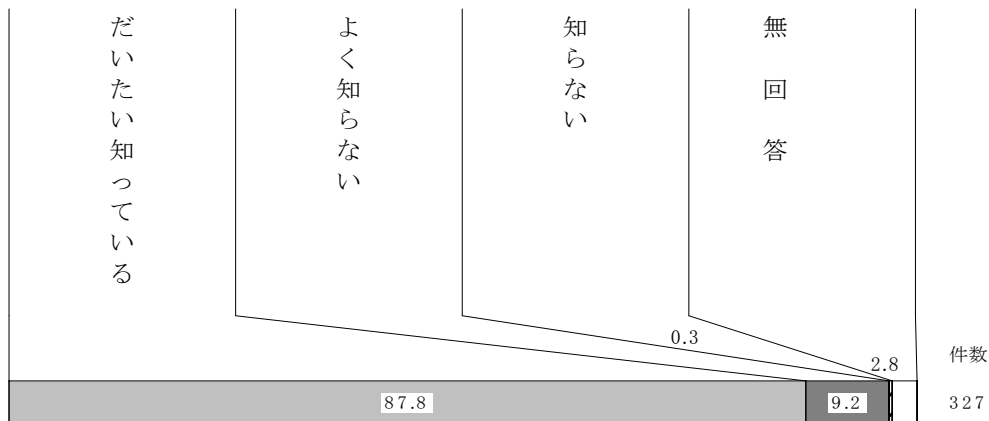
## V. 4 少子化・高齢化問題とまちづくり

- 少子化・高齢化に関するする認知度は高く、年金・保険制度の崩壊を懸念する回答が多い。
- 碧南市が子育てや子どもの教育によいまちかということについては、中間的な回答が多いが、子育て支援として地域に期待すること、また自分が協力できることなどは比較的広く回答が分布している。

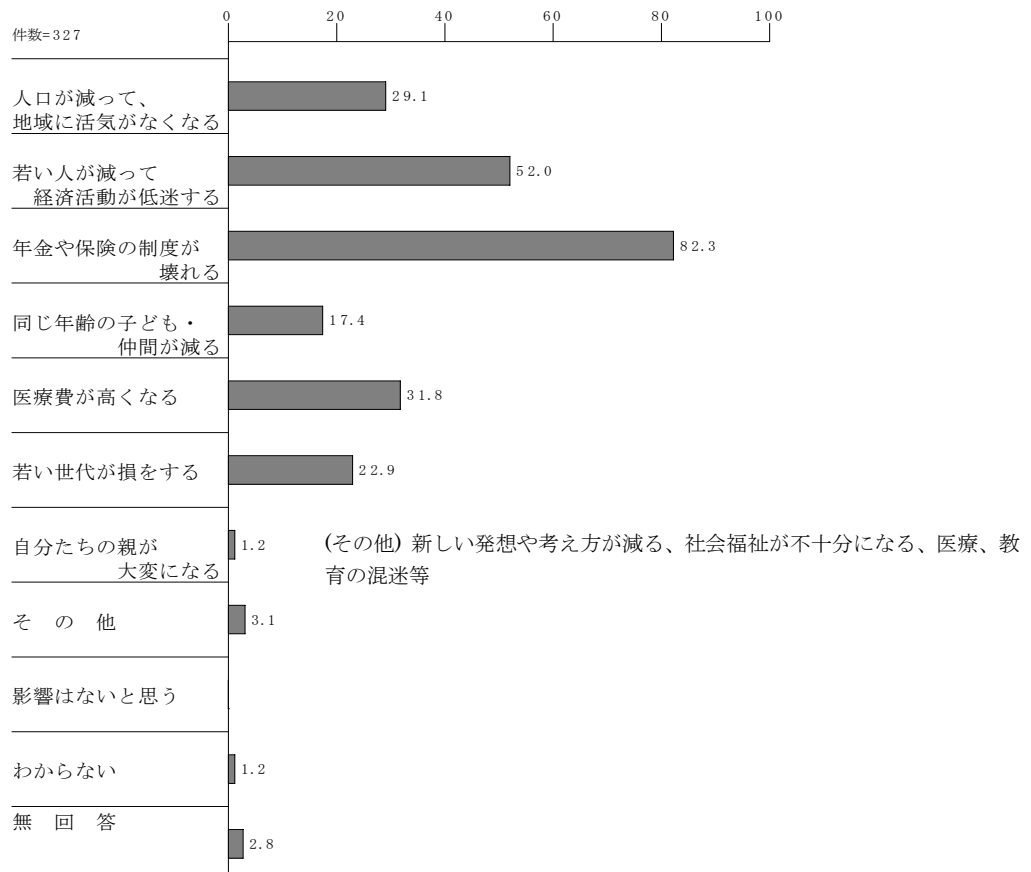
### ① 少子化・高齢化の認知

認知 ■「だいたい知っている」が88%と、認知度は高い。少子化・高齢化の影響については、「年金や保険の制度が壊れる」が82%と特に多く回答されており、「若い人が減って経済活動が低迷する」が52%と、2項目に回答が多い。その他では、「医療費が高くなる（32%）」「人口が減って、地域に活気がなくなる（29%）」が続いている。

問20 少子化・高齢化についての認知 [%]



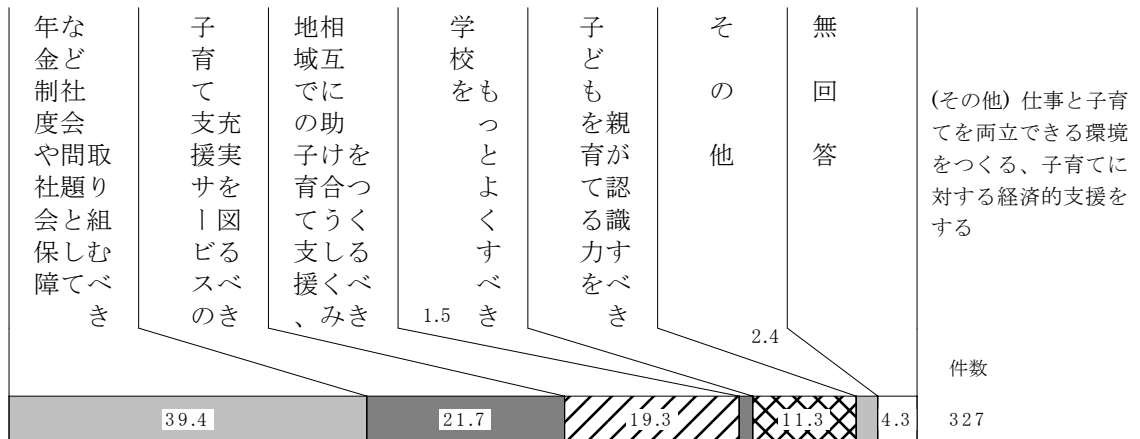
問21 少子化・高齢化による影響 [%・複数回答]



性別・年齢に関わらず、認知度は高く、「だいたい知っている」回答者は少子化の影響に関する回答率も高い。最も回答の多い「年金や保険の制度が壊れる」という回答は、女性の回答率が87%と高い。

子育て・次世代問題への取り組み■「年金制度や社会保障など社会問題として取り組むべき」が39%と最も多く、問題意識が強いといえる。その他では、「子育て支援サービスの充実を図るべき(22%)」、「地域での子育て支援、相互に助け合うしくみをつくるべき(19%)」が続いている。

問22 子育て・次世代の問題のとらえ方〔%〕

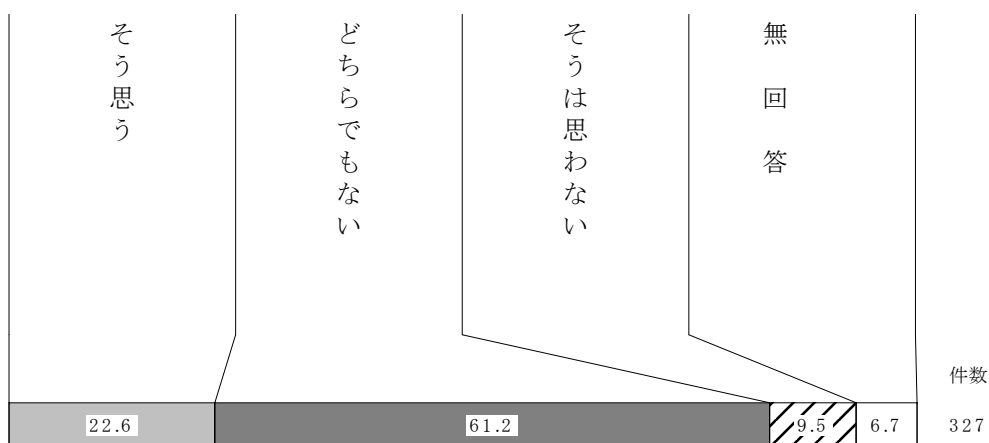


男性は、47%が「年金制度や社会保障など社会問題として取り組むべき」と回答しており、女性(35%)に比べて特に高く、女性は、「子育て支援サービスの充実を図るべき」という回答が29%で、男性(12%)よりも高い。

## ② 碧南市のまちづくり等

子育てをしやすいまちだと思う■「どちらでもない」が61%と多いが、「そう思う」が23%回答されており、「そうは思わない」に比べて大幅に多い。

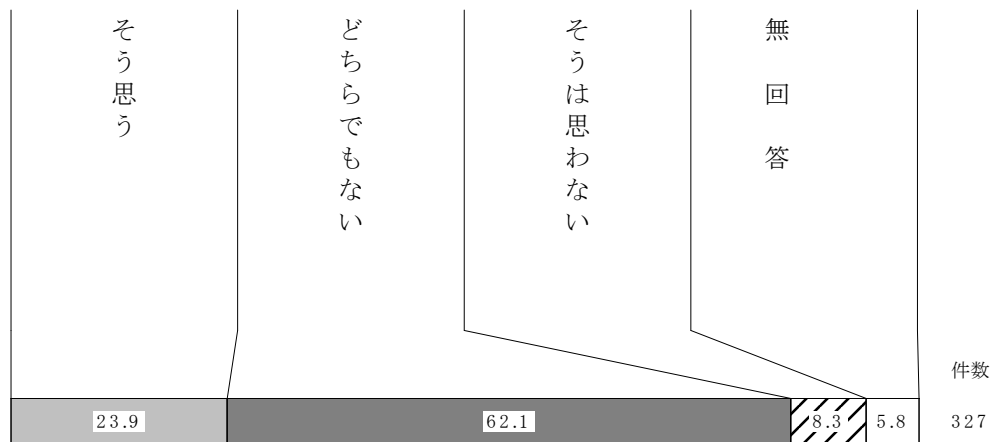
問23 子育てをしやすいまちだと思う〔%〕



男性よりも女性の方が、「そう思う」という回答がやや多い。

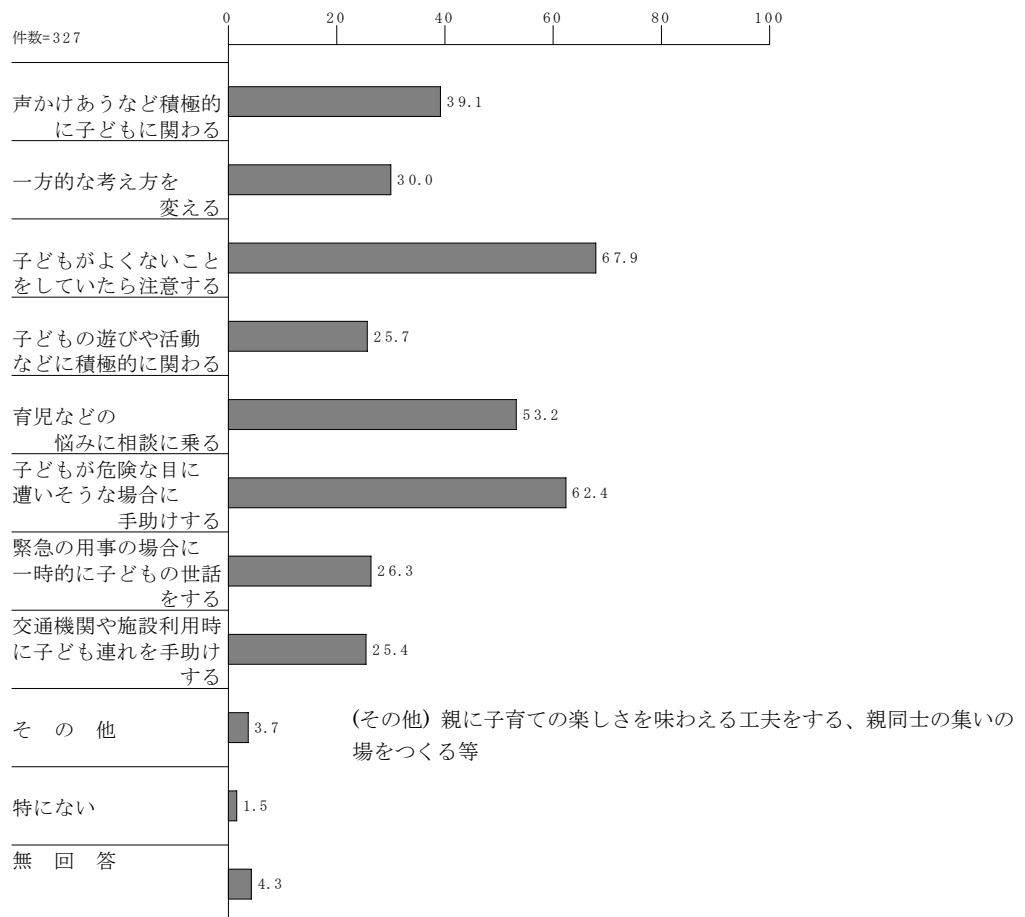
子どもの成長・教育によいまちだと思う■「どちらでもない」が62%と多いが、「そう思う」が24%で、「そうは思わない」を大幅に上回っており、前問と同様の回答状況となっている。

問24 子どもの成長・教育によいまちだと思う [%]



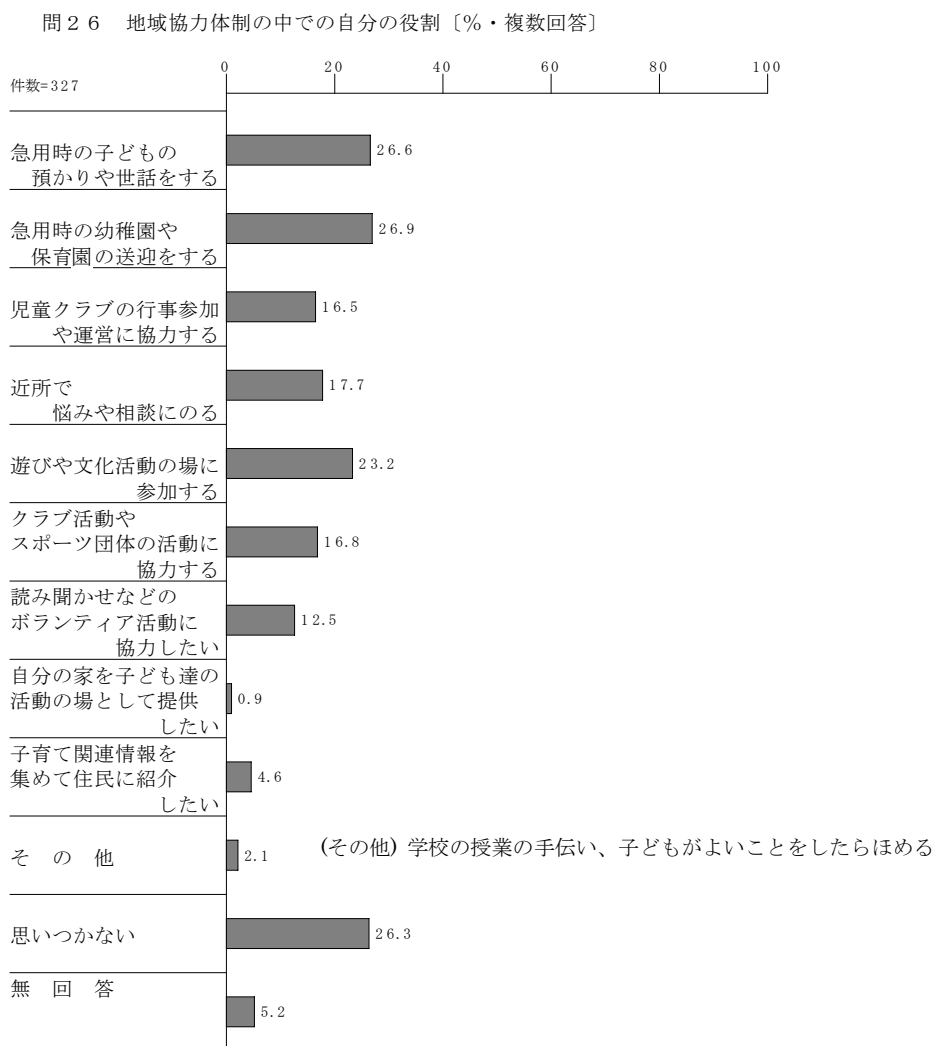
子育て支援で必要なこと■「子どもがよくないことをしていたら注意する」が68%、「子どもが危険な目に遭いそうな場合に手助けする」が62%と、僅差で多く回答されている。また、「育児などの悩みに相談に乗る」が53%、「声かけあうなど積極的に子どもに関わる」が39%など、比較的回答率が高い。

問25 地域での子育て支援で必要なこと [%・複数回答]



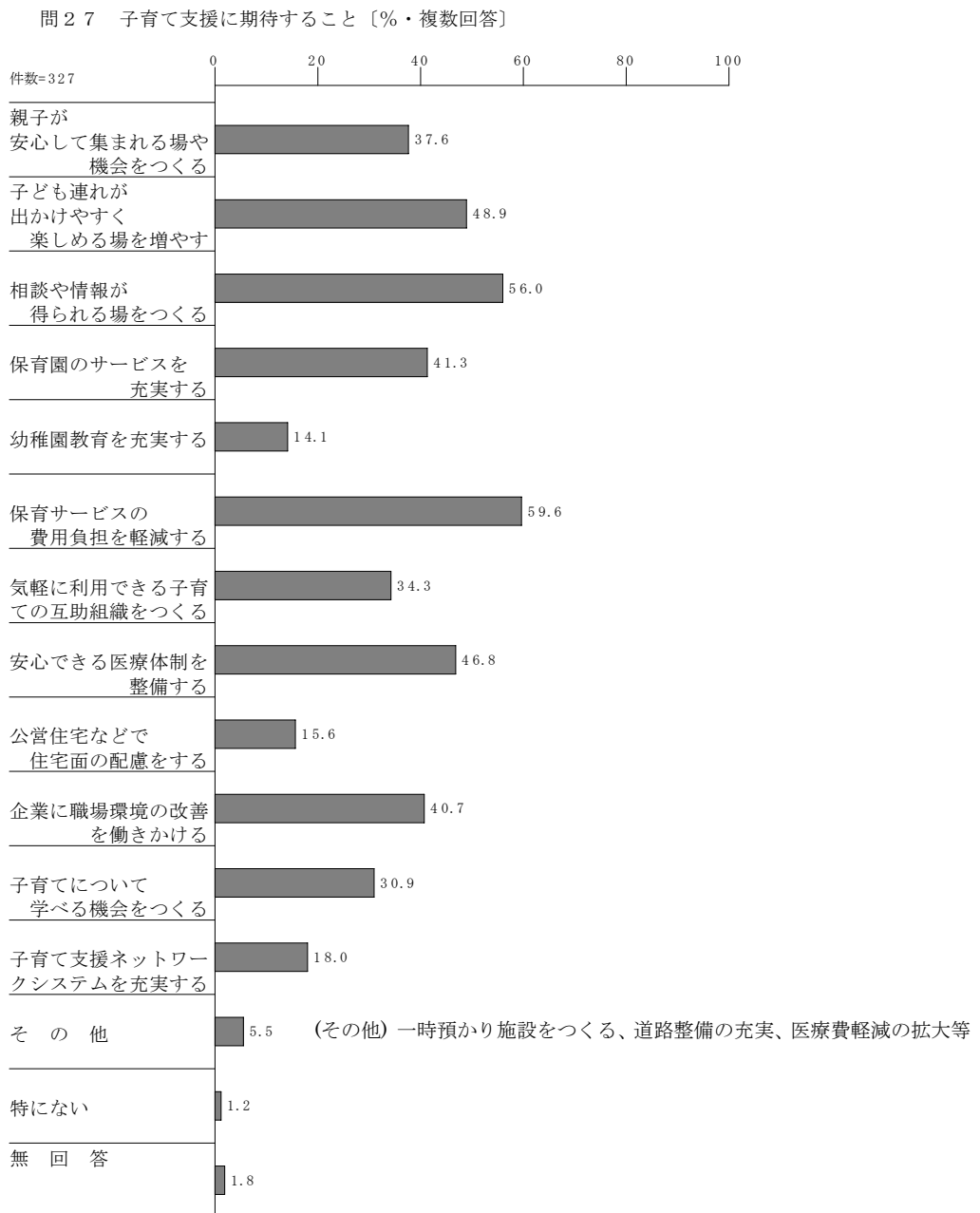
19～24歳は、地域の重要性について回答率が全般的に高く、「子どもが危険な目に遭いそうな場合に手助けする」と「育児などの悩みに相談に乗る」「緊急の用事の場合に一時的に子どもの世話をする」については、25～29歳の回答者に比べて大幅に回答が多い。子育て中の回答者は、「子どもの遊びや活動などに積極的に関わる」という回答が43%と多く、子どもをとりまく環境の変化を感じている回答者は、「育児などの悩みに相談に乗る」という回答が多い。

地域での自分の役割 ■ 「急用時の子どもの預かりや世話をする」と「急用時の幼稚園や保育園の送迎をする」がそれぞれ 27%、「遊びや文化活動の場に参加する」も 23%回答されている。一方、「思いつかない」という回答も 26%となっている。



地域の子育て支援で、緊急時の一時的な預かりが必要という回答者は、自分の役割についても、「急用時の子どもの預かりや世話をする」と「急用時の幼稚園や保育園の送迎をする」の回答率が高く、この2つの回答は女性が多く回答している。男性は、「クラブ活動やスポーツ団体の活動に協力する」という回答が30%と高い。

子育て支援に期待すること■「保育サービスの費用負担を軽減する」が60%、「相談や情報が得られる場をつくる」が56%と回答が多いが、子どもの保護者の回答とは相違している。その他では、「子ども連れが出かけやすく楽しめる場を増やす」が49%、「安心できる医療体制を整備する」が47%、「保育園のサービスを充実する」「企業に職場環境の改善を働きかける」が41%となっている。



大浜地区の回答者で、「親子が安心して集まれる場や機会をつくる」という回答が53%と高い。子育て中または経験がある回答者は、「保育サービスの費用負担を軽減する」と「子ども連れが出かけやすく楽しめる場を増やす」ことを多く回答しており、それぞれ76%、72%と高く、「親子が安心して集まれる場や機会をつくる」についても49%と高い回答率となっている。一方、子育て経験がない回答者と19～24歳の回答者では、「相談や情報が得られる場をつくる」という回答がそれぞれ60%を超えている。